耶穌降生千八百八十四年　米國聖書會

舊約聖書

耶利米亞記

明治十七年

日本横濱印行

02-KYU
海老澤文庫

耶利米亞記

第一章 一 これベニヤミンの地アナトテの祭司の一人なるヒルキヤの子エレミヤの言なり 二 アモンの子ユダの王ヨシヤの時すなはちその治世の十三年にエホバの言エレミヤに臨めり 三 その言またヨシヤの子ユダの王エホヤキムの時にものぞみてヨシヤの子ユダの王ゼデキヤの十一年のをはり即ちその年の五月エルサレムの民の移されたる時までにいたれり 四 エホバの言我にのぞみて云ふ 五 われ汝を腹につくらざりし先に汝をしり汝が胎をいでざりし先に汝を聖め汝をたてゝ萬國の預言者となせりと 六 我こたへけるは噫主エホバよ観よわれは幼少により語ることを知らず 七 エホバわれにいひたまひけるは汝己れは幼少といふ勿れすべて我汝を遣すところにゆき我汝に命ずるすべてのことを語るべし 八 なんぢ彼等の面を畏るゝ勿れ蓋われ汝と偕にありて汝

02-KYU
2600

SAINT PAUL'S UNIVERSITY LIBRARY TOKYO
海老澤有道文庫

をすくふべければなりとヱホバいひたまへり　九　ヱホバ遂にその手をのべて我口につけヱホバ我にいひたまひけるは視よわれ我言を汝の口にいれたり　十　みよ我けふ汝を萬民のうへと萬國のうへにたて汝をして或は拔き或は毀ち或は滅し或は覆し或は建て或は植しめん　十一　ヱホバの言また我に臨みていふヱレミヤよ汝何をみるや我こたへけるは巴旦杏の枝をみる　十二　ヱホバ我にいひたまひけるは汝善く見たりそはわれ速に我言をなさんとすればなり　十三　ヱホバの言ふたゝび我に臨みていふ汝何をみるや我こたへけるは沸騰たる鍑をみるその面は北より此方に向ふ　十四　ヱホバ我にいひたまひけるは災北よりおこりてこの地に住るすべての者にきたらん　十五　ヱホバいひたまひけるはわれ北の國々のすべての族をよばん彼等きたりてヱルサレムの門の入口とその周圍のすべての石垣およびユダのすべての邑々に向ひておの〳〵その座を設

けん　十六　われかれらの凡の惡事のために我鞫をかれらにつげん是はかれら我をすてゝ別の神に香を焚きおのれの手にて作りし物を拜するによる　十七　汝腰に帶して起ちわが汝に命ずるすべての事を彼等につげよその面を畏るゝ勿れ否らざれば我かれらの前に汝を辱かしめん　十八　視よわれ今日この全國とユダの王とその牧伯とその祭司とその地の民の前に汝を堅き城鐵の柱銅の牆となせり　十九　彼等なんぢと戰はんとするも汝に勝ざるべしそはわれ汝とともにありて汝をすくふべければなりとヱホバいひたまへり

第二章

一　ヱホバの言我にのぞみていふ　二　ゆきてヱルサレムに住る者の耳につげよヱホバ斯くいふ我汝につきて汝の若き時の懇切なんぢが契をなせしときの愛曠野なる種播ぬ地にて我に從ひしことを憶ゆ　三　イスラエルはヱホバに聖物にしてその初に結べる實なりすべて之を食ふものは罰せられ災におふべしとヱホ

バ云ひたまへり四ヤコブの家とイスラエルの家の諸の族よエホバの言をきけ五エホバかくいひたまふ汝等の先祖は我に何の悪事ありしを見て我に遠かり虚き物にしたがひて虚しくなりしや六かれらは我儕をエジプトの地より導きいだし曠野なる岩穴ある荒たる地旱きたる死の蔭の地人の過ぎざる地人の住まざる地を通らしめしエホバはいづこにあるといはざりき七われ汝等を導きて園のごとき地にいれ其實と佳物をくらはしめたり然ど汝等此處にいり我地を汚し我產業を憎むべきものとなせり八祭司はエホバは何處にいますといはず律法をあつかふ者は我を知らず牧者は我に背き預言者はバアルによりて預言し益なきものに從へり九故にわれ尚汝等とあらそはん且なんぢの子孫とあらそふべしとエホバいひたまふ十汝等キツテムの諸島にわたりて觀よまた使者をケダルにつかはし斯のごとき事あるや否を詳細に察

せしめよ十一その神を神にあらざる者に易たる國ありや然るに我民はその榮を益なき物にかへたり十二天よこの事を驚け慄けいたく怖れよとエホバいひたまふ十三蓋わが民はふたつの悪事をなせり即ち活る水の源なる我をすて自己水溜を掘れりすなはち壞れたる水溜にして水を有たざる者なり○十四イスラエルはしもべなるか家にうまれし僕なるかいかにして擄掠となれるや十五わかき獅子かれにむかひて哮えその聲をあげてその地を荒せりその諸邑は焚れて住む人なし十六ノフとタバネスの諸子も汝の頭首の髮をくらはん十七汝の神エホバは汝を途にみちびきたまへる時に汝これを棄たるによりて此事汝におよぶにあらずや十八汝ナイルの水を飲んとてエジプトの路にあるは何ゆゑぞまた河の水を飲んとてアッスリヤの路にあるは何故ぞ十九汝の悪は汝をこらしめ汝の背は汝をせめん斯く汝が汝の神エホバをすてたると我を畏るゝ

ことの汝の裏にあらざることは悪く且つ苦きことなるを汝見て知るべしと主なる萬軍のエホバいひ給ふ 二十 汝昔より汝の軛ををり汝の縛を截ちていひけるは我つかふることをせじと即ち汝すべての高山のうへと諸の青木の下に妓女のごとく身をかゞめたり 二一 われ汝を植て佳き葡萄の樹となし全き眞の種となせしにいかなれば汝われに向ひて異なる葡萄の樹の悪き枝にかはりしや 二二 たとひ嘈叮をもて自ら濯ひまたおほくの灰汁を加ふるも汝の悪はわが前に汚れなりと主エホバいひ給ふ 二三 汝いかで我は汚れずバアルに從はざりしといふことを得んや汝谷の中のおこなひを觀よ汝のなせしことを知れ汝は疾走るわかき牝の駱駝にしてその途にさまよへり 二四 汝は曠野になれたる野の牝驢馬なり其欲のために風にあへぐその欲のうごくときは誰かこれをとゞめえん凡てこれを尋る者は自ら勞するにおよばずその月の中に之にあ

ふべし 二五 汝足をつゝしみて跣足にならざるやうにし喉をつゝしみて渇かぬやうにせよしかるに汝いふ是徒然なり然りわれ異なる國の者を愛してこれに從ふなりと 二六 盗人の執へられて恥辱をうくるがごとくイスラエルの家恥辱をうく彼等その王その牧伯その祭司その預言者みな然り 二七 彼等木にむかひて汝は我父なりといひまた石にむかひて汝は我を生たりといふ彼等は背を我にむけて其面をわれに向けずされど彼等災にあふときは起てわれらを救ひ給へといふ 二八 汝がおのれの爲に造りし神はいづこにあるやもし汝が災にあふときかれら汝を救ふを得ば起つべきなりそれユダよ汝の神は汝の邑の數に同じければなり 二九 汝等なんぞ我とあらそふやなんぢらは皆我に背けりとエホバいひ給ふ 三十 我がなんぢらの衆子を打しは益なかりき彼等は懲治をうけず汝等の劍は猛き獅子のごとく汝等の預言者を滅せり 三一 なんぢらこ

の世の人よヱホバの言をきけ我はイスラエルのために曠野となりしや暗き地となりしや何故にわが民はわれら徘徊りて復汝に來らじといふや 三二 處女はその飾物を忘れんや新婦はかの帶をわすれんや然と我民の我を忘れたる日は數へがたし 三三 汝愛を得んとて如何に汝の途を美くする乎よさればなんぢの行はあしき事を爲すに慣たり 三四 また汝の裾に辜なき貧者の生命の血ありわれ盜人の穿たる所にて之を見ずしてすべて此等の上にこれを見る 三五 されど汝いふわれは辜なし故にその怒はかならず我に臨まじとみよ汝われ罪を犯さゞりしといふにより我汝とあらそふべし 三六 なんぢ何故にその途を易んとて迅くはしるや汝アッスリヤに恥辱をうけしごとくエジプトにも亦恥辱をうけん 三七 汝兩手を頭に置てかしこよりも出去らんそはヱホバ汝のたのむところの者を棄れば汝彼等によりて望を遂ること無るべければなり

第三章

一 世にいへるあり人もしその妻をいださんに去りゆきてほかの人の妻とならば其夫ふたゝび彼に歸るべけんやさすれば其地はおほいに汚されんや汝はおほくの者と姦淫を行へりされど汝われに皈れよとヱホバいひ給ふ 二 汝目をあげてもろ〳〵の禿山をみよ姦淫を行はざる所はいづこにあるや汝は曠野にをるアラビヤ人の爲すがごとく路に坐して人をまてり汝は姦淫と惡をもて此地を汚せり 三 この故に雨はとゞめられ春の雨はふらざりし然れと汝娼妓の額あれば敢て恥ず 四 汝いまより我を呼ていはさらんや我父よ汝はわが少時の交友なり 五 窮なくその怒を含まんや恒に之を存たんやと視よ汝はかくいへと力をきはめて惡を爲すなり ○ 六 ヨシヤ王のときヱホバまた我にいひ給ひけるは汝そむけるイスラエルのなせしことを見しや彼はすべての高山にのぼりすべての青木の下にゆきて其處に姦淫を行へり 七 彼

らのすべての事を爲せしのち我かれに汝われに歸れと言しかどもわれに歸へらざりき其悖れる姉妹なるユダ之を見たり 八 我に背けるイスラエル姦淫をなせしにより我かれを出して離緣狀をあたへたれどその悖れる姉妹なるユダは懼れずして往て姦淫を行ふ我かれを見る 九 また其姦淫の噪をもてこの地を汚し且つ石と木とに姦淫を行へり 十 此諸の事あるも仍其悖れる姉妹なるユダは眞心をもて我にかへらず偽はれるのみとヱホバいひたまふ 十一 ヱホバまた我にいひたまひけるは背けるイスラエルは悖れるユダよりも自己を義とす 十二 汝ゆきて北にむかひ此言を宣ていふべしヱホバいひたまふ背けるイスラエルよ歸れわれ怒の面を汝らにむけじわれは矜恤ある者なり怒を限なく含みをることあらじとヱホバいひたまふ 十三 汝たゞ汝の罪を認はせそは汝の神ヱホバにそむき經めぐりてすべての靑木の下にて異邦人にゆき汝等わが聲をきかざればなりとヱホバいひ給ふ 十四 ヱホバいひたまふ背ける衆子よ我にかへれそはわれ汝等を娶ればなりわれ邑より一人支派より二人を取りて汝等をシオンにつれゆかん 十五 われ我心に合ふ牧者を汝等にあたへん彼等は知識と明哲をもて汝等を養ふべし 十六 ヱホバいひたまふ汝等地に增して多くならんときは人々復ヱホバの契約の櫃といはず之を想ひいでず之を憶えずこれを尋ねずこれを作らざるべし 十七 その時エルサレムはヱホバの座位と稱へられ萬國の民みなに集るべし即ちヱホバの名によりてエルサレムに集り重て其惡き心の剛愎なるにしたがひて行まざるべし 十八 その時ユダの家はイスラエルの家とゝもに行きて北の地よりいでて我なんぢらの先祖たちに與へて嗣しめし地に偕にきたるべし 十九 我いへり嗚呼われいかにして汝を諸子の中に置き萬國の中にて最も美き產業なる此美地を汝にあたへんと我また

いへり汝われを我父とよび亦我を離れざるべしと 二十 然るにイスラエルの家よ妻の誓に違てその夫を棄るがごとく汝等われに背けりとエホバいひたまふ 二一 聲山のうへに聞ゆ是はイスラエルの民の悲み祈るなり蓋彼等まがれる途にあゆみ其神エホバを忘れたるなり 二二 背ける諸子よ我に歸れわれ汝の退違をいやさん視よ我儕なんぢに到る汝はわれらの神エホバなればなり 二三 信に諸の岡とおほくの山に救を望はいたづらなり誠にイスラエルの救はわれらの神エホバにあり 二四 羞恥はわれらの幼時より我儕の先祖の產業すなはち其多の羊とそのおほくの牛および其子らの女を呑尽せり 二五 われらは羞恥に臥し我らは恥辱に覆はるべしそは我儕とわれらの列祖は我らの幼時より今日にいたるまで罪をわれらの神エホバに犯し我儕の神エホバの聲に遵はざればなり

第四章

一 エホバいひたまふイスラエルよ汝もし歸らば我に歸れ汝もし憎むべき者を我前より除かば流蕩はじ 二 かつ汝は眞實と正直と公義とをもてエホバは活くと誓はんさらば萬國の民は彼によりて福祉をうけ彼によりて誇るべし 三 エホバ、ユダとエルサレムの人々にかくいひたまふ汝等は新田を耕せ荊棘の中に種くなかれ 四 ユダの人々とエルサレムに住める者よ汝等みづから割禮をおこなひてエホバに屬きおのれの心の前の皮を去れ然らざれば汝等の惡行のためわが怒火の如くに發して燃えんこれを滅すものなかるべし○ 五 汝等ユダに告げエルサレムに示していへ箛を國の中に吹けとまた大聲に呼はりていへ汝等あつまれ我儕堅き邑にゆくべしと 六 シオンに指示す合圖の旗をたてよ遁よ留る勿れそは我北より災とおほいなる敗壞をきたらすればなり 七 獅子は其森よりいでゝ上り國々を滅すものは進みきたる彼汝の國を荒さんとて既にその處よりいでたり汝の諸邑は滅されて住

む者なきに至らん　八　この故に汝等麻の衣を身にまとひて悲み哭けそはエホバの烈き怒いまだ我儕を離れざればなり　九　エホバいひたまひけるはその日王と牧伯等はその心をうしなひ祭司は驚き預言者は異むべし　十　我いひけるは嗚呼主エホバよ汝はまことに此民とエルサレムを大いにあざむきたまふすなはち汝はなんぢら安かるべしと云給ひしに劍命にまでおよべり　十一　その時この民とエルサレムにいふものあらん熱き風曠野の童山よりわが民の女にふききたる是は簸るためにあらず潔むる爲にもあらざるなり　十二　これよりも猶はげしき風われより來らん今我かれらに鞫を示さん　十三　みよ彼は雲のごとく上りきたらん其車は颶風のごとくにしてその馬は鷹よりも疾し嗚呼われらは禍なるかな我儕滅さるべし　十四　エルサレムよ汝の心の惡をあらひ潔めよ然ばすくはれん汝の惡き念いつまで汝のうちにあるや　十五　ダンより告ぐる

聲ありエフライムの山より災を知するあり　十六　なんぢら國々の民に告げまたエルサレムに知らせよ攻めかこむ者遠き國より來りユダの諸邑にむかひて其聲を揚ぐと　十七　彼らは田圃をまもる者のごとくにこれを圍むこは我に從はざりしに由るとエホバいひ給ふ　十八　汝の途と汝の行これを汝に招けりこれは汝の惡なり誠に苦くして汝の心におよぶ　○　十九　嗚呼わが腸よ我腸よ痛苦心の底におよびわが心胸とゞろくわれ默しがたし我靈魂よ汝箛の聲と軍の鬨をきくなり　二十　敗滅に敗滅のしらせありこの地は皆荒されわが幕屋は頃刻にやぶられ我幕は忽ち破られたり　二十一　我が旗をみ箛の聲をきくは何時までぞや　二十二　それ我民は愚にして我を識らず拙き子等にして曉ることなし彼らは惡を行ふに智けれども善を行ふことを知らず　二十三　われ地を見るに形なくして空くあり天を仰ぐに其處に光なし　二十四　我山を見るに皆震へまた諸の丘も動けり　二十五　我みるに

人あることなし天空の鳥も皆飛されり 二六 我みるに肥美なる地は沙漠となり且その諸の邑はエホバの前にその烈しき怒の前に毀たれたり 二七 そはエホバかくいひたまへりすべて此地は荒地とならんされど我こと〴〵くは之を滅さじ 二八 故に地は皆哀しみ上なる天は暗くならん我すでに之をいひ且これを定めて悔いずまた之をなす事を止ざるなり 二九 邑の人みな騎兵と射者の喊聲のために逃て叢林にいり又岩の上に升れり邑はみな棄られて其處に住む人なし 三十 滅されたる者よ汝何をなさんとするや設令汝くれなゐの衣をき金の飾物をもて身を粧ひ目をぬりて大くするとも汝の身を粧ふはいたづらなり汝の戀人らは汝をいやしめ汝のいのちを索るなり 三一 われ子をうむ婦のごとき聲首子をうむ者の苦むがごとき聲を聞く是はシオンの女の聲なりかれ自ら歎き手をのべていふ嗚呼われは禍なるかな我靈魂殺す者のために疲れはてぬ

第五章

一 汝等エルサレムの邑をめぐりて視且つ察りその街を尋よ汝等もし一人の公義を行ひ眞理を求る者に逢ばわれ之（エルサレム）を赦すべし 二 彼らエホバは活くといふとも實は僞りて誓ふなり 三 エホバよ汝の目は誠實を顧るにあらずや汝彼らを撻ともかれら痛苦をおぼえず彼等を滅せどもかれら懲治をうけず其面を磐よりも硬くして歸ることを拒めり 四 故に我いひけるは此輩は惟いやしき愚なる者なればエホバの途と其神の鞫を知ざるなり 五 われ貴人にゆきて之に語らんかれらはエホバの途とその神の鞫を知るなり然に彼らも皆軛を折り綱を斷りたり 六 故に林よりいづる獅子は彼らを殺しアラバの狼はかれらを滅し豹はその邑をねらふ此處よりいづる者は皆裂るべしそは其罪おほくその背違はなはだしければなり 七 我なに故に汝をゆるすべきや汝の諸

子われを棄て神にあらざる神を指して誓ふ我すでに彼らを饜かせたれど彼ら姦淫して娼妓の家に群集る 八 彼らは肥たる牡馬のごとくに行めぐりおの〳〵嘶きて隣の妻を慕ふ 九 エホバいひたまふ我これらの事のために彼らを罰せざらんや我心はかくの如き民に仇を復さざらんや 十 汝等その石垣にのぼりて滅せされど悉くこれを滅す勿れその枝を截除けエホバのものに有ざればなり 十一 イスラエルの家とユダの家と大に我に悖るなりとエホバいひたまふ 十二 彼等はエホバを認ずしていふエホバはある者にあらず災われらに来らじ我儕剣と饑饉をも見ざるべし 十三 預言者は風となり言はかれらの裏にあらず斯彼らになるべしと 十四 故に萬軍の神エホバかくいひたまふ汝等この言を語により視よわれ汝の口にある我言を火となし此民を薪となさんその火彼らを焚盡すべし 十五 エホバいひ給ふイスラエルの家よみよ我遠き國人をなんぢらに来らしめん其國は強くまた古き國なり汝等その言をしらず其語ることをも暁らざるなり 十六 その箙は啓きたる墓のごとし彼らはみな勇士なり 十七 彼らは汝の穡れたる物と汝の糧食を食ひ汝の子女を食ひ汝の羊と牛を食ひ汝の葡萄の樹と無花果の樹を食ひまた剣をもて汝の頼むところの堅き邑を滅さん 十八 されど其時われこと〴〵くは汝を滅さじとエホバいひたまふ ○ 十九 汝等何ゆゑにわれらの神エホバ此等の諸のことを我儕になしたまふやといはゞ汝かれらに答ふべし汝ら我をすてなんぢらの地に於て異なる神に奉へしごとく汝らのものにあらざる地に於て異邦人につかふべしと 二十 汝これをヤコブの家にのべまたこれをユダに示していへ 二十一 愚にして了知なく目あれども見えず耳あれども聞えざる民よこれをきけ 二十二 エホバいひたまふ汝等われを畏れざるか我前に戦慄かざるか我は沙を置て海の界となしこれを永遠の

限界となし踰ることをえざらしむ其浪さかまきいたるも勝ことあたはず澎湃もこれを踰るあたはざるなり 二三 然るにこの民は背き且悖れる心あり既に背きて去れり 二四 彼らはまた我儕に雨をあたへて秋の雨と春の雨を時にしたがひて下し我儕のために收穫の時節を定めたまへる我神ヱホバを畏るべしと其心にいはざるなり○二五 汝等の愆これらの事を退け汝等の罪は嘉物を汝らに來らしめざりき 二六 我民のうちに惡者あり網を張る者のごとくに身をこゞめてうかゞひ罟を置て人をとらふ 二七 樊籠に鳥の盈るがごとく不義の財彼らの家に充つこの故に彼らは大なる者となり富る者となる 二八 彼らは肥て光澤あり其惡き行は甚し彼らは訟をたゞさず孤の訟を糺さずして利達をえ亦貧者の訴を審かず 二九 ヱホバいひ給ふわれかくのごときことを罰せざらんや我心は是のごとき民に仇を復さざらんや○三十 この地に驚くべき事と憎むべきこと行はる 三一 預言者は僞りて預言をなし祭司は彼らの手によりて治め我民は斯る事を愛すされど汝等その終に何をなさんとするや

第六章

一 ベニヤミンの子等よヱルサレムの中より逃れテコアに箛をふきベテハケレムに合圖の火をあげよそは北より災と大なる敗壞のぞめるなり 二 われ美き窈窕なるシオンの女を滅さん 三 牧者は其群を牽て此處にきたりその周圍に天幕をはらん群はおの〱その處にて草を食はん 四 汝ら戰端を開きて之を攻べし起よわれら日午にのぼらん嗚呼惜かな日ははや昃き夕日の影長くなれり 五 起よわれら夜の間にのぼりてその諸の殿舍を毀たん 六 萬軍のヱホバかくいひたまへり汝ら樹をきりヱルサレムに向ひて壘を築けかれは罰すべき邑なりその中には唯暴逆のみあり 七 源の水をいだすがごとく彼その惡を流すその中に暴逆と威虐き

こゆ我前に憂と傷たえず八エルサレムよ汝訓戒をうけよ然らざれば我心汝をはなれ汝を荒蕪となし住む人なき地となさん○九萬軍のエホバかくいひたまふ彼らは葡萄の遺餘を摘みとるごとくイスラエルの遺れる者を摘とらん汝葡萄を摘取者のごとく屢手を筐に入るべし十我たれに語り誰を警めてきかしめんや視よその耳は割禮をうけざるによりて聽えず彼らはエホバの言を嘲けりなきを悦ばず十一エホバの怒わが身に充つわれ忍ぶに倦むこれを衢街にある童子と集れる年少者とに灌すべし夫も婦も老たる者も年邁し者も執へらるゝにいたらん十二その家と田地と妻はともに他人にわたらん其はわれ手を擧てこの地に住る者を擊ばなりとエホバいひたまふ十三夫彼らは少さき者より大なる者にいたるまで皆貪婪者なり又預言者より祭司にいたるまで皆詭詐をなす者なればなり十四かれら淺く我民の女の傷を醫し平康から

ざる時に平康平康といへり十五彼らは憎むべき事を爲て恥辱をうくれども毫も恥ずまた愧を知らずこの故に彼らは仆るゝ者と偕にたふれん我來るとき彼ら躓かんとエホバいひたまふ○十六エホバかくいひたまふ汝ら途に立て見古き徑に就て何か善道なるを尋ねて其途に行めさらば汝らの靈魂安を得ん然ど彼らはこたへて我儕はそれに行まじといふ十七我また汝らの上に守望者をたて鈸の聲をきけといへり然ど彼等はこたへて我等は聞じといふ十八故に萬國の民よきけ會衆よかれらの遇ところを知れ十九地よきけわれ災をこの民にくださんこは彼らの思の結ぶ果なりかれら我言をわが律法をきかずして之を棄るによる二十シバより我許に乳香きたり遠き國より菖蒲きたるは何のためぞや汝らの燔祭をよろこばず汝らの犧牲を甘しとせず二十一故にエホバかくいひたまふみよ我この民の前に躓礙をおく父と子とそれに躓き隣人とそ

の友皆に滅ぶべし 二二 ヱホバかくいひたまふみよ民北の國よりきたる大なる民地の極より起る 二三 彼らは弓と槍をとる殘忍にして憫なしその聲は海の如く鳴るシオンの女よかれら馬に乗り軍人のごとく身をよろひて汝を攻めん 二四 我儕その風聲をきゝたれば我等の手弱り子をうむ婦のごとき苦痛と劬勞われらに迫る 二五 なんぢら田地に出る勿れまた路に行むなかれ敵の劍と畏怖四方にあればなり 二六 我民の女よ麻衣を身にまとひ灰のうちにまろび獨子を喪ひしごとくに哀みていたく哭けそは滅者突然に我らに來るべければなり 〇 二七 われ汝を民のうちに立て金を驗る者のごとくなし又城のごとくなす汝は汝をしてその途を知しめまた試みしめんためなり 二八 彼らは皆いたく悖れる者なり歩行て人を誹る者なり彼らは銅のごとく鐵のごとし皆邪なる者なり 二九 韛は火に焼け鉛はつき鎔匠はいたづらに鎔す惡者いまだ除かれざればなり 三十 ヱホバ彼らを棄たまふによりて彼等は棄られたる銀と呼ばれん

第七章

一 ヱホバよりエレミヤにのぞめる言云ふ 二 汝ヱホバの室の門にたち其處にてこの言を宣て言へヱホバを拜まんとてこの門にいりしユダのすべての人よヱホバの言をきけ 三 萬軍のヱホバイスラエルの神かくいひたまふ汝らの途と汝らの行を改めよさらばわれ汝等をこの地に住しめん 四 汝ら是ヱホバの殿なりヱホバの殿なりヱホバの殿なりと云ふ僞の言をたのむ勿れ 五 汝らもし全くその途と行を改め人と人との間を正く鞫き 六 異邦人と孤兒と寡を虐げず無辜者の血をこの處に流さず他の神に從ひて害をまねかずば 七 我なんぢらを我汝等の先祖にあたへしこの地に永遠より永遠にいたるまで住しむべし 〇 八 みよ汝らは益なき僞の言を賴む 九 汝等は盗み殺し姦淫し妄りて誓ひバアルに香を焚き

汝らがしらざる他の神にしたがふなれども十我名をもて稱へらるゝこの室にきたりて我前にたち我らはこれらの憎むべきことを行ふとも救はるゝなりといふこと何にぞや十一わが名をもて稱へらるゝ此室は汝らの目には盗賊の巣と見ゆるや我も之をみたりとエホバいひたまふ十二汝等わが初めシロに於て我名を置し處にゆき我がイスラエルの民の惡のために其處になせしところのことをみよ十三エホバいひたまふ今汝ら此等のすべての事をなす又われ汝らに語り頻にかたりたれども聽ず汝らを呼びたれども答へざりき十四この故に我シロになせしごとく我名をもて稱へらるゝ此室になさんすなはち汝等が賴むところ我なんぢらと汝らの先祖にあたへし此處になすべし十五またわれ汝等のすべての兄弟すなはちエフライムのすべての裔を棄しごとく我前より汝らをも棄つべし十六故に汝この民のために祈る勿れ彼らの爲に歎くなか

き求むるなかれ又我にとりなしをなす勿れわれ汝にきかじ○十七汝かれらがユダの邑とエルサレムの街になすところを見ざるか十八諸子は薪を拾め父は火を燃き婦は麪を摶ねパンをつくりて之を天后にそなふ又かれら他の神の前に酒をそゝぎて我を怒らす十九エホバいひたまふ彼ら我を怒らするか是おのが面を辱むるにあらずや二十是故に主エホバかくいひたまふ視よわが震怒とわが憤怒はこの處と人と獣と野の樹および地の果にそゝがん且燃て滅ざるべし○二十一萬軍のエホバイスラエルの神かくいひたまふ汝らの犠牲に燔祭の物をあはせて肉をくらへ二十二そはわれ汝等の先祖をエジプトより導きいだせし日に燔祭と犠牲とに就てかたりしことなく又命ぜしことなし二十三惟われこの事を彼等に命じ汝ら我聲を聽ばわれ汝らの神となり汝ら我民とならん且我汝らに命ぜしすべての道を行みて福祉をうべしといへり、二十四されど彼ら

はきかず其耳を傾けずおのおの惡き心の謀と剛愎なるとにしたがひて行みまた後を我にむけて其面を向けざりき 二五 汝らの先祖がエジプトの地をいでし日より今日にいたるまでわれ我僕なる預言者を汝らにつかはし日々晨よりこれをつかはせり 二六 されど彼らは我にきかず耳を傾けずして其項を強くしその列祖よりも愈りて惡をなせり 二七 汝彼らに此等のすべてのことばを語るとも汝にきかずかれらを呼ぶとも汝にこたへざるべし 二八 汝かく彼らに語れこれは其神エホバの聲を聽ずその訓を受ざる民なり眞實はうせてその口に絶たり ○ 二九（シオンの女よ）汝の髮を剪りてこれを棄て山のうへに哀哭の聲をあげよエホバその怒るところの世の人をすてゝこれを離れたまへばなり 三十 エホバいひたまふユダの民は我前に惡を行へり即ちその憎むべき者を我名をもて稱へらるゝ室に置てこれを汚せり 三一 又ベンヒンノムの谷に於てトペテの崇邱を築きてその男女を火に焚んとせり我これを命ぜずまた斯ることを思はざりし 三二 エホバいひたまふ然ば視よ此處をトペテまたはベンヒンノムの谷と稱へずして殺戮の谷と稱ふる日きたらん其は葬るべき地所なきまでにトペテに葬るべければなり 三三 この民の屍は天空の鳥と地の獸の食物とならんこれを逐ふものなかるべし 三四 その時われユダの邑とエルサレムの衢に欣喜の聲歡樂の聲新郎の聲新婦の聲なからしむべしこれ地荒蕪となるなり

第八章

一 エホバいひたまふその時人ユダの王等の骨とその牧伯等の骨と祭司の骨と預言者の骨とエルサレムの民の骨をその墓よりほりいだし 二 彼等の愛し事へ從ひ求め且祭れるところの日と月と天の衆群の前にこれを曝すべし其骨はあつむる者なく葬る者なくして糞土のごとくに地の面にあらん 三 この惡き民の中

ののこれる餘遺の者すべてわが逐やりしところに餘れる者皆生るよりも死ぬることを願んと萬軍のヱホバ云たまふ○四汝また彼らにヱホバかくいふと語るべし人もし仆るれば起きかへるにあらずやもし離るれば歸り來るにあらずや五何故にヱルサレムにをる此民は恒にわれを離れて歸へらざるや彼らは詐偽をかたく執て歸ることを否めり六己れ耳を側て聽に彼らは善ことをいはず一人もその惡を悔いて己がなせし事は何ぞやといふ者なし彼らは皆戰場に馳入る馬のごとくにその途に歸へるなり七天空の鶴はその定期を知り班鳩と燕と鴈はそのきたる時を守るされど我民はヱホバの法律をしらざるなり八汝いかで我ら智慧ありわれらにはヱホバの律法ありといふことをえんや視よまことに書記の偽の筆之を偽とせり九智慧ある者は辱しめられまたあわてゝ執へらる視よ彼等ヱホバの言を棄たり彼ら何の智慧あらんや十

故にわれその妻を他人にあたへ其田圃を他人に嗣しめん彼らは小さき者より大なる者にいたるまで皆貪婪者また預言者より祭司にいたるまで皆詭詐をなす者なればなり十一彼ら我民の女の傷を淺く醫し平康からざる時に平康平康といへり十二彼ら憎むべき事をなして恥辱らる然れど毫も恥ずまた恥を知らずこの故に彼らは仆るゝ者と偕に仆れんわが彼らを罰するときかれら躓くべしとヱホバいひたまふ○十三ヱホバいひたまふ我彼らをこと〲く滅さん葡萄の樹に葡萄なく無花果の樹に無花果なしその葉も槁れたり故にわれ殲滅者を彼らにつかはす十四我ら何ぞ此にとゞまるやあつまれよ我ら堅き城邑にゆきて其處に滅ん我儕ヱホバに罪を犯せしによりて我らの神ヱホバ我らを滅し毒なる水を飲せたまへばなり十五われら平康を望めども善ことの來らず慰めらるゝ時を望むにかへつて恐懼きたる十六その馬の嘶はダンよりきこ

えその地みなその強き馬の聲によりて震ふ彼らきたりて此地とその上にある者および邑とその中に住る者を食ふ 十七 視よわれ呪詛のきかざる蛇蝮を汝らのうちに遣さん是汝らを嚙べしとエホバいひたまふ○ 十八 嗚呼われ憂ふいかにして慰籍をえんや我裏の心惱む 十九 みよ遠き國より我民の女の聲ありていふエホバはシオンに在さゞるか其王はその中に在さゞるかと（エホバいひたまふ）彼らは何故にその偶像と異邦の虛き物をもて我を怒らせしやと 二十 收穫の時は過ぎ夏もはや畢りぬされど我らはいまだ救はれずと 二一 我民の女は傷によりて我も傷み且悲しむ恐懼我に迫れり 二二 ギレアデに乳香あるにあらずや彼處に醫者あるにあらずやいかにして我民の女はいやされざるや

第九章

一 あゝ我わが首を水となし我目を淚の泉となすことをえんものを我民の女の殺されたる者の爲に晝夜哭かん 二 嗚呼己れ曠野に旅人の寓所をえんものを我民を離れてさりゆかん彼らはみな姦淫するもの悖れる者の族なればなり 三 彼らは弓を援くがごとく其舌をもて僞をいだす彼らは此地において眞實のために強からず惡より惡にすゝみまた我を知ざるなりとエホバいひたまふ 四 汝らおの〱其隣に心せよ何の兄弟をも信ずる勿れ兄弟はみな欺きをなし隣はみな讒りまはればなり 五 彼らはおの〱其隣を欺きかつ眞實をいはず其舌に謊をかたることを敎へ惡をなすに勞る 六 汝の住居は詭譎の中にあり彼らは詭譎のために我を識ことをいなめりとエホバいひたまふ 七 故に萬軍のエホバかくいひたまへり視よ我かれらを鎔し試むべしわれ我民の女の事を如何になすべきや 八 彼らの舌は殺す矢のごとしかれら詭をいふまた其口をもて隣におだやかにかたれども其心の中には害をはかるなり 九 エホバいひたまふ我これらの事のために彼らを罰

せざらんや○十われ山のために泣き叫び野の牧場のために悲むこれらは焚れて過る人なしまたこゝに牛羊の聲をきかず天空の鳥も獸も皆逃てさりぬ十一われエルサレムを邱墟とし山犬の巣となさんまたユダの諸の邑々を荒して住む人なからしめん十二智慧ありてこの事を曉る人は誰ぞやエホバの口の言を受てこれを示さん者は誰ぞやこの地滅されまた野のごとく焚れて過る者なきにいたりしは何故ぞや十三エホバいひたまふ是彼ら我その前に立しところの律法をすて我聲をきかず之に從はざるによりてなり十四彼らはその心の剛愎なるところの列祖たちがおのれに教へしバアルとに從へり十五故に萬軍のエホバイスラエルの神かくいひたまふ視よわれ彼等すなはち斯民に茵蔯を食せ毒なる水を飲せ十六彼らもその先祖たちもしらざりし國人のうちに彼らを散しまた彼らを滅し盡すまで其後に劍をつかはさん○十七萬軍のエホバかくいひたまふ汝らよく考へ哭婦をよびきたれ又人を遣して智き婦をまねけよ十八彼ら速にきたりて我儕のために哭哀して我儕の目に涙をおとさせ我儕の目蓋より水を溢れしめん十九シオンより哀の聲きこゆ云く嗚呼われら滅され我ら痛く辱めらる我らは其地を去り彼らはわが住家を毀ちたり二十婦たちよエホバの言をきけ汝らの耳に其口の言をいれよ汝らの女に哭ことを教へおの〳〵その隣に哀の歌を教ふべし二十一そは死のぼりてわれらの窓よりいり我らの殿舍に入り外にある諸子を絶し街にある壯年を殺さんとすればなり二十二エホバかくいへりと汝云ふべし人の屍は糞土のごとく田野に墮ちんまた收獲者のうしろに殘りて斂めずにある把のごとくならんと○二十三エホバかくいひたまふ智慧ある者はその智慧に誇る勿れ力ある者は其力に誇るなかれ富者はその富に誇ること勿れ

二四 誇る者はこれをもて誇るべし即ち明哲して我を識る事とわがヱホバにして地に仁惠と公道と公義とを行ふ者なるを知る事是なり我これらを悦ぶなりとヱホバいひたまふ 二五 ヱホバいひたまひけるは視よわれすべて陽の皮に割禮をうけたる者すなはち 二六 ヱジプトとユダとエドムとアンモンの子孫とモアブと野にをりてその鬚を剃る者とを罰する日きたらんそはすべて異邦人は割禮をうけずまたイスラエルの家も心に割禮をうけざればなり

第十章

一 イスラエルの家よヱホバの汝らに語たまふ言をきけ 二 ヱホバかくいひたまふ汝ら異邦人の途に效ふ勿れ異邦人は天にあらはるゝ徴を懼るゝとも汝らはこれを懼るゝ勿れ 三 異邦人の風俗はむなしその崇むる者は林より斫たる木にして木匠の手に斧をもて作りし者なり 四 彼らは銀と金をもてこれを飾り釘と鎚をもて之を堅めて搖動かさらしむ 五 こは圓き柱のごとくにして言はずまた歩むこと能はざるによりて人にたづさへらる是は災害をくだし亦は福祉をくだすの權なきによりて汝らこれを畏るゝ勿れ ○ 六 ヱホバよ汝に比ふべき者なし汝は大なり汝の名はその權威のために大なり 七 汝萬國の王たる者よ誰か汝を畏れざるべきや汝を畏るゝは當然なりそは萬國のすべての博士たちのうちにもその諸國のうちにも汝に比ふべき者なければなり 八 彼らはみな獸のごとくまた痴愚なり虚き者の敎は惟木のみ 九 タルシシより携へ來し銀箔ウパズより携へ來し金は鍛冶と鑄匠の作りし物なり青と紫をその衣となす是はすべて巧なる細工人の工作なり 十 ヱホバは眞の神なり彼は活る神なり永遠の王なり其怒によりて地は震ふ萬國はその憤怒にあたること能はず 十一 汝等かく彼らにいふべし天地を造らざりし諸神は地の上よりこの天の下より失さらんと 十二 ヱホバはその能をもて地をつくり其智慧をも

て世界を建てその明哲をもて天を舒べたまへり 十三 かれ聲をいだせば天に衆の水なりかれ雲を地の極よりいだし電と雨をおこし風をその府庫よりいだす 十四 すべての人は獸の如くにして智なしすべての鑄匠はその作りし像のため耻辱をとる其鑄るところの像は僞物にしてその中に靈魂なければなり 十五 是らは虚き者にして迷妄の工作なりその罰せらるゝときに滅ぶべし 十六 ヤコブの分は是のごとくならず彼は萬物の造化主なりイスラエルはその產業の杖なりその名は萬軍のヱホバといふなり○ 十七 圍の中に坐する者よ汝の包を地より取りあげよ 十八 ヱホバかくいひたまふみよ我この地にすめる者を此度擲たん且かれらをせめなやまして擄へられしむべし 十九 己れ傷をうく嗚呼われは禍なるかな我傷は重し我いふこれまことに己が患難なりわれ之を忍ぶべし 二十 己が幕屋はやぶれわが繩索は悉く斷れ我衆子は我をすてゆきて居ずな

りぬ幕屋を張る者なくわが幃をかくる者なし 二一 牧者は愚にしてヱホバを求めず故に利達ずその群はみな散り 二二 きけよ風聲あり北の國より大なる騷きたる是ユダの諸邑を荒して山犬の巢となさん○ 二三 ヱホバよわれ知る人の途は自己によらず且步行む人は自らその步履を定むること能はざるなり 二四 ヱホバよ我を懲したまへ但道にしたがひ怒らずして懲したまへおそらくは我無に歸せん 二五 汝を知ざる國人と汝の名を龥ざる族に汝の怒を斟ぎたまへ彼らはヤコブを噬ひ之をくらふて滅しその牧場を荒したればなり

第十一章

一 ヱホバよりヱレミヤにのぞめる言いふ 二 汝らこの契約の言をきゝユダの人とヱルサレムにすめる者に告よ 三 汝かれらに語れイスラエルの神ヱホバかくいひたまふこの契約の言に遵はざる人は詛はる 四 この契約はわが汝らの先祖をエジプトの

地鐵の爐の中より導き出せし日にかれらに命ぜしものなり即ち我いひけらくなんぢら我聲をきゝ我汝らに命ぜし諸の事に從ひて行はゞ汝らは我民となり我は汝らの神とならん　五　われ汝らの先祖に乳と蜜の流るゝ地を與へんと誓ひしことを成就んと即ち今日のごとしその時我こたへてアーメンエホバといへり　六　またエホバ我にいひたまひけるは汝すべて此等の言をユダの諸邑とエルサレムの衢にしめし汝ら此契約の言をきゝてこれを行へといふべし　七　われ汝らの列祖をエジプトの地より導出せし日より今日にいたるまで切に彼らを戒め頻に戒めて汝ら我聲に遵へといへり　八　然ど彼らは遵はずその耳を傾けずおの〳〵其惡き心の剛愎なるにしたがひて歩めり故にわれ此契約の言を彼等にきたらす是はわがかれらに之を行へと命ぜしかども彼等がおこなはざりし者なり　九　またエホバ我にいひたまひけるはユダの人々と

エルサレムに住る者の中に叛逆の事あり　十　彼らは我言をきくことを好まざりしところのその先祖の罪にかへり亦他の神に從ひて之に奉へたりイスラエルの家とユダの家はわがその列祖たちと締たる契約をやぶりたり　十一　これ故にエホバかくいひたまふみよわれ災禍をかれらにくださん彼らはこれを免かるゝことをえざるべし彼らわれをよぶとも我聽じ　十二　ユダの邑とエルサレムに住る者はゆきてその香を焚し神を龥んされど是等はその災禍の時に絶てかれらを救ふことあらじ　十三　ユダよ汝の神は汝の邑の數のごとし且汝らエルサレムの衢の數にしたがひて恥べき者に壇をたてたり即ちバアルに香を焚んとて壇をたつ　十四　故に汝この民の爲に祈る勿れ又その爲に泣きあるひは求る勿れ彼らがその災禍のために我を呼ときわれ彼らに聽ざるべし　十五　わが愛する者は我室にて何をなすや惡き謀をなすや願と聖き肉汝に災を脱れしむ

るやもし然らば汝よろこぶべし 十六 エホバ汝の名を嘉果ある美しき青橄欖の樹と稱たまひしがおほいなる喧嘩の聲をもて之に火をつけ且その枝を折りたまふ 十七 汝を植し萬軍のエホバ汝の災をさだめたまへりこはイスラエルの家とユダの家みづから害ふの惡をなしたるによるなり即ちバアルに香を焚きてわれを怒らせたり 十八 エホバ我に知せたまひければ我これを知るその時なんぢ彼らの作爲を我にしめしたまへり 十九 我は牽れて宰られにゆく羔のごとく彼らが我をそこなはんとて謀をなすを知らず彼らいふいざ我ら樹とその果とを共に滅さんかれを生る者の地より絶てその名を人に忘れしむべしと 二十 義き鞫をなし人の心腸を察りたまふ萬軍のエホバよ我わが訴を汝にのべたればわれをして汝が彼らに仇を報すを見せしめたまへ 二一 是をもてエホバ、アナトテの人々につきてかくいひたまふ彼等汝の生命を取んと索めて言ふ汝エホバの名をもて預言する勿れ恐らくは汝我らの手に死んと 二二 故に萬軍のエホバかくいひたまふみよ我かれらを罰すべし壯丁は劍に死にその子女は饑饉にて死なん 二三 餘る者なかるべし我災をアナトテの人にきたらしめ之が彼らを罰するの年をきたらせめん

第十二章

一 エホバよわれ汝と爭ふ時に汝は義し惟われ鞫の事につきて汝と言ん惡人の途のさかえ悖れる者のみな福なるは何故ぞや 二 汝かれらを植たり彼らは根づき成長て實を結べりその口は汝に近けどもその心は汝に遠ざかる 三 エホバ汝われを知り我を見またわが心の汝にむかひて何なるかを試みたまふ羊を宰りに牽いだすがごとく彼らを牽いだし殺す日の爲にかれらをそなへたまへ 四 いつまでこの地は哭きすべての畑の蔬菜は枯をるべけんやこの地に住る者の惡によりて畜獸と鳥は滅さる彼らいふ

彼は我らの終をみざるべしと 五 汝もし歩行者とゝもに趨てつかれなばいかで騎馬者と競はんや汝平安なる地を恃まばいかでヨルダンの傍の叢に居ることをえんや 六 汝の兄弟となんぢの父の家も汝を欺きまた大聲をあげて汝を追ふかれらしたしく汝に語るともこれを信ずる勿れ

○ 七 われ我室を離れわが產業をすて我靈魂の愛する所の者をその敵の手にわたせり 八 わが產業は林の獅子のごとし我にむかひて其聲を揚ぐ故にわれ之を惡めり 九 我產業は我における斑駁ある鳥のごとくならずや鳥之を圍むにあらずや野のすべての獸きたりあつまり來てこれを食へ 十 衆の牧者わが葡萄園をほろぼしわが地を蹂躪しわがうるはしき地を荒野となせり 十一 彼らこれを荒地となせりその荒地我にむかひて哭くなり一人もかへりみる者なければこの全地は荒たり 十二 毀滅者は野のすべての童山のうへに來れりエホバの劍地のこの極よりかの極までを滅ぼすすべて血氣ある者は安をえず 十三 彼らは麥を播て荊棘をかる勞れども得るところなし汝らはその作物のために恥るにいたらん是エホバの烈き怒によりてなり

○ 十四 わがイスラエルの民に嗣しむる產業をせむるところのすべてのわが惡き隣にむかひてエホバかくいふみよわれ彼等をその地より拔出しまたユダの家を彼らの中より拔出すべし 十五 われ彼らを拔出せしのちまた彼らを憐みておのおのを其產業にかへし各人をその地に歸らしめん 十六 彼等もし我民の道をまなび我名をさしてエホバは活くと誓ふこと嘗て我民を教へてバアルを指て誓はしめし如くせば彼らはわが民の中に建らるべし 十七 されど彼らもし聽かざれば我かならずかゝる民を全く拔出して滅すべしとエホバいひたまふ

第十三章

一 エホバかくいひたまへり汝ゆきて麻の帶をかひ汝の

腰にむすべ水に入る勿れ 二 われすなはちエホバの言に遵ひ帯をかひてわが腰にむすべり 三 エホバの言ふたゝび我にのぞみて云ふ 四 汝が買て腰にむすべる帯を取り起てユフラテにゆき彼處にてこれを磐の穴にかくせと 五 こゝに於てわれエホバの命じたまひし如く往てこれをユフラテの涯にかくせり 六 おほくの日を經しのちエホバ我にいひたまひけるは起てユフラテにゆきわが汝に命じて彼處にかくさしめし帯を取れと 七 われすなはちユフラテにゆき帯を我隱せしところより掘取しにかの帯は朽て用ふるあたはず 八 またエホバの言われにのぞみて云ふ 九 エホバかくいふ我かくの如くユダの驕傲とエルサレムの大なる驕傲をやぶらん 十 この惡き民はわが言を聽ことをこばみ己の心の剛愎なるにしたがひて行み且他の神に從ひてこれにつかへ之を拜す彼等は此帯の用ふるあたはざるが如くなるべし 十一 エホバいふ帯の人の

腰に附がごとくわれイスラエルのすべての家とユダのすべての家を我に附しめ之を我民となし名となし譽となし榮となさんとせり然るに彼等はきかざりき ○ 十二 故に汝この言を彼らに語るべしイスラエルの神エホバかくいふ酒甕には皆酒盈つと彼汝にこたへていはん我儕豈酒甕に酒の盈ることを知ざらんやと 十三 其時汝かれらにいふべしエホバかくいふみよわれ此地に住るすべての者とダビデの位に坐する王等と祭司と預言者およびエルサレムに住るすべての者に醉を盈せ 十四 彼らを此と彼と打あはせて碎かん父と子をも然すべしわれ彼らを恤まず惜まず憐まずして滅さん 十五 汝らきけ耳を傾けよ驕る勿れエホバかたりたまふなり 十六 汝らの神エホバに其いまだ暗を起したまはざる先汝らの足のくらき山に躓かざる先に榮光を皈すべし汝ら光明を望まんにエホバ之を死の蔭に變へ之を昏黒となしたまふにいたらん 十七 汝ら若

これを聴ずば我靈魂は汝らの驕を隱なるところに悲まん又エホバの群の掠めらるゝによりて我目いたく泣て涙をながすべし○十八なんぢ王と太后につげよ汝ら自ら謙りて坐せそは汝らの美き冕なんぢらの首より落べければなり十九南の諸邑は閉てこれを啓く人なしユダは皆擄移され盡くとらへ移さる二十汝ら目を擧て北より來る者をみよ汝らが賜はりし群汝のうるはしき群はいづこにあるや二一これ汝が親み馴たる者を汝が上にたてゝ首領となさんとき汝何のいふべきことあらんや汝の痛は子をうむ婦のごとくならざらんや二二汝心のうちに何故にこの事我にきたるやといふか汝の罪の重によりて汝の裾は揭げられなんぢの踵はあらはさるゝなり二三エテオピア人その膚をかへうるか豹その斑駁をかへうるか若これを爲しえば惡に慣たる汝らも善をなし得べし二四故にわれ彼らを散して野の風に吹散さるゝ皮売のごとくせん二五

エホバいひたまふこれ汝の得べき分わが量て汝にあたふる産業なり汝我をわすれて虛假を依賴ばなり二六故にわれ汝の前の裳を剝ぎて汝の羞恥をあらはさん二七われ汝の姦淫と汝の嘶と汝が岡のうへと野になせし汝の亂淫の罪と汝の憎むべき行をみたりエルサレムよ汝は禍なるかな汝の潔くせらるゝには尙いくばくの時を經べきや

第十四章

一乾旱の事につきてエレミヤにのぞみしエホバの言は左のごとし二ユダは悲むその門は傾きて地にたふれて哭くエルサレムの號は上る三その侯伯等は僕をつかはして水を汲しむ彼ら井にいたれども水を見ず空き器をもちて歸り恥かつ憂へてその首をおほふ四地に雨ふらずして土燥裂たるにより農夫は耻て首を掩ふ五また野にある鹿は子をうみて之を棄つ草なければなり六野の驢馬は童山のうへにたちて山犬のごとく喘ぎ草なきによ

りて目眩む○七エホバよ我等の罪われらを訴へて証をなすとも願くは汝の名の爲に事をなし給へ我儕の違背はおほいなり我等汝に罪を犯したり八イスラエルの企望なる者その艱るときに救ひたまふ者よ汝いかなれば此地に於て他邦人のごとくし一夜寄宿の旅客のごとくしたまふや九汝いかなれば呆てをる人のごとくし救をなすこと能はざる勇士のごとくしたまふやエホバよ汝は我らの間にいます我儕は汝の名をもて稱へらるゝ者なり我らを棄たまふ勿れ○十エホバこの民にかくいひたまへり彼らかく好んでさまよひ其足を禁めざればエホバ彼らを悦ばずいまその愆をおぼえ其罪を罰すべし十一エホバまた我にいひたまひけるは汝この民のために恩をいのる勿れ十二彼ら断食するとも我その呼籲をきかず燔祭と素祭を献るとも我これをうけず却てわれ劍と饑饉と疫病をもて彼らを滅すべし十三われいひけるは嗚呼主エホ

バよみよ預言者たちはこの民にむかひ汝ら劍を見ざるべし饑饉は汝らにきたらじわれ此處に鞏固なる平安を汝らにあたへんといへり十四エホバ我にいひたまひけるは預言者等は我名をもて詭を預言せりわれ之を遣さず之に命ぜずまた之にいはず彼らは虚誕の默示と卜筮と虚きことゝ己の心の詐を汝らに預言せり十五この故にかの吾が遣さゞるに我名をもて預言して劍と饑饉はこの地にきたらじといへる預言者等につきてエホバかくいふこの預言者等は劍と饑饉に滅さるべし十六また彼等の預言をうけし民は饑饉と劍によりてエルサレムの街に擲棄られんこれを葬る者なかるべし彼等とその妻および其子その女みな然りそはわれ彼らの惡をその上に灌げばなり十七汝この言を彼らに語るべしわが目は夜も晝もたえず涙を流さんそは我民の童女大なる滅と重き傷によりて亡さるればなり十八われ出て畑にゆくに劍に死る者あり

我邑にいるに饑饉に艱むものあり預言者も祭司もみなその地にさまよひて知ところなし○十九 汝はユダを悉くすてたまふや汝の心はシオンをきらふや汝いかなれば我儕を撃て愈しめざるか我ら平安を望めども善ことあらず又醫さるゝ時を望むに却て驚懼あり 二十 エホバよ我らはおのれの惡と先祖の愆を知るわれら汝に罪を犯したり 二十一 汝の名のために我らを棄たまふ勿れ汝の榮の位を辱めたまふ勿れ汝のわれらに立し契約をおぼえて毀りたまふなかれ 二十二 異邦の虚き物の中に雨を降せうるものあるや天みづから白雨をくだすをえんや我らの神エホバ汝これを爲したまふにあらずや我ら汝を望むそは汝すべて此等を悉く作りたまひたればなり

第十五章

一 エホバ我にいひたまひけるはたとひモーセとサムエルわが前にたつとも我こゝろは斯民を顧ざるべしかれらを我前

より逐ひていでさらしめよ 二 彼らもし汝にわれら何處にいでさらんやといはゞ汝彼らにエホバかくいへりといへ死に定められたる者は死にいたり劍に定められたる者は劍にいたり饑饉に定められたる者は饑饉にいたり虜に定められたる者は虜にいたるべし 三 エホバいひたまひけるはわれ四の物をもて彼らを罰せんすなはち劍をもて戮し犬をもて噬せ天空の鳥および地の獸をもて食ひ滅さしめん 四 またユダの王ヒゼキヤの子マナセがエルサレムになせし事によりわれ彼らをして地のすべての國に艱難をうけしめん○五 エルサレムよ誰かなんぢを憫まんたれか汝のために歎かん誰かちかづきて汝の安否を問はん 六 エホバいひたまふ汝われをすてたり汝退けり故にわれ手を汝のうへに伸て汝を滅さんわれ憫に倦り 七 われ風扇をもて我民をこの地の門に簸がんかれらは其途を離れざるによりて我その子を絶ち彼らを滅

すべし 八 彼らの寡婦はわが前に海濱の沙よりも多し晝われほろぼす者を携へきたりて彼らと壯者の母とをせめ驚駭と恐懼を突然にかれの上におこさん 九 七人の子をうみし婦は衰へて氣たえ尚晝なるにその日は早く沒る彼は辱められて面をあからめん其餘れる者はわれ之をその敵の劍に付さんとヱホバいひたまふ

○十 嗚呼われは禍なるかな我母よ汝なに故に我を生しや全國の人我と爭ひ我を攻むわれ人に貸さず人また我に貸さず皆我を詛ふなり 十一 ヱホバいひたまひけるは我實に汝に益をえせしめんために汝を惱す我まことに敵をしてその難のときと災の時に汝に求むることをなさしめん 十二 鐵いかで北の鐵と銅を碎かんや 十三 われ汝の資産と汝の資財を擄掠物とならしめ價をうることなからしめん是汝のすべての罪によるなりすべて汝の境のうちにかくなさん 十四 われ汝の敵をして汝を汝の識ざる地にとらへ移さしめん夫我怒によりて火燃えなんぢを焚んとするなり 十五 ヱホバよ汝これを知りたまふ我を憶え我をかへりみたまへ我を迫害るものに仇を復したまへ汝の容忍によりて我をとらへられしむる勿れわが汝の爲に辱を受るを知りたまへ 十六 われ汝の言を得て之を食へり汝の言はわが心の欣喜快樂なり萬軍の神ヱホバよわれは汝の名をもて稱へらるゝなり 十七 われ嬉笑者の會に坐せずまた喜ばずわれ汝の手によりて獨り坐す汝憤怒をもて我に充したまへり 十八 何故にわが痛は息ずわが傷は重くして愈ざるか汝はわれにおけること水をたもたずして人を欺く溪河のごとくなるや

○十九 是をもてヱホバかくいひたまへり汝もし歸らば我また汝をかへらしめて我前に立しめん汝もし賤をすてゝ貴をいださば我口のごとくならん彼らは汝に歸らんされど汝は彼らにかへる勿れ 二十 われ汝をこの民の前に堅き銅の牆となさんかれら汝を攻るとも汝

にかたざるべしそはわれ汝と偕にありて汝をたすけ汝を救へばなりとエホバいひたまへり 二一 我汝を惡人の手より救ひとり汝を怖るべき者の手より放つべし

第十六章

一 エホバの言また我にのぞみていふ 二 汝この處にて妻を娶るなかれ子女を得るなかれ 三 此處に生るゝ子女とこの地に之を生む母と之を生む父とに就てエホバかくいひたまふ 四 彼らは慘しき病に死し哀まれず葬られずして糞土のごとくに田地の面にあらんまた劍と饑饉に滅されて其屍は天空の鳥と地の獸の食物とならん 五 エホバかくいひたまへり喪ある家にいる勿れまた往て之を哀み嘆く勿れそはわれ我平安と恩寵と矜恤をこの民より取ばなりとエホバいひたまへり 六 大なる者も小さき者もこの地に死べし彼らは葬られずまた彼らのために哀む者なく自ら傷くる者なく髮をそる者なかるべし 七 またその哀むときパンをさきて其死者のために之を慰むるものなく又父あるひは母のために慰藉の杯を彼らに飲しむる者なかるべし 八 汝また筵宴の家にいりて偕に坐して食飲する勿れ 九 萬軍のエホバイスラエルの神かくいひたまふ視よ汝の目の前汝の世に在るときにわれ欣喜の聲と歡樂の聲と新娶者の聲と新婦の聲とを此處に絶しめん 十 汝このすべての言を斯民に告るとき彼ら汝に問ふてエホバわれらを責てこの大なる災を示したまふは何故ぞやまたわれらに何の惡事あるやわが神エホバに背きてわれらのなせし罪は何ぞやといはゞ 十一 汝かれらに答ふべしエホバいひたまふ是汝らの先祖われを棄て他の神に從ひこれに事へこれを拜しまた我をすてわが律法を守らざりしによる 十二 汝らは汝らの先祖よりも多く惡をなせりみよ汝らはおの〱自己の惡き心の剛愎なるにしたがひて我にきかず 十三 故にわれ汝らをこの地より逐ひて汝らと汝ら

の先祖の識ざる地にいたらしめん汝らかしこにて晝夜ほかの神に奉へん是わが汝らを憐まざるによるなりと十四エホバいひたまふ然ばみよ此後イスラエルの民をエジプトの地より導きいだせしエホバは活くといふことなくして十五イスラエルの民を北の地とそのすべて逐やられし地より導出せしエホバは活くといふ日きたらん我かれらを我その先祖に與へしかれらの地に導きかへるべし○十六エホバいひたまふみよ我おほくの漁者をよび來りて彼らを漁らせまたその後おほくの獵者を呼來りて彼らを諸の山もろ〱の岡および岩の穴より獵いださしめん十七我目はかれらの諸の途を鑒る皆我にかくるゝところなし又その惡は我目に匿れざるなり十八われまづ倍して其惡とその罪に報いんそは彼らの汚れたる者の屍をもて我地を汚しその惡むべきものをもて我產業に充せばなり○十九エホバ我の力我の城難の時の逃場よ萬國

の民は地の極より汝にきたりわれらの先祖の嗣るところの者は惟謊と虚浮事と益なき物のみなりといはん二十人豈神にあらざる者をおのれの神となすべけんや二十一故にみよわれ此度かれらに知らしむるところあらん即ち我手と我能をかれらに知らしめん彼らは我名のエホバなるを知るべし

第十七章

一ユダの罪は鐵の筆金剛石の尖をもてしるされその心の碑と汝らの祭壇の角に鐫らるゝなり二彼らはその子女をおもふが如くに青木の下と高岡のうへなるその祭壇とアシラをおもふ三われ野に在るわが山と汝の資產と汝のもろ〱の財產および汝の四方の境の内なる汝の罪を犯せる崇邱を擄掠物となさしめん四わが汝にあたへし產業より汝手をはなさん又われ汝をして汝の識ざる地に於て汝の敵につかへしめんそは汝ら我をいからせて限なく燃る火を發したればなり○五エホバかくいひたま

ふおほよそ人を恃み肉をその臂とし心にエホバを離る人は詛るべし 六 彼は荒野に棄られたる者のごとくならん彼は善事のきたるをみず荒野の燥きたる處鹽あるところ人の住ざる地に居らん 七 おほよそエホバをたのみエホバを其恃とする人は福なり 八 彼は水の旁に植たる樹のごとくならん其根を河にのべ炎熱きたるも恐るゝところなしその葉は青く亢旱の年にも憂へずして絶ず果を結ぶべし 九 心は萬物よりも偽る者にして甚だ悪し誰かこれを知るをえんや 十 われエホバは心腹を察り腎腸を試みおのおのに其途に順ひその行爲の果によりて報ゆべし 十一 鷓鴣のおのれの生ざる卵をいだくが如く不義をもて財を獲る者あり其人は命の半にてこれに離れその終に愚なる者とならん 十二 榮の位よ原始より高き者わが聖所たる者 十三 イスラエルの望なるエホバよすべて汝を離るゝ者は辱められん我を棄る者は土に録されん此はいける水の源なるエホバを離るゝによる○十四 エホバよ我を醫したまへ然らばわれ愈んわれを救ひたまへさらば我救はれん汝はわが頌るものなり 十五 彼ら我にいふエホバの言は何にあるやいま之をのぞましめよと 十六 われ牧者の職を退かずして汝にしたがひ又禍の日を願はざりき汝これを知りたまふ我唇よりいづる者は汝の面の前にあり 十七 汝我を懼れしむる者となりたまふ勿れ禍の時に汝はわが避塲なり 十八 我を攻る者を辱めたまへ我を辱しむるなかれ彼らを怖れしめよ我を怖れしめたまふなかれ禍の日を彼らに來らしめ滅亡を倍してこれを滅したまへ○十九 エホバ我にかくいひたまへり汝ゆきてユダの王等の出入する民の門およびエルサレムの諸の門に立て 二十 彼らにいへ此門より入るところのユダの王等とユダのすべての民とエルサレムに住るすべての者よ汝らエホバの言をきけ 二一 エホバかくいひたまふ汝ら自ら愼め安息日

に荷をたづさへてエルサレムの門にいる勿れ 二二 また安息日に汝らの家より荷を出す勿れ諸の工作をなす勿れ我汝らの先祖に命ぜしごとく安息日を聖くせよ 二三 されど彼らは遵はず耳を傾けずまたその項を強くして聴ず訓をうけざりき 二四 エホバいひたまふ汝らもし謹慎て我にきゝ安息日に荷をたづさへてこの邑の門にいらず安息日を聖くなして諸の工作をなさずば 二五 ダビデの位に坐する王等牧伯たちユダの民エルサレムに住る者車と馬に乗てこの邑の門よりいることをえんまた此邑には限なく人すまはん 二六 また人々ユダの邑とエルサレムの四周およびベニヤミンの地と平地と山と南の方よりきたり燔祭、犠牲、素祭、馨香、謝祭、を携へてエホバの室にいらん 二七 されど汝らもし我に聴ずして安息日を聖くせず安息日に荷をたづさへてエルサレムの門にいらばわれ火をその門の内に燃してエルサレムの殿舎を燬んその火は滅ざ

るべし、

第十八章

一 エホバよりエレミヤにのぞめる言いふ 二 汝起て陶人の屋にくだれ我かしこに於てわが言を汝に聞しめんと 三 われすなはち陶人の屋にくだり視るに轆轤をもて物をつくりをりしが 四 その泥をもて造れるところの器陶人の手のうちに傷ねたれば彼その心のまゝに之をもて別の器をつくれり 五 時にエホバの言我にのぞみていふ 六 エホバいふイスラエルの家よこの陶人のなすが如くわれ汝になすことをえざるかイスラエルの家よ陶人の手に泥のあるごとく汝らはわが手にあり 七 われ急に民あるひは國を抜べし毀るべし滅すべしといふことあらんに 八 もし我いひしところの國その悪を離れなばわが之に災を降さんとおもひしことを悔ん 九 我また急に民あるひは國を立べし植べしといふことあらんに 十 もし其國わが目に悪く見ゆるところの事を行ひわ

が聲に遵はずば我これに福祉を錫へんといひしことを悔ん○十一汝いまユダの人々とヱルサレムに住る者にいへヱホバかくいへり視よわれ汝らに災をくださんと思ひめぐらし汝らをはかる計策を設く故に汝らおの〱其惡き途を離れその途と行をあらためよと十二しかるに彼らいふ是は徒然なりわれらは自己の圖維ところにしたがひ各自その惡き心の剛愎なるを行はんと十三この故にヱホバかくいひたまふ汝ら異國のうちに問へ斯の如きことを聞し者ありやイスラエルの處女はいと驚くべきことをなせり十四レバノンの雪豈野の磐を離れんや遠方より流れくる冷なる水豈涸かんや十五しかるに我民は我をわすれて虚き物に香を焚り是等の物彼らをその途すなはち古き途に躓かせまた徑すなはち備なき道に行しめ十六その地を荒して恒に人の笑とならしめん凡て其處を過る者は驚てその首を搖らん十七われ東風のごとくに彼らを

その敵の前に散さん其滅亡の日にはわれ背を彼らに向て面をむけじ○十八彼らいふ去來われら計策を設けてヱレミヤをはからんそれ祭司にも律法あり智慧ある者には謀略あり預言者には言ありて失ざるべし去來われら舌をもて彼を撃ちその諸の言を聽ことをせざらんと十九ヱホバよ我にきゝたまへ又我と爭ふ者の聲をきゝたまへ二十惡をもて善に報ゆべきものならんや彼らはわが生命をとらん爲に坑を掘れりわが汝の前に立て彼らを善く言ひ汝の憤怒を止めんとせしを憶えたまへ二十一されば彼らの子女を饑饉にわたし彼らを劍の刃にわたしたまへ其妻は子を失ひ且寡となり其男は死をもて亡されその少者は劍をもて戰に殺されよかし二十二汝突然に敵をかれらに臨ませたまふ時号呼をその家の内より聞えしめよそは彼ら坑を掘て我を執へんとしまた機檻を置てわが足を執へんとすればなり二十三ヱホバよ汝はかれらが我を殺さ

んとするすべての謀畧を知りたまふ其惡を赦すことなく其罪を汝の前より抹去りたまふなかれ彼らを汝の前に仆れしめよ汝の怒たまふ時にかく彼らになしたまへ

第十九章

一 ヱホバかくいひたまふ往て陶人の瓦罇をかひ民の長老と祭司の長老の中より數人をともなひて 二 陶人の門の前にあるベンヒンノムの谷にゆき彼處に於てわが汝に告んところの言を宣よ 三 云くユダの王等とヱルサレムに住る者よヱホバの言をきけ萬軍のヱホバイスラエルの神かくいひたまふ觀よわれ災を此處にくだすべし凡そ之をきく者の耳はのこらず鳴らん 四 これ彼ら我を棄てこの處を瀆し此にて自己とその先祖およびユダの王等の知ざる他の神に香を焚き且罪なきものゝ血をこの處に盈せしなり 五 又彼らはバアルのために崇邱を築き火をもて己の兒子を焚き燔祭となしてバアルにさゝげたり此わが命ぜしことにあらず我いひしことにあらず又我心に意はざりし事なり○ 六 ヱホバいひたまふされば視よ此處をトペテまたはベンヒンノムの谷と稱ずして屠戮の谷と稱ふる日きたらん 七 また我この處に於てユダとヱルサレムの謀をむなしうし劍をもて彼らを其敵の前とその生命を索る者の手に仆しまたその屍を天空の鳥と地の獸の食物となし 八 かつ此邑を荒して人の胡盧とならしめん凡そこゝを過る者はその諸の災に驚きて笑ふべし 九 また彼らがその敵とその生命を索る者とに圍みくるしめらるゝ時我彼らをして己の子の肉女の肉を食はせん又彼らは互にその友の肉を食ふべし○ 十 汝ともに行く人の目の前にてその瓦罇を毀て彼らにいふべし 十一 萬軍のヱホバかくいひたまふ一回毀てば復全うすること能ざる陶人の器を毀が如くわれ此民とこの邑を毀たんまた彼らは葬るべき地なきによりてトペテに葬られん 十二 ヱホバいひたまふ

我この處とこの中に住る者とに斯なし此邑をトペテの如くなすべし 十三 且エルサレムの室とユダの王等の室はトペテの處のごとく汚れん其は彼らすべての室の屋蓋のうへにて天の衆群に香をたき他の神に酒をそゝげたるなり○十四 エレミヤエホバの己を遣して預言せしめたまひしトペテより歸りきたりエホバの室の庭に立ちすべての民に語りていひけるは 十五 萬軍のエホバイスラエルの神かくいひたまふ視よわれ我いひし諸の災をこの邑とその諸の郷村にくださん彼らその項を強くして我言を聽ざればなり

第二十章

一 祭司インメルの子エホバの室の宰の長なるパシュル預言者エレミヤがこの言を預言するをきけり 二 是に於てパシュル預言者エレミヤを打ちエホバの室にある上のベニヤミンの門の桎梏に繋げり 三 翌日パシュルエレミヤを桎梏より釋はなちしにエレミヤ彼にいひけるはエホバ汝の名をパシュルと稱ずしてマゴルミツサビブ(驚懼周圍にあり)と稱び給ふ 四 即ちエホバかくいひたまふ視よわれ汝をして汝と汝のすべての友に恐怖をおこさしむる者となさん彼らはその敵の劍に仆れん汝の目はこれを見べし我またユダのすべての民をバビロン王の手に付さん彼は彼らをバビロンに移し劍をもて殺すべし 五 我またこの邑のすべての貨財とその得たる諸の物とその諸の珍寶とユダの王等のすべての儲蓄を其敵の手に付さん彼らはこれを掠めまた民を擄へてバビロンに移すべし 六 パシュルよ汝と汝の家にすめる者は悉く擄へ移されん汝はバビロンにいたりて彼處に死にかしこに葬られん汝も汝が僞て預言せし言を聽し友もみな然らん○七 エホバよ汝われを勸めたまひてわれ其勸に從へり汝我をとらへて我に勝給へりわれ日々に人の笑となり人皆我を嘲りぬ 八 われ語り呼はるごとに暴逆殘虐の事をいふエホバの言日々にわが身の恥辱となり

嘲弄となるなり 九 是をもて我かさねてヱホバの事を宣ず又その名をもてかたらじといへり然どヱホバのことば我心にありて火のわが骨の中に閉こもりて燃るがごとくなれば忍耐につかれて堪難し 十 そは我おほくの人の讒をきく驚懼まはりにあり訴へよ彼を訴へん我親しき者はみな我蹶くことあらんかと窺ひて互にいふ彼誘はるゝことあらんしからば我儕彼に勝て仇を報ゆることをえんと 十一 然どヱホバは強き勇士のごとくにして我と偕にいます故に我を攻る者は蹶て勝ことをえずそのなし遂ざるがために大なる恥辱を取ん其羞恥は何時までも忘ざるべし 十二 義人を試み人の心腸を見たまふ萬軍のヱホバよ我汝に訴を申たれば我をして汝が彼らに仇を報すを見せしめよ 十三 ヱホバに歌を謳へよヱホバを頌めよそは貧者の生命を悪者の手より救ひたまへばなり

○ 十四 わが生れし日は詛はれよ我母のわれを生し日は祝せられざれ 十五 わが父に男子汝に生れしと告て父を大いに喜ばせし人は詛はれよ 十六 其人はヱホバの憫まずして滅したまひし邑のごとくなれよ彼をして朝に號呼をきかしめ午間に鬨聲をきかしめよ 十七 彼我を胎のうちに殺さず我母を我の墓となさず常にその胎を大ならしめざりしが故なり 十八 我何なれば胎をいでて艱難と憂患をかうむり恥辱をもて日を送るや

第二十一章

一 ゼデキヤ王マルキヤの子パシュルと祭司マアセヤの子ゼパニヤをヱレミヤに遣はし 二 バビロンの王ネブカデネザル我らを攻むれば汝われらの爲にヱホバに求よヱホバ恒のごとくそのもろ〱の奇なる跡をもて我らを助けバビロンの王を我らより退かしめたまふことあらんと曰しむ 其時ヱホバの言ヱレミヤに臨めり 三 ヱレミヤ彼らにいひけるは汝らゼデキヤにかく語ふべし 四 イスラエルの神ヱホバかくいひたまふ視よわが汝ら

ごあれ邑れ外ふありて汝ちを攻め圍むとあろれバビロン王およびカルデア人とたゝかひて手に持とてろのろの武器をかへし之を邑のうちに聚めん 五 わき手を伸べ臂をつよくし震怒と憤恨と烈き怒をもて汝らをせむべし 六 我また此邑ふすめる人と畜を撃ん皆重き疫病ふよりて死べし 七 エホバいひたまふ此後わきユダの王ゼデキヤとろの諸臣および民此邑ふ疫病と劍と饑饉をまぬかきて遺きる者をバビロンの王ネブカデネザルの手と其敵の手およひ凡ろろの生命を索る者の手ふ付さんバビロンの王れ劍の刃をもて彼らを撃ちりきらを惜まず顧みず憫きまざるべし ○ 八 汝また此民ふエホバかくいふと語るべし視よ色き生命の道と死の道を汝らの前ふ置く 九 この邑ふとゞまる者れ劍と饑饉と疫病に死べしさきと汝らを攻め圍むところのカルデヤ人に出降る者はいきん其命れおのきの掠取物とあるべし 十 エホバいひたまふ

我この邑ふ面を向しれ禍をあたふる爲ふあらず禍をあたへんごの爲あり此邑れバビロンの王の手に付さきん彼火をもて之を焚くべし ○ 十一 またユダの王の家ふ告べし汝らエホバの言をきけ 十二 ダビデの家よエホバかくいふ汝朝ごとふ義く鞫をあし物を奪れるゝ人をろの暴逆者の手より救へ否さきば汝ちれ行れ惡によりて我怒火のごとくに發で燃て滅さるべし 十三 エホバいひたまふ谷と平原の磐とふすめる者よみよ我汝ふ敵す汝られ誰か降て我儕を攻んや誰かわきらの居處にいらんやといふ 十四 我汝らをろの行の果によりて罰せん又其林に火を起し其四周をあと〴〵く焚つくそべしとエホバいひたまふ

第二十二章

一 エホバかくいひたまへり汝ユダの王の室にくだり彼處にあの言をのべていへ 二 ダビデの位に坐するユダの王よ汝と汝の臣および此門よりいる汝の民エホバの言をきけ 三 エホバ

かくいふ汝ら公道と公義を行ひ物を奪るゝ人をその暴虐者の手より救ひ異邦人と孤子と嫠婦をなやまし虐ぐる勿れまた此處に無辜の血を流す勿れ 四 汝らもし此言を眞に行はばダビデの位に坐する王とその臣および其民は車と馬に乘てこの室の門にいることを得ん 五 然ど汝らもし此言を聽ずばわれ自己を指て誓ふ此室は荒地となるべしとエホバいひたまふ 六 エホバユダの王の家につきてかく曰たまふ汝は我におけることギレアデのごとくレバノンの巓のごとし然どわれかならず汝を荒野となし人の住はざる邑となさん 七 われ破壞者をまうけて汝を攻めしめん彼ら各人その武器を執り汝の美しき檜を斫てこれを火に投いれん 八 多の國の人此邑をすぎ互に語てエホバ何なれば此大なる邑にかく爲せしやといはんに 九 人こたへて是は彼等其神エホバの契約をすてゝ他の神を拜し之に奉へしに由なりといはん○ 十 死者の爲に泣くことなくまた之が爲に嗟くこと勿れ寧擄へ移されし者の爲にいたく嗟くべし彼は再び歸てその故國を見ざるべければなり 十一 ユダの王ヨシヤの子シヤルム即ちその父に繼で王となりて遂に此處をいでたる者につきてエホバかくいひたまへり彼は再び此處に歸らじ 十二 彼はその移されし處に死んふたゝび此地を見ざるべし○ 十三 不義をもて其室をつくり不法をもて其樓を造り其隣人を傭て何をも與へずその價を拂はざる者は禍なるかな 十四 彼いふ我己のために廣廈と涼しき樓をつくり又己の爲に窓を造り檜をもて之を蔽ひ赤く之を塗んと 十五 汝檜を爭ひもちふるによりて王たるを得るか汝の父は食飲せざりしや公義と公道を行ひて祥を得ざりしや 十六 彼は貧者と患難者の訟を理して祥をえたりかく爲すは我を識るに非ずやとエホバいひたまふ 十七 然ど汝の目と心は惟貪をなさんとし無辜の血を流さんとし虐遇と暴逆

をなさんとするのみ十八故にエホバユダの王ヨシヤの子エホヤキムにつきてかく曰たまふ衆人は哀かな我兄、かなしいかな我姉といひて嗟かず又哀かな主よ、哀かな其榮といひて嗟かじ十九彼は驢馬を埋るがごとく埋られん即ち曳きてエルサレムの門の外に投棄らるべし○二十汝レバノンに登りて呼ばゝりバシヤンに汝の聲を揚げアバリムより呼はれ其は汝の愛する者悉く滅されたればなり二一汝れ平康なる時我なんぢに語しかども汝は我にきかじといへり汝いとけなき時よりわが聲を聽ずこれ汝の故習なり二二汝の牧者はみな風に呑つくされ汝の愛する者はとらへ移されん其時汝はおのれの諸の惡のために痛く恥べし二三汝レバノンにすみ巣を檜につくる者よ汝の劬勞子を產む婦の痛苦のごとくおきたらんとき汝の哀慘はいかに否や○二四エホバいひたまふ我は活くユダの王エホヤキムの子エコニヤは我右の手の指環なれども我

これを拔ん二五われ汝の生命を索る者の手および汝が其面を畏るゝ者の手すなはちバビロンの王ネブカデネザルの手とカルデヤ人の手に汝を付さん二六われ汝と汝を生し母を汝等がうまれざりし他の地に逐やらん汝ら彼處に死べし二七彼らの靈魂のいたく歸らんことを願ふところの地に彼らは歸ることをえず○二八この人エコニヤは賤むべき壞れたる器ならんや好ましからざる器具ならんや如何なれば彼と其子孫は逐出されてその識ざる地に投やらるゝや二九地よ地よ地よエホバの言をきけ三十エホバかくいひたまふこの人を子なくして其生命の中に榮えざる人と錄せそはその子孫のうちに榮てダビデの位に坐しユダを治る人かさねてなかるべければなり

第二十三章

一エホバいひたまひけるは鳴呼わが養ふ群を滅し散す牧者は禍なるかな二故にイスラエルの神エホバ我民を養ふ牧者

につきて斯いふ汝らはわが群を散しこれを逐はなちて顧ざりき視よわれ汝らの惡き行によりて汝等に報ゆべしとヱホバいふ 三 われ我群の遺餘たる者をその逐はなちたる諸の地より集め再びこれを其牢に歸さん彼らは子を產て多くなるべし 四 我これを養ふ牧者をその上に立ん彼等はふたゝび慄かず懼ずまた失じとヱホバいひたまふ 五 ヱホバいひたまひけるは視よわがダビデに一の義き枝を起す日來らん彼王となりて世を治め榮え公道と公義を世に行ふべし 六 其日ユダは救をえイスラエルは安に居らん其名はヱホバ我儕の義と稱らるべし 七 これ故にヱホバいひたまふ視よイスラエルの民をエジプトの地より導出せしヱホバは活くと人衆復いはずして 八 イスラエルの家の裔を北の地と其諸て逐やりし地より導出せしヱホバは活くといふ日來らん彼らは自己の地に居るべし

○ 九 預言者輩のために我心はわが裏に壞れわが骨は皆震ふ且ヱホバとその聖言のためにわれは醉る人のごとく酒に勝るゝ人のごとし 十 この地は姦淫をなすもの盈ち地は呪詛によりて憂へ曠野の艸は枯る彼らの途はあしく其力は正しからず 十一 預言者と祭司は偕に邪惡なり已に我家に於てすら彼等の惡を見たりとヱホバいひたまふ 十二 故にかれらの途は暗に在る滑なる途のごとくならん彼等推れて其途に仆るべし我災をその上にのぞましめん是彼らが刑罰らるゝ年なりとヱホバいひたまふ 十三 われサマリヤの預言者の中に愚昧なる事あるを見たり彼等はバアルに託りて預言し我民イスラエルを惑はせり 十四 我ヱルサレムの預言者の中にも憎むべき事あるを見たり彼等は姦淫をなし詐僞をおこなひ惡人の手を堅くして人をその惡に離れざらしむ彼等はみな我にはソドムのごとく其民はゴモラのごとし 十五 この故に萬軍のヱホバ預言者につきてかくいひたまふ視よわれ茵蔯を之

に食はせ毒水をこれに飲せんそは邪悪ヱルサレムの預言者よりいでゝ此全地に及べばなり○十六萬軍のエホバかくいひたまふ汝等に預言する預言者の言を聽く勿れ彼等はなんぢらを欺きエホバの口よりいでざるおのれの心の默示を語るなり十七常に彼らは我を藐忽する者にむかひて汝等平安をえんとエホバいひたまへりといひ又己の心の剛愎なるに循ひて行むところのすべての者に向ひて災汝らに來らじといへり十八誰かエホバの議會に立てその言を見聞せし者あらんや誰か其耳を傾て我言を聽し者あらんや十九みよエホバの暴風あり怒と旋轉風いでゝ惡人の首をうたん二十エホバの怒はかれがその心の思を行ひてこれを遂げたまふまでは息じ末の日に汝ら明かにこれを曉らん二一預言者等はわが遣さゞるに趨り我告ざるに預言せり二二彼らもし我議會に立ちしならば我民にわが言をきかしめて之をその惡き途とその惡き行爲を離れしめしならん○二三エホバいひたまふ我はたゞ近くにおいての神たらんや遠くに於ても神たるにあらずや二四エホバいひたまふ人我に見られざる樣に密なる處に身を匿し得るかエホバいひたまふ我は天地に充るにあらずや二五われ我名をもて謊を預言する預言者等のわれ夢を見たりわれ夢を見たりと曰ふをきけり二六謊を預言する預言者等はいつまで此心をいだくや彼らは其心の詐僞を預言するなり二七彼らは其先祖がバアルによりて我名を忘れしごとく互に夢をかたりて我民にわが名を忘れしめんと思ふや二八夢をみし預言者は夢を語るべし我言を受し者は誠實をもて我言を語るべし糠いかで麥に比擬ることをえんやとエホバいひたまふ二九エホバ言たまはく我言は火のごとくならずや又磐を打碎く槌の如くならずや三十故に視よわれ我言を相互に竊める預言者の敵となるとエホバいひたまふ三一視よわれは彼いひたまへりと舌

をもて語るところの預言者の敵となるとヱホバいひたまふ 三二 ヱホバいひたまひけるは視よわれ偽の夢を預言する者の敵となる彼らは之を語りまたその謊と其誇をもて我民を惑はす我かれらを遣さずかれらに命ぜざるなり故に彼らは斯民に益なしとヱホバいひたまふ○ 三三 かの民或は預言者又は祭司汝に問てヱホバの重負は何ぞやといはゞ汝彼等にあたへてヱホバの重負は我汝等を棄んとヱホバの云たまひし事是なりといふべし 三四 ヱホバの重負といふところの預言者と祭司と民には我その人と其家にかれを降さん 三五 汝らはおの〱斯互に言ひその兄弟にいふべしヱホバは何と應へたまひしやヱホバは何と云たまひしやと 三六 汝ら復びヱホバは重負といふべからず人は重負となる者は其人の言なるべし汝らは活る神萬軍のヱホバなる我らの神の言を枉るなり 三七 汝かく預言者にいふべしヱホバは汝に何と答へたまひしやヱホバは何といひたまひしやと 三八 汝らもしヱホバの重負といはゞヱホバそれにつきてかくいひたまふ我人を汝らに遣して汝等ヱホバの重負といふべからずといはしむるも汝らはヱホバの重負といふ此言をいふによりて 三九 われ必ず汝らを忘れ汝らと汝らの先祖にあたへし此邑とを我前より棄ん 四十 且われ永遠の辱と永遠なる忘らるゝことなき恥を汝らにかうむらしめん

第廿四章

一 バビロンの王ネブカデネザル、ユダの王ヱホヤキムの子ヱコニヤおよびユダの牧伯等と木匠と鐵匠をヱルサレムよりバビロンに移せしのちヱホバ我にヱホバの殿の前に置きたる二筐の無花果を示したまへり 二 その一の筐には始に熟せしのごとき至佳き無花果ありその一の筐にはいと悪くして食ひ得ざるほどなる悪き無花果あり 三 ヱホバ我にいひたまひけるはヱレミヤよ汝何を見しや我答へけるは無花果なりその佳き無花果はい

と佳しその悪きものは至悪くして食ひ得ざるほどに悪し 四 ヱホバの言また我にのぞみていふ 五 イスラヱルの神ヱホバかくいふ我わが此處よりカルデヤ人の地に逐やりしユダの俘囚人を此佳き無花果のごとくに顧みて恵まん 六 我彼等に目をつけて之をめぐみ彼らを此地にかへし彼等を建て仆さず植て拔じ 七 我彼らに我のヱホバなるを識るの心をあたへん彼等我民となり我彼らの神とならん彼等は一心をもて我に歸るべし 八 ヱホバかくいひたまへり我ユダの王ゼデキヤとその牧伯等およびヱルサレムの人の遺りて此地にをる者ならびにエジプトの地に住る者とを此悪くして食はれざる悪き無花果のごとくになさん 九 我かれらをして地のもろ〱の國にて虐遇と災害にあはしめん又彼らをしてわが逐やらん諸の處にて辱にあはせ諺となり嘲と詛に遭しめん 十 われ劍と饑饉と疫病をかれらの間におくりて彼らをしてわが彼らとその先祖にあたへし地に絶るにいたらしめん

第二十五章

一 ユダの王ヨシヤの子ヱホヤキムの四年バビロンの王ネブカデネザルの元年にユダのすべての民にかゝはる言ヱレミヤにのぞめり 二 預言者ヱレミヤこの言をユダのすべての民とヱルサレムにすめるすべての者に告ていひけるは 三 ユダの王アモンの子ヨシヤの十三年より今日にいたるまで二十三年のあひだヱホバの言我にのぞめり我これを汝等に告げ頻にこれを語りしかども汝らきかざりし 四 ヱホバその僕なる預言者を汝らに遣し頻に遣したまひけれども汝らはきかず又きかんとて耳を傾けざりき 五 彼らいへり汝等おの〱いま其悪き途とその悪き行を棄よ然ばヱホバが汝らと汝らの先祖に與へたまひし地に永遠より永遠にいたるまで住ことをえん 六 汝ら他の神に從ひこれに事へこれを拜み汝らの手にて作りし物をもて我を怒らする勿れ然

ば我汝らを害はじ七然ど汝らは我にきかず汝等の手にて作りし物をもて我を怒らせて自ら害へりとエホバいひたまふ八この故に萬軍のエホバかく云たまふ汝ら我言を聽ざれは九視よ我北の諸の族と我僕なるバビロンの王ネブカデネザルを招きよせ此地とその民と其四圍の諸國を攻滅さしめて之を詫異物となし人の嗤笑となし永遠の荒地となさんとエホバいひたまふ十またわれ欣喜の聲歡樂の聲新夫の聲新婦の聲磨の音および燈の光を彼らの中にたえしめん十一この地はみな空曠となり詫異物とならん又その諸國は七十年の間バビロンの王につかふべし〇十二エホバいひたまふ七十年のをはりし後我バビロンの王と其民とカルデヤの地をその罪のために罰し永遠の空曠となさん十三我その地につきて我がいひたりし諸の言をその上に臨しめん是エレミヤが萬國の事につきて預言したる者にて皆この書に録さるゝなり十四多の

國々と大なる王等は彼らをして己につかへしめん我かれらの行爲とその手の所作に循てこれに報いん〇十五イスラエルの神エホバかく我に云たまへり我手より此怒の杯をうけて我汝を遣すところの國々の民に飲しめよ十六彼らは飲てよろめき狂はんこれ我かれらの中に劍をつかはすによりてなり十七是に於てわれエホバの手より杯をうけエホバのわれを遣したまふところの國々の民に飲しめたり十八即ちエルサレムとユダの諸の邑とその王等およびその牧伯等に飲せてこれをほろぼし詫異物となし人の嗤笑となし詛るゝ者となせり今日のごとし十九またエジプトの王パロとその臣僕その牧伯等その諸の民と二十諸の雜種の民およびウズの諸の王等およびペリシテ人の地の諸の王等アシケロンガザエクロンアシドドの遺餘の者廿一エドムモアブアンモンの子孫廿二ツロのすべての王等シドンのすべての王等海のかなたの島々の王等

二三デダン テマ ブズおよびすべて鬚をそる者 二四アラビヤのすべての王等曠野の雜種の民の諸の王等 二五ジムリの諸の王等エラムの諸の王等メデアのすべての王等 二六北のすべての王等かの彼と此とにおいて或は遠者或は近きもの凡地の面にある世の國々の王等はこの杯を飲んセシャク王はこれらの後に飲べし 二七故に汝これらに語ていへ萬軍のエホバ イスラエルの神かくいひたまふ我汝等の中に劍を遣すによりて汝らは飲みまた醉ひまた吐き又仆て再び起ざれと 二八彼等もし汝の手より此杯を受て飲ずば汝かれらにいへ萬軍のエホバかくいひたまふ汝ら必ず飲べし 二九視よわれ我名をもて稱へらるゝこの邑にすら災を降すなり汝らいかで罰を免るゝことをえんや汝らは罰を免れじ蓋われ劍をよびて地に住るすべての者を攻べければなりと萬軍のエホバいひたまふ ○三十汝彼等にこの諸の言を預言していふべしエホバ高き所より呼號り其聖宮より聲を出し己の住家に向てよばはり地に住る諸の者にむかひて葡萄を踐む者のごとく呼たまはん 三一號呼地の極まで聞ゆ蓋エホバ列國と爭ひ萬民を審き惡人を劍に付せん也とエホバ曰たまへり 三二萬軍のエホバかく曰たまふ視よ災いでゝ國より國にいたらん大なる暴風地の極よりおこるべし 三三其日エホバの戮したまふ者は地の此極より地の彼の極に及ばん彼等は哀まれず斂められず葬られずして地の面に糞土とならん 三四牧者よ哭き叫べ群の長等よ汝ら灰の中に轉ぶべし蓋汝らの屠らるゝ日滿れん也我汝らを散すべければ汝らは貴き器のごとく墮べし 三五牧者は避遁處なく群の長等は逃る處なし 三六牧者の呼號の聲と群の長等の哀哭きこゆ蓋エホバ其牧場を滅したまへば也 三七エホバの烈き怒によりて平安なる牧場は滅さる 三八彼は獅子の如く其巢を出たり滅す者の怒と其烈き怒によりて彼らの地は荒されたり

第廿六章

一 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムが位に即し初のころエホバより此言いでゝいふ 二 エホバかくいふ汝エホバの室の庭に立我汝に命じていはしむる諸の言をユダの邑々より來りてエホバの室に拜をする人々に告よ一言をも減す勿れ 三 彼等聞ておの〳〵其惡き途を離ることあらんとおもふ然ば我かれらの行の惡がために災を彼らに降さんとせることを悔べし 四 汝彼等にエホバかくいふといへ汝等もし我に聽ずわが汝らの前に置し律法を行はず 五 我汝らに遣し切に遣せし我僕なる預言者の言を聽ずば（汝ら之をきかざりき） 六 我この室をシロの如くになし又この邑を地の萬國に詛るゝ者となすべし 七 祭司と預言者および民みなエレミヤがエホバの室に立てこの言をのぶるをきけり 〇 八 エレミヤエホバに命ぜられし諸の言を民に告畢りしとき祭司と預言者および諸の民彼を執へいひけるは汝は必ず死べし 九 汝何故に

エホバの名をもて預言し此室はシロの如くになりこの邑は荒蕪となりて住む者なきにいたらんと云しやと民みなエホバの室にあつまりてエレミヤを攻む 十 ユダの牧伯等この事をきゝて王の家をいでエホバの室にのぼりてエホバの家の新き門の入口に坐せり 十一 祭司と預言者等牧伯等とすべての民に訴ていふ此人は死にあたる者なり是は汝らが耳に聽しごとくこの邑にむかひて惡き預言をなしたるなり 十二 是に於てエレミヤ牧伯等とすべての民にいひけるはエホバ我を遣し汝らが聽る諸の言をもて此室とこの邑にむかひて預言せしめたまふ 十三 故に汝らいま汝らの途と行爲をあらためて汝らの神エホバの聲にしたがへ然ばエホバ汝らに災を降さんとせしことを悔たまふべし 十四 みよ我は汝らの手にあり汝らの目に善とみゆるところ義とみゆることを我に行へ 十五 然ど汝ら善くなきを知れ汝らもし我を殺さば必ず無辜ものゝ血

なんぢら身とこの邑と其中に住る者に歸せん エホバ我を遣してこの諸の言を汝らの耳につげしめたまひしなればなり 十六 牧伯等とすべての民すなはち祭司と預言者にいひけるは此人は死にあたる者にあらず是は我らの神エホバの名によりて我儕に語りしなりと 十七 時にこの地の長老數人立て民のすべての集れる者につげていひけるは 十八 ユダの王ヘゼキヤの代にモレシテ人ミカ ユダの民に預言して云けらく萬軍のエホバかくいひたまふシオンは田地のごとく耕されエルサレムは邱墟となり此室の山は樹深き崇邱とならんと 十九 ユダの王ヘゼキヤとすべてのユダ人は彼を殺さんとせしことありしやヘゼキヤはエホバを畏れエホバに求ければエホバ彼らに降さんと告給ひし災を悔給ひしにあらずや我儕かく爲すは自己の靈魂をそこなふ大なる惡をなすなり 二十 又前にエホバの名をもて預言せし人あり即ちキリヤテヤリムのシマ

ヤの子ウリヤなり彼エレミヤの凡ていへるごとく此邑とこの地にむかひて預言せり 二一 エホヤキム王と其すべての勇士とすべての牧伯等その言を聽り是において王彼を殺さんと欲ひしがウリヤこれをきゝ懼てエジプトに逃ゆきしが 二二 エホヤキム王人をエジプトに遣はせり即ちアクボルの子エルナタンに數人をそへてエジプトにつかはしければ 二三 彼らウリヤをエジプトより引出しエホヤキム王の許に携きたりしに王劍をもて之を殺し其屍骸を賤者の墓に棄させたりと 二四 時にシヤパンの子アヒカムエレミヤをたすけこれを民の手にわたして殺さゞらしむ

第二十七章

一 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムが位に即し初のころエホバより此言エレミヤに臨みていふ 二 すなはちエホバかく我に云たまへり汝索と軛をつくりて汝の項に置き 三 之をエルサレムにきたりてゼデキヤ王にいたるところの使臣等の手により

てエドムの王モアブの王アンモニ人の王ツロの王シドンの王に送るべし 四 汝彼らに命じて其主にいはしめよ萬軍のエホバイスラエルの神かくいひたまふ汝ら其主にかく告べし 五 われ我大なる能力と伸たる臂をもて地と地の上にをる人と獸とをつくり我心のまゝに地を人にあたへたり 六 いま我この諸の地を我僕なるバビロンの王ネブカデネザルの手にあたへ又野の獸を彼にあたへてかれにつかへしむ 七 かれの地の時期いたるまで萬國民は彼と其子とその孫につかへん其時いたらばおほくの國と大なる王は彼を己に事へしむべし 八 バビロンの王ネブカデネザルに事へずバビロンの王の軛をその項に負ざる國と民は我彼の手をもて悉くこれを滅すまで劍と饑饉と疫病をもてこれを罰せんとエホバいひたまふ 九 故に汝らの預言者なんぢらの占筮師汝らの夢みる者汝らの法術士汝らの魔法士汝らに告て汝らはバビロンの王

に事ふることあらじといふとも聽なかれ 十 彼らは謊を汝らに預言して汝らをその國より遠く離れしめ且我をして汝らを逐しめ汝らを滅さしむるなり 十一 然どバビロンの王の軛をその項に負ふて彼に事ふる國々の人は我これをその故土に存し其處に耕し住しむべしとエホバいひたまふ〇 十二 我この諸の言のごとくユダの王ゼデキヤに告ていひけるは汝らバビロンの王の軛を汝らの項に負ふて彼と其民につかへよ然ば生べし 十三 汝と汝の民なんぞエホバがバビロンの王につかへざる國につきていひたまひし如く劍と饑饉と疫病に死ぬべけんや 十四 故に汝らはバビロンの王に事ふることあらじと汝等に告る預言者の言を聽なかれ彼らは謊を汝らに預言するなり 十五 エホバいひたまひけるは我彼らを遣さざるに彼らは我名をもて謊を預言す是をもて我汝らを逐はなち汝らと汝らに預言する預言者等を滅すにいたらん 十六 我また祭司と

このすべての民に語りていひけるはエホバかくいひたまふ視よエホバの室の器皿いま速にバビロンより持歸さるべしと汝らに預言する預言者の言をきく勿れ彼ら謊を汝らに預言すればなり 十七 汝ら彼らに聴なかれバビロンの王に事へよ然ば生べしこの邑を何ぞ荒蕪となすべけんや 十八 もし彼ら預言者にしてエホバの言かれらの裏にあらばエホバの室とユダの王の家とエルサレムとに餘れるところの器皿のバビロンに移されざることを萬軍のエホバに求むべきなり○ 十九 萬軍のエホバ柱と海と臺およびこの邑に餘れる器皿につきてかくいひたまふ 二十 是はバビロンの王ネブカデネザルがユダの王エホヤキムの子エコニヤおよびユダとエルサレムのすべての牧伯等をエルサレムよりバビロンにとらへ移せしときに掠さりし器皿なり 二一 すなはち萬軍のエホバイスラエルの神エホバの室とユダの王の室とエルサレムとに餘れる器皿につきてかくいひたまふ 二二 これらはバビロンに携へゆかれ我これを顧る日まで彼處にあらん其後我これを此處にたづさへ歸らしめんとエホバいひたまふ

第二十八章

一 この年すなはちユダの王ゼデキヤが位に即し初めの四年の五月ギベオンのアズルの子なる預言者ハナニヤエホバの室にて祭司と凡の民の前にて我に語りいひけるは 二 萬軍のエホバイスラエルの神かくいひたまふ我バビロンの王の軛を摧けり 三 二年の内にバビロンの王ネブカデネザルがこの處より取てバビロンに携へゆきしエホバの室の器皿を再び悉くこの處に歸らしめん 四 我またユダの王エホヤキムの子エコニヤおよびバビロンに往しユダのすべての擄人をこの處に歸らしめんこれ我バビロンの王の軛を摧くべければなりとエホバいひたまふ○ 五 是に於て預言者エレミヤエホバの家に立る祭司の前とすべての民

の前にて預言者ハナニヤと語ふ 六 預言者エレミヤすなはちいひけるはアーメン願くはエホバかくなし給へ願くはバビロンに携へゆかれしエホバの室の器皿およびすべて擄へうつされし者をエホババビロンより復びこの處に歸らしめたまはんと汝の預言せし言の成んことを 七 然ど汝いま我なんぢの耳と諸の民の耳に語らんとする此言をきけ 八 我と汝の先にいでし預言者は古昔より多の地と大なる國につきて戰鬪と災難と疫病の事を預言せり 九 泰平を預言する所の預言者は若しその預言者の言とげなばその誠にエホバの遣したまへる者なること知るべし ○ 十 こゝに於て預言者ハナニヤ預言者エレミヤの項より軛を取てこれを摧けり 十一 ハナニヤ諸の民の前にて語りエホバかくいひたまふわれ二年のうちに是の如く萬國民の項よりバビロン王ネブカデネザルの軛を摧きはなさんといふ預言者エレミヤ途に去りぬ 十二 預言者ハ

ナニヤ預言者エレミヤの項より軛を摧きはなせし後エホバの言エレミヤに臨みていふ 十三 汝ゆきてハナニヤにエホバかくいふと告よ汝木の軛を摧きたれども之に代て鐵の軛を作れり 十四 萬軍のエホバイスラエルの神かくいふ我鐵の軛をこの萬國民の項に置きてバビロンの王ネブカデネザルに事へしむ彼ら之につかへんわれ野の獸をもこれに與へたり ○ 十五 また預言者エレミヤ預言者ハナニヤにいひけるはハナニヤよ請ふ聽けエホバ汝を遣はしたまはず汝はこの民に謊を信ぜしむるなり 十六 是故にエホバいひたまふ我汝を地の面よりのぞかん汝エホバに叛くことを教ふるによりて今年死べしと 十七 預言者ハナニヤはその年の七月死り

第廿九章

一 預言者エレミヤエルサレムより書をかの擄へうつされて餘れるところの長老および祭司と預言者ならびにネブカデネザルがエルサレムよりバビロンに移したるすべての民に送れ

り 二 是より先ヱコニヤ王と王后と寺人およびユダとヱルサレムの牧伯等および木匠と鐵匠はヱルサレムをされり 三 ヱレミヤその書をシヤパンの子ヱラサおよびヒルキヤの子ゲマリヤ即ちユダの王ゼデキヤがバビロンにつかはしてバビロンの王ネブカデネザルにいたらしむる者の手によりて送れり其書にいはく 四 萬軍のヱホバイスラエルの神すべて擄うつされし者即ち我ヱルサレムよりバビロンに移さしめし者にかくいふ 五 汝ら屋を建てこれに住ひ園をつくりてその果をくらへ 六 妻を娶て子女をうみ又汝らの子に媳を娶り汝らの女を嫁がしめ彼らに子女を生しめよ此れ汝等かしこにて減ずして増んがためなり 七 我汝らを擄移さしめしところの邑の安を求めこれが爲にヱホバにいのれその邑の安によりて汝らもまた安をうればなり ○ 八 萬軍のヱホバイスラエルの神かくいひたまふ汝らの中の預言者と卜筮士に惑はさる

る勿れまた汝ら自ら作りしところの夢に聽したがふ勿れ 九 そは彼ら我名をもて譌を汝らに預言すればなり我彼らを遣さずとヱホバいひたまふ 十 ヱホバかくいひたまふバビロンに於て七十年滿なばわれ汝らを眷み我嘉言を汝らになして汝らをこの處に歸らしめん 十一 ヱホバいひたまふ我が汝らにむかひて懷くところの念は我これを知るすなはち災をあたへんとにあらず平安を與へんとおもひ又汝らに後と望をあたへんとおもふなり 十二 汝らわれに籲はり往て我にいのらん我汝らに聽べし 十三 汝らもし一心をもて我を索めなば我に尋ね遇はん 十四 ヱホバいひたまふ我汝らの遇ところとならんわれ汝らが俘擄を解き汝らを萬國よりすべて我が汝らを逐やりし處より集め且我汝らをして擄らはれて離れしめしところの處に汝らをひき歸らんとヱホバいひたまふ ○ 十五 ヱホバわれらの爲にバビロンに於て預言者を立たまひしと汝らはいふ 十六

ダビデの位に坐する王とこの邑に住るすべての民汝らと偕にとらへ移されざりし兄弟につきてエホバかくいひたまふ 十七 萬軍のエホバかくいふ視よわれ劍と饑饉と疫病を彼らにおくり彼らを惡くして食はれざる惡き無花果のごとくなさん 十八 われ劍と饑饉と疫病をもて彼らを逐ひまた彼らを地の萬國にわたして虐にあはしめ我彼らを逐やる諸國に於て呪詛となり詫異となり人の嗤笑となり恥辱とならしめん 十九 是彼ら我言を聽ざればなりとエホバいひたまふ我この言を我僕なる預言者によりて遣り頻におくれども汝ら聽ざるなりとエホバいひたまふ○ 二十 わがエルサレムよりバビロンにおくりし諸の俘擄人よ汝らエホバの言をきけ 二一 我名をもて謊を汝らに預言するコラヤの子アハブとマアシヤの子ゼデキヤにつきて萬軍のエホバイスラエルの神かくいふ視よわれ彼らをバビロンの王ネブカデネザルの手に付さん彼これ

を汝らの目の前に殺すべし 二二 バビロンにあるユダの俘擄人は皆かれらをもて詛となし願くはエホバ汝をバビロンの王が火にて焚しゼデキヤとアハブのごとき者となしたまはん事をといふ 二三 これ彼らイスラエルの中に惡をなし鄰の妻を犯し且我彼らに命ぜざる謊の言をわが名をもて語りしによる我これを知りまた證すとエホバいひたまふ○ 二四 汝ネヘラミ人シマヤにかく語りいふべし 二五 萬軍のエホバイスラエルの神かくいふ汝おのれの名をもて書をエルサレムにある諸の民と祭司マシヤの子ゼパニヤおよび諸の祭司に送りていふ 二六 エホバ汝を祭司エホヤダに代て祭司となし汝らをエホバの室の監督となしたまふ此すべて狂妄ひ且みづから預言者なりといふ者を獄と桎梏につながしめんためなり 二七 然るに汝いま何故に汝らにむかひてみづから預言者なりといふところのアナトテのエレミヤを斥責めざるや 二八 そは彼バビロ

ンにをる我儕に書を送り時尙長ければ汝ら家を建て之に住ひ圃をつくりてその實をくらへといへり 二九 祭司ゼパニヤこの書を預言者エレミヤに讀きかせたり 三十 時にエホバの言エレミヤにのぞみていふ 三一 諸の俘擄人に書をおくりて云べしネヘラミ人シマヤの事につきてエホバかくいふ我シマヤを遣さゞるに彼汝らに預言し汝らに譌を信ぜしめしによりて 三二 エホバかくいふ視よ我ネヘラミ人シマヤと其子孫を罰すべし彼エホバに逆くことを敎へしによりて此民のうちに彼に屬する者一人も住ふとなからん且我民に吾のなさんとする善事をみざるべしとエホバいひたまふ

第三十章

一 エホバよりエレミヤにのぞめる言いふ 二 イスラエルの神エホバかく告ていふ我汝に言し言をこと〴〵く書に錄せ 三 エホバいふわれ我民イスラエルとユダの俘囚人を返す日きたらんエホバこれをいふ我彼らをその先祖にあたへし地にかへらしめん彼ら之をたもたん○ 四 エホバのイスラエルとユダにつきていひたまひし言は是なり 五 エホバかくいふ我ら戰慄の聲をきく驚懼あり平安あらず 六 汝ら子を產む男あるやを尋ね觀よ我男の皆子を產む婦のごとく手をその腰におき且その面色皆靑く變るをみるこれ何故ぞや 七 哀かなその日は大にして之に擬ふべき日なし此はヤコブの患難の時なり然ど彼はこれより救出されん 八 萬軍のエホバいふ其日我なんぢの項よりその軛をくだきはなし汝の繩目をとかん異邦人は復彼を使役はざるべし 九 彼らは其神エホバと我彼らの爲に立んところの其王ダビデにつかふべし 十 エホバいふ我僕ヤコブよ懼るゝ勿れイスラエルよ驚く勿れ我汝を遠方より救ひかへし汝の子孫を其とらへ移されし地より救ひかへさんヤコブは歸りて平穩と寧靜をえん彼を畏れしむる者なかるべし 十一 エホバいふ我汝と偕にありて汝を救はん設令われ

汝を散せし國々を悉く滅しつくすとも汝をば滅しつくさじされど我道をもて汝を懲さん汝を全たく罰せずにはおかざるべし○十二エホバかくいふ汝の創は愈ず汝の傷は重し十三汝の訟を理す者なく汝の創を褁む膏藥あらず十四汝の愛する者は皆汝を忘れて汝を求めず是汝の愆の多きと罪の數多なるによりて我仇敵の撃つごとく汝を撃ち嚴く汝を懲せばなり十五何ぞ汝の創のために叫ぶや汝の患は愈ることなし汝の愆の多きと罪の數多なるによりて我これを汝になすなり十六然どすべて汝を食ふ者は食はれすべて汝を虐ぐる者は皆とらはれ汝を掠る者は掠られん凡て汝の物を奪ふ者は我これを奪はるゝ事になさしむべし十七エホバいふ我汝に膏藥を貼り汝の傷を醫さんそは人汝を棄られし者とよび尋る者なきシオンといへばなり○十八エホバかくいふ視よわれかの擄移されたるヤコブの天幕をかへし其住居をあはれまん斯邑はその故の丘に建られん城には宜き樣に人住はん十九感謝と歡樂者の聲とその中よりいでん我かれらを增ん彼ら少からじ我彼らを崇せん彼ら藐められじ二十其子は疇昔のごとくあらん其集會は我前に固く立ん凡かれを虐ぐる者は我これを罰せん二一其首領は本族よりいで其督者はその中よりいでん我彼をちかづけ彼に近かん誰かその生命を繫て我に近くものあらんやとエホバいふ二二汝等は我民となり我は汝らの神とならん二三みよエホバの暴風あり怒と旋轉風いでゝ惡人の首をうたん二四エホバの烈き怒はかれがその心の思を行ひてこれを遂るまでは息じ末の日に汝ら明にこれを曉らん

第三十一章

一エホバいひたまふ其時われはイスラエルの諸の族の神となり彼らは我民とならん二エホバかくいひたまふ劍をのがれて遺りし民は曠野の中に恩を獲たりわれ往て彼イスラエル

に安息をあたへん 三 遠方よりエホバ我に顯きていひたまふ我窮なき愛をもて汝を愛せり故にわれたえず汝をめぐむなり 四 イスラエルの童女よわれ復び汝を建ん汝は建らるべし汝ふたゝび鼓をもて身を飾り歡樂者の舞にいでん 五 汝また葡萄の樹をサマリヤの山に植ん植る者は植てその果を食ふことをえん 六 エフライムの山の上に守望者の立て呼はる日きたらん、いはく汝ら起よ我らシオンにのぼりて我儕の神エホバにまうでんと 七 エホバかくいひたまふ汝らヤコブの爲に歡て呼はり萬國の首なる者のために叫べ汝ら示し且歌ひて言へエホバよ願くはイスラエルの遺れる者汝の民を救ひたまへと 八 みよ我彼らを北の地よりひきかへり彼らを地の極より集めん彼らの中には瞽者跛者孕める婦子を產し婦ともに居る彼らは大なる群をなして此處にかへらん 九 彼ら悲泣來らん我かれらをして祈禱をもて來らしめ直くして躓か

ざる途より水の流に歩をいたらしめん我はイスラエルの父にしてエフライムは我長子なればなり ○ 十 萬國の民よ汝らエホバの言をきゝ之を遠き諸島に示していへイスラエルを散せしものこれを聚め牧者のその群を守るが如く之を守らん 十一 すなはちエホバヤコブを贖ひ彼等よりも強き者の手よりかれを救出したまへり 十二 彼らは來てシオンの頂によばゝりエホバの賜ひし祚なる麥と酒と油および若き羊と牛の爲に寄集はんその靈魂は灌ふ園のごとくならん彼らは重て愁ふること無るべし 十三 その時童女は舞てたのしみ壯者と老者もろともに樂しまん我かれらの悲をかへて喜となしかれらの愁をさりてこれを慰さめん 十四 われ膏をもて祭司の心を飫しめ我恩をもて我民に滿しめんとエホバ言たまふ

○ 十五 エホバかくいひたまふ歎き悲みいたく憂ふる聲ラマに聞ゆラケルその兒子のために歎きその兒子のあらずなりしによりて

慰をえず 十六 エホバかくいひたまふ汝の聲を禁て哭こと勿れ汝の目を禁て涙を流すこと勿れ汝の工に報あるべし彼らは其敵の地より歸らんとエホバいひたまふ 十七 汝の後の日に望あり兒子等の境に歸らんとエホバいひたまふ○ 十八 われ固にエフライムのみづから歎くをきけり云く汝は我を懲しめたまふ我は軛に馴ざる犢のごとくに懲治を受たりエホバよ汝はわが神なれば我を牽轉したまへ然ば我轉るべし 十九 われ轉りし後に悔い數を承しのちに我髀を撃つ我幼時の羞を身にもて恥ぢかつ辱しめらるゝなりと 二十 エホバいひたまふエフライムは我愛するところの子悦ぶところの子ならずや我彼にむかひてかたるごとに彼を念はざるを得ず是をもて我膓かれの爲に痛む我必ず彼を恤むべし 二十一 汝のために指路號を置き汝のために柱をたてよ汝のゆける道なる大路に心をとめよイスラエルの童女よ歸れこの汝の邑々にかへれよ

二十二 逆ける女よ汝いつまで流蕩ふやエホバ新き事を地に創造らん女は男を抱くべし○ 二十三 萬軍のエホバイスラエルの神かくいひたまふ我かの俘囚し者を返さん時人々復ユダの地とその邑々に於て此言をいはん義き居所よ聖き山よ願くはエホバ汝を祝みたまへと 二十四 ユダとその諸の邑々に農夫と群を牧ふものと偕に住はん 二十五 われ疲れたる靈魂を飫しめすべての憂ふる靈魂をなぐさむるなり 二十六 茲にわれ目を醒しみるに我眠は甘なりし○ 二十七 エホバいひたまふ視よ我が人の種と畜の種とをイスラエルの家とユダの家とに播く日いたらん 二十八 我彼らを拔き毀ち覆し滅し難さんとうかゞひし如くまた彼らを建植んとうかゞふべしとエホバいひたまふ 二十九 その時彼らは父が酸き葡萄を食ひしによりて兒子の齒齭くと再びいはざるべし 三十 人はおの〳〵自己の惡によりて死なん凡そ酸き葡萄をくらふ人はその齒齭く○ 三十一 エホバいひたまふみよ我

イスラエルの家とユダの家とに新き契約を立る日きたらん 三二 この契約は我が彼らの先祖の手をとりてエジプトの地よりこれを導きいだせし日に立し所の如きにあらず我これらを娶りたれども彼らはその我契約を破れりとエホバいひたまふ 三三 然どかの日の後にわがイスラエルの家に立んところの契約は此なり即ちわれ我律法をこれらの衷におきその心の上に錄さん我は彼らの神となり彼らは我民となるべしとエホバいひたまふ 三四 人おの〳〵其隣とその兄弟に教へて汝エホバを識と復いはじそは少より大にいたるまで悉く我をしるべければなりとエホバいひたまふ我彼らの不義を赦しその罪をまた思はざるべし 三五 エホバかく言すなはち是日をあたへて晝の光となし月と星をさだめて夜の光となし海を激してその濤を鳴しむる者その名は萬軍のエホバと言なり 三六 エホバいひたまふもし此等の規律我前に廢らばイスラエルの子孫も我前に廢りて永遠も民たることを得ざるべし 三七 エホバかくいひたまふ若し上の天量ることを得下の地の基探ることをえば我またイスラエルのすべての子孫を其もろ〳〵の行のために棄べしエホバこれをいふ 三八 エホバいひたまふ視よ此邑ハナニエルの塔より隅の門までエホバの爲に建つ日きたらん 三九 量繩ふたゝび直ちにガレブの岡をこえゴアテの方に轉るべし 四十 屍と灰の谷またケデロンの谿にいたるまでと東の方の馬の門の隅にいたるまでの諸の田地皆エホバの聖き處となり永遠におよぶまで再び拔れまた覆さるゝ事なかるべし

第三十二章

一 ユダの王ゼデキヤの十年即ちネブカデネザルの十八年の頃エホバの言エレミヤにのぞめり 二 その時バビロンの軍勢エルサレムを攻環み居て預言者エレミヤはユダの王の室にある獄の庭の内に禁錮られたり 三 ユダの王ゼデキヤ彼を禁錮ていひ

けるは汝何故に預言してエホバかく云たまふといふや云く視よ我この邑をバビロン王の手に付さん彼之を取るべし　四　またユダの王ゼデキヤはカルデヤ人の手より脱れず必ずバビロン王の手に付され口と口とあひ語り目と目あひ観るべし　五　彼ゼデキヤをバビロンに携きゆかんゼデキヤはわが彼を顧る時まで彼處に居らんとエホバいひたまふ汝らカルデヤ人と戰ふとも勝ことを得じと

○　六　エレミヤいふエホバの言我に臨みていはく　七　みよ汝の叔父シヤルムの子ハナメル汝にきたりていはん汝アナトテに在るわが田地を買へそは之を贖ふ事は汝の分なればなりと　八　かくてエホバの言のごとく我叔父の子ハナメル獄の庭にて我に來り云けるは願くは汝ベニヤミンの地のアナトテに在るわが田地を買へそは之を嗣ぎなれを贖ふことは汝の分なれた汝みづからこれを買ひとれとあるに於てわれ此はエホバの言なりと知りたれば

九　我叔父の子ハナメルのアナトテにもてる田地をかひて彼に銀十七シケルを稱てわたす　十　すなはち我その契券を書てこれに封印し證人をたて權衡をもて銀を稱て與ふ　十一　而してわれその約定をのするところの封印せし買券とその開きたるものを取り　十二　わが叔父の子ハナメルと買券に印せし證人の前および獄の庭に坐するユダ人の前にてその買契をマアセヤの子なるネリヤの子バルクに與へ　十三　彼らの前にてわれバルクに命じていひけるは　十四　萬軍のエホバイスラエルの神かく云たまふ汝これらの契券すなはち此買券の封印せし者と開きたるものを取り之を瓦器の中に貯へて多の日の間保たしめよ　十五　萬軍のエホバイスラエルの神かくいひたまふそは此地に於て人復屋と田地と葡萄園を買ふにいたらんと

○　十六　われ買契をネリヤの子バルクに付せしのちエホバに祈りて云けるは　十七　嗚呼主エホバよ汝はその大なる能力と伸たる

腕をもて天と地を造りたまへり汝に爲す能はざるところなし 十八 汝は恩寵を千萬人に施し又父の罪をその後の子孫の懷に報いたまふ汝は大なる全能の神にいまして其名は萬軍のエホバとまうすなり 十九 汝の謀畧は大なり汝は事をなすに能あり汝の目は人の諸々の途を鑒はしおの〱の行に循ひその行爲の果によりて之に報いたまふ 二十 汝は休徵と奇跡をエジプトの地に行ひたまひて今日にまでいたるまたイスラエルと他の民の中にも然りかくして今日のごとくに汝の名を揚たまへり 二一 汝は休徵と奇跡と強き手と伸たる腕と大なる怖しき事をもて汝の民イスラエルをエジプトの地より導きいだし 二二 この地を彼らにたまへり是即ち汝がかれらの先祖等に與へんと誓ひたまひし乳と蜜の流るゝ地なり 二三 彼等すなはち入てこれを獲たりしかども汝の聲に遵はず汝の例典を行はず凡て汝がなせと命じたまひし事を爲ざり

しによりて汝この災を其上にくだらしむ 二四 みよ壘成り是この邑を取んとて來れるなり劍と饑饉と疫病のためにこの邑は之を攻るカルデヤ人の手に付さる汝のいひたまひしことば既に成れり汝之を見たまふなり 二五 主エホバよ汝己れに銀をもて田地を買へ証人を立よといひたまへり然るにこの邑はカルデヤ人の手に付さる○ 二六 時にエホバの言エレミヤに臨みていふ 二七 みよ我はエホバなりすべて血氣ある者の神なり我に爲す能はざるところあらんや 二八 故にエホバかくいふ視よ己れ此邑をカルデヤ人の手とバビロンの王ネブカデネザルの手に付さん彼これを取るべし 二九 この邑を攻るところのカルデヤ人きたり火をこの邑に放て之を焚ん屋蓋のうへにて人がバアルに香を焚き他の神に酒をそゝぎて我を怒らせしその屋をも彼ら亦焚ん 三十 そはイスラエルの子孫とユダの子孫はその幼少時より己が前に惡き事のみをなしまたイ

スラエルの民はその手の作爲をもて我をいからする事のみをなしたればなりヱホバ之をいふ 三一 此邑はその建し日より今日にいたるまで我震怒を惹き我憤恨をおこすところの者なれば我前よりわれ之を除かんとするなり 三二 こはイスラエルの民とユダの民の諸の惡を行て我を怒らせしによりてなり彼らその王等その牧伯等その祭司その預言者およびユダの人々とエルサレムに住る者皆然なせり 三三 彼ら背を我にむけて面を我にむけずわれ彼らををしへ頻に教ふれどもかれらは教をきかずしてうけざるなり 三四 彼らは憎むべき物をわが名をもて稱へらるゝ室にたてゝ之を汚し 三五 又ベンヒンノムの谷にあるバアルの崇邸を築きその子女をモロクに獻げたりわれは彼らにこの憎むべきことを行ひてユダに罪を犯さしむることを命ぜず斯る事は我心におこらざりしなり

○ 三六 いまイスラエルの神ヱホバこの邑すなはち汝らが劍と饑饉

と疫病のためにバビロン王の手に付されんといひし所の邑につきて斯いひたまふ 三七 みよわれ我震怒と憤恨と大なる怒をもて彼らを逐やりし諸の國より彼らを集め此處に導きかへりて安然に居らしめん 三八 彼らは我民となり我は彼らの神とならん 三九 われ彼らに一の心と一の途をあたへて常に我を畏しめんこれ彼らと其子孫とに福をえせしめん爲なり 四十 われ彼らを棄ずして恩を施すべしといふ永遠の契約をかれらにたてゝ我を畏るゝの畏をかれらの心におきて我を離さらしめん 四一 われ悦びて彼らに恩を施し心を尽し精神をつくして誠に彼らを此地に植べし 四二 ヱホバかくいひたまふわが此諸の大なる災をこの民に降せしごとくわがかれらに言し諸の福をかれらに降さん 四三 人衆この地に田野を買はん是汝等が荒て人も畜もなきにいたりカルデヤ人の手に付されしといへる地なり 四四 人衆ベニヤミンの地とエルサレムの四周と

ユダの邑々と山の邑々と平地の邑々と南の方の邑々において銀をもて田野をかひ契券を書きてこれに封印し又證人をたてんそれ我かの俘囚者を歸らしむればなりとエホバいひたまふ

第三十三章

一 エレミヤ尚獄の庭に禁錮られてをる時エホバの言ふたゝび彼に臨みていふ 二 事をおこなふエホバ事をなしてこれを成就るエホバ その名をエホバと名る者かく言ふ 三 汝われに籲求めよわれ汝に應へんまた汝が知ざる大なる事と秘密たることとを汝に示さん○四 イスラエルの神エホバ壘と劍によりて毀たれたるこの邑の室とユダの王の室につきていひたまふ 五 彼らカルデヤ人と戰はんとて來る是は我震怒と憤恨をもて殺すところの人々の屍体充るにいたらん我かれらの諸の惡のためにわが面をこの邑に蔽ひかくせり 六 視よわれ卷布と良藥をこれに持きたりて人々を醫し平康と眞實の豐厚なるをこれに示さん 七 われユダの俘囚人とイスラエルの俘囚人を歸らしめ彼らを建て從前のごとくになすべし 八 われ彼らが我にむかひて犯せし一切の罪を潔め彼らが我にむかひて犯し且行ひし一切の罪を赦さん 九 此邑は地のもろ〳〵の民の中において我がために欣喜の名となり頌美となり榮耀となるべし彼等はわが此民にほどこすところの諸の恩惠を聞ん而してわがこの邑にほどこすところの諸の恩惠と諸の福祿のために發振へ且身を動搖さん○十 エホバかくいひたまへり汝らが荒て人もなく畜もなしといひしこの處即ち荒れて人もなく住む者もなく畜もなきユダの邑とエルサレムの街に 十一 再び欣喜の聲歡樂の聲新娶者の聲新婦の聲および萬軍のエホバをあがめよエホバは善にしてその矜恤は窮なしといひて其感謝の祭物をエホバの室に携ふる者の聲聞ゆべし蓋われこの地の俘囚人を返らしめて初のごとくになすべければなりとエホバ

之をいひたまふ○十二萬軍のエホバかくいひたまふ荒て人もなく畜もなきこの處と其すべての邑々に再び牧者のその群を伏しむる牧場あるにいたらん十三山の邑と平地の邑と南の方の邑とベニヤミンの地とエルサレムの四周とユダの邑において群ふたゝびその之を核ふる者の手の下を過らんとエホバいひたまふ○十四エホバ言たまはく視よ我イスラエルの家とユダの家に語りし善言を成就る日きたらん十五その日その時にいたらばわれダビデの爲に一の義き枝を生ぜしめん彼は公道と公義を地に行ふべし十六その日ユダは救をえエルサレムは安らかに居らんその名はエホバ我儕の義と稱へらるべし十七エホバかくいひたまふイスラエルの家の位に坐する人ダビデに缺ることなかるべし十八また我前に燔祭をさゝげ素祭を燃し恒に犠牲を獻る人レビ人なる祭司に絕さるべし○十九エホバのことばエレミヤに臨みていふ二十エホバかくいふ汝らもし我晝につきての契約と我夜につきての契約を破りてその時々に晝も夜もなからしむることをえば二十一僕ダビデに吾が立し契約もまた破れその子はかれの位に坐して王となることをえざらんまたわが我に事ふるレビ人なる祭司に立し契約も破れん二十二天の星は數へられず濱の沙は量られずわれその如く我僕ダビデの裔と我に事ふるレビ人を增ん二十三エホバの言またエレミヤに臨みていふ二十四汝この民の語りてエホバはその選し二の族を棄たりといふを聞ざるか彼らはかく我民を藐じてその眼にこれを國と見なさゞるなり二十五エホバかくいひたまふもしわれ晝と夜とについての契約を立ずまた天地の律法を定めずば二十六われヤコブと我僕ダビデとの裔をすてゝ再びかれの裔の中よりアブラハムイサクヤコブの裔を治むる者を取ざるべし我その俘囚し者を返らしめて之を憐れむべし

第三十四章

一バビロンの王ネブカデネザルその全軍および己の手の下に屬するところの地の列國の人および諸の民を率てエルサレムとその諸邑を攻めて戰ふ時ヱホバの言ヱレミヤに臨みていふ二イスラエルの神ヱホバかくいふ汝ゆきてユダの王ゼデキヤに告ていふべしヱホバかくいひたまふ視よわれ此邑をバビロン王の手に付さん彼火をもて之を焚べし三汝はその手を脱れず必ず擒へられてこれが手に付されん汝の目はバビロン王の目をみ又かれの口は汝の口と語ふべし汝はバビロンにゆくにいたらん四然どユダの王ゼデキヤよヱホバの言をきけヱホバ汝の事につきてかくいひたまふ汝は劍に死じ五汝は安らかに死なん民は汝の先祖たる汝の先の王等の爲に香を焚しごとく汝のためにも香を焚き且汝のために嘆て嗚呼主よといはん我この言をいふとヱホバいひたまふ六預言者ヱレミヤこの言をことごとくエルサレムにてユダの王ゼデキヤにつげたり七時にバビロン王の軍勢はエルサレムおよび存れるユダの諸の邑を攻めラキシとアゼカを攻て戰ひをる其はユダの諸邑のうちに是等の城の邑倚存りゐたればなり○八ゼデキヤ王エルサレムに居る諸の民と契約を立て彼らに釋放の事を宣示せし後ヱホバの言ヱレミヤに臨めり九その契約はすなはち人をしておの〱其僕婢なるヘブルの男女を釋たしめその兄弟なるユダヤ人を奴隷となさゞらしむる者なりき十その契約をなせし牧伯等とすべての民は人おのおのその僕婢を釋ちて再び之を奴隷となすべからずといふをきゝて遂にそれに聽したがひてこれを釋ちしが十一後に心をひるがへしてその釋ちし僕婢をひきかへりて再び之を伏從はしめて僕婢となせり十二是故にヱホバの言ヱホバよりヱレミヤにのぞみて云十三イスラエルの神ヱホバかくいふ我汝らの先祖をエジプトの地

その奴隷たりし宅より導きいだせし時彼らと契約を立ていひけらく十四汝らの兄弟なるヘブル人の身を汝らに賣たる者を七年の終に汝らおの〳〵これを釋つべし彼六年汝につかへたらば之を釋つべしと然るに汝らの先祖等は我に聽ず亦その耳を傾けざりし十五然ど汝らは今日心をあらためておの〳〵其鄰人に釋放の事を示して己が目に正とみゆる事を行ひ且我名をもて稱へらるる室に於て我前に契約を立たり十六然るに汝ら再び心をひるがへして我名を汚し各自釋ちて其心に任せしめたる僕婢をひき歸り再び之を伏從しめて汝らの僕婢となせり十七この故にヱホバかくいひたまふ汝ら我に聽ておの〳〵其兄弟とその鄰に釋放の事を示さゞりしによりて視よ己れ汝らの爲に釋放を示して汝らを劍と饑饉と疫病にわたさん我汝らをして地の諸の國にて艱難をうけしむべし十八ヱホバこれを云ふ犢を兩にさきて其二個の間を過

り我前に契約をたてゝ却つて其言に從はずわが契約をやぶる人々十九即ち兩に分ちし犢の間を過りしユダの牧伯等ヱルサレムの牧伯等と寺人と祭司とこの地のすべての民を二十己れ其敵の手とその生命を索る者の手に付さんその屍体は天空の鳥と野の獸の食物となるべし二一且己れユダの王ゼデキヤとその牧伯等をその敵の手其生命を索むる者の手汝らを離れて去しバビロン王の軍勢の手に付さん二二ヱホバいひたまふ視よ我彼らに命じて此邑に歸らしめん彼らこの邑を攻て戰ひ之を取り火をもて焚くべし己れユダの諸邑を住人なき荒地となさん

第三十五章

一ユダの王ヨシヤの子ヱホヤキムの時ヱレミヤにのぞみしヱホバの言いふ二汝レカブ人の家に往て彼らとかたり彼らをヱホバの室の一房に携きたりて酒をのませよと三是に於てわれハバジニヤの子なるヱレミヤの子ヤザニヤとその兄弟とそ

の諸子およびレカブ人の全家を取り 四 これをエホバの室にあるハナンの諸子の房につれきたりハナンはイグダリヤの子にして神の人なりその房は牧伯等の房の次にして門を守るシヤレムの子マアシヤの房のうへに在り 五 われすなはちレカブ人の家の諸子の前に酒を満したる壺と杯を置き彼らに告て汝ら酒を飲めといひければ 六 彼らこたへけるは我儕は酒をのまず蓋レカブの子なる我らの先祖ヨナダブ我らに命じて汝等と汝らの子孫はいつまでも酒をのむべからず 七 また汝ら屋を建ず種をまかず葡萄園を植ざれ亦これを有べからず汝らの生存ふるあひだ幕屋にをれ然ば汝らが寄寓ところの地に於て汝らの生命長からんと云たればなり 八 斯我らはレカブの子なるわれらの先祖ヨナダブの凡て命ぜし言に遵ひて我儕とわれらの妻と子女は生存ふるあひだ酒を飲ず 九 我らは住べき屋を建ず葡萄園も田野も種も有ずし

て 十 幕屋にをりすべて我儕の先祖ヨナダブが我らに命ぜしごとく行へり 十一 然どバビロンの王ネブカデネザルがこの地に上り来りしとき我ら云けるは我らカルデヤ人の軍勢とスリヤ人の軍勢を畏るれば去来エルサレムにゆかんとすなはち我らはエルサレムに住へり

〇 十二 時にエホバの言エレミヤにのぞみていふ 十三 萬軍のエホバイスラエルの神かくいふ汝ゆきてユダの人々とエルサレムに住る者とに告よエホバいひたまふ汝らは我言を聴て教を受ざるか 十四 レカブの子ヨナダブがその子孫に酒を飲むべからずと命ぜし言は行はる彼らは今日に至まで酒をのまず其先祖の命令に遵なり然るに汝らは吾汝らに語り頻に語れども我にきかざるなり 十五 我また我僕なる預言者たちを汝らに遣し頻にこれを遣していはせけるは汝らいまおの〱其悪き道を離れて歸り汝らの行をあらためよ他の神に従ひて之に奉ふる勿れ然ば汝らは也

が汝らと汝らの先祖に與へたるこの地に住ことをえん然ど汝らは耳を傾ず我にきかざりき 十六 レカブの子ヨナダブの子孫はその先祖が彼らに命ぜしところの命令に遵ふなり然ど此民は我に聽ず 十七 是故に萬軍の神エホバ イスラエルの神かくいふ視よわれユダとエルサレムに住る者とに我彼らにつきていひし所の災を降さん我かれらに語れども聽ずかれらを召ども應へざればなり 十八 茲にエレミヤ レカブ人の家にいひけるは萬軍のエホバ イスラエルの神かくいひたまふ汝らはその先祖ヨナダブの命に遵ひその凡の誡を守り彼が汝らに命ぜしことを行ふ 十九 是によりて萬軍のエホバ イスラエルの神かくいひたまふレカブの子ヨナダブには我前に立つ人いつまでも缺ることあらじ

第三十六章

一 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムの四年にこの言エホバよりエレミヤに臨みていふ 二 汝卷物をとり我汝に語りし日即ちヨシヤの日より今日に至るまでイスラエルとユダと萬國とにつきてわが汝に語りしすべての言を之に錄せ 三 ユダの家わが降さんと擬るところの災をきゝて各自その惡き途をはなれて轉ることもあらん然ばわれ其愆とその罪を赦すべし 四 是に於てエレミヤ ネリヤの子バルクを召べりバルクすなはちエレミヤの口にしたがひエホバの彼に告たまひし言をことごとく卷物に錄せり 五 エレミヤ バルクに云けるはわれは禁錮られたればエホバの室に往ことを得ず 六 故に汝ゆきて汝が我の口にしたがひて卷物に錄したるエホバの言をよみ斷食の日にエホバの室に於て民の耳にこれを聽しめよまた之を讀みてユダの人々のその邑々より來れる者の耳に聽しむべし 七 彼らエホバの前にその祈禱を獻り各自その惡き途をはなれて轉ることもあらんエホバのこの民につきてのべたまひし怒と憤は大なり 八 斯てネリヤの子バルクは

凡て預言者ヱレミヤが己に命ぜしごとくヱホバの室にてその卷物よりヱホバの言を讀り〇九ユダの王ヨシヤの子ヱホヤキムの五年九月ヱルサレムの諸の民およびユダの諸邑よりヱルサレムに來たる諸の民にヱホバの前に斷食を行ふべきことを宣示さる十バルクヱホバの室の上庭に於てヱホバの室の新しき門の入口の旁にあるシヤパンの子なる書記ゲマリヤの房にてその書よりヱレミヤの言を民に讀きかせたり十一シヤパンの子なるゲマリヤの子ミカヤその書のヱホバの言を盡くきゝて十二王の宮にある書記の房にくだりいたるに諸の牧伯等即ち書記エリシヤマシマヤの子デラヤアカボルの子ヱルナタンシヤパンの子ゲマリヤハナニヤの子ゼデキヤおよび諸の牧伯等そこに坐せり十三ミカヤバルクが書を讀て民の耳に聽せしときに己が聽し所のすべての言を彼らに告ければ十四牧伯等クシの子シレミヤの子なる子タニヤの子

ヱホデをバルクに遣していはせけるは汝が民に讀きかせしその卷物を手に取て來れと子リヤの子バルクすなはち手に卷物を取りて彼らの許にきたりたれば十五彼らバルクにいひけるは請ふ坐して之を我らに讀きかせよとバルクすなはち彼らに讀聞せたり十六彼らその諸の言をきゝて俱に懼れバルクにいひけるは我ら必ずこれ諸の言を王に告んと十七またバルクに問ていひけるは請ふ汝いかにこの諸の言をかれの口にしたがひて錄せしや我らに告よ十八バルク答へけるは彼その口をもてこの諸の言を我に述べたれば我墨をもて之を書に錄せり十九牧伯等バルクにいひけるは汝ゆきてヱレミヤとゝもに身を匿し在所を人に知しむべからずと二十すなはち卷物を書記エリシヤマの房に置きて庭にいり王に詣てこの諸の言を王につげゝれば廿一王その卷物を持來らせんとてヱホデを遣はせりヱホデすなはち書記エリシヤマの房より卷

物を取來りて之を王と王の側に立るすべての牧伯等に讀みきかせたり 二二 時は九月にして王冬の室に坐せり其前に火の燃る爐ありき 二三 ヱホデ三枚か四枚を讀ける時王小刀をもてその巻物を切割き爐の火に投いれて之を盡く爐の火に焚り 二四 王とその臣僕等はこの諸の言をきけども懼れず亦その衣を裂ざりき 二五 ヱルナタンデラヤゲマリヤ等王にその巻物を焚たまふ勿れと求めたれども聽ざりき 二六 王ハンメレクの子ヱラメルとアヅリエルの子セラヤとアブデルの子セレミヤに書記バルクと預言者ヱレミヤを執へよと命ぜしがヱホバかれらを匿したまへり○ 二七 王巻物およびバルクがヱレミヤの口にしたがひて記せし言を焚しのちヱホバの言ヱレミヤに臨ていふ 二八 汝また他の巻物をとりユダの王ヱホヤキムが焚しところの前の巻物の中の言をこと〲く其に錄せ 二九 汝またユダの王ヱホヤキムに告よヱホバかくいふ汝かの巻物を

焚ていへり汝何なれば此巻物に錄してバビロンの王必ず來りてこの地を滅し此に人と畜を絶さんと云しやと 三十 この故にヱホバユダの王ヱホヤキムにつきてかくいひたまふ彼にはダビデの位に坐する者無にいたらん且かれの屍は棄られて晝は熱氣にあひ夜は寒氣にあはん 三一 我また彼とその子孫とその臣僕等をその惡のために罰せんまた彼らとヱルサレムの民とユダの人々に我わがかれらにつきて語りしかども彼らが聽ことをせざりし所の禍を降すべし○ 三二 是に於てヱレミヤ他の巻物を取てネリヤの子書記バルクにわたすバルクすなはちユダの王ヱホヤキムが火に焚たるところの書の諸の言をヱレミヤの口にしたがひて之に錄し外にまた斯る言を多く之に加へたり

第三十七章

一 ヨシヤの子ゼデキヤ ヱホヤキムの子コニヤに代りて王となる、バビロンの王ネブカデネザル彼をユダの地に王とな

せしなり 二 彼もろもろの臣僕等もろもろの地の人々もエホバが預言者エレミヤによりて示したまひし言を聽ざりき 三 ゼデキヤ王セレミヤの子ユカルとマアセヤの子祭司ゼパ子ヤを預言者エレミヤに遣して請ふ汝我らの爲に我らの神エホバに祈れといはしむ 四 エレミヤは民の中に出入せりそはいまだ獄に入られざればなり 五 パロの軍勢のエジプトより來りしかばエルサレムを攻圍みたるカルデヤ人は其音信をきゝてエルサレムを退けり ○ 六 時にエホバの言預言者エレミヤにのぞみていふ 七 イスラエルの神エホバかくいふ汝らを遣して我に求めしユダの王にかくいへ汝らを救はんとて出きたりしパロの軍勢はおのれの地エジプトへ歸らん 八 カルデヤ人再び來りてこの邑を攻て戰ひてこれを取り火をもて焚べし 九 エホバかくいふ汝らカルデヤ人は必ず我らをはなれて去んといひて自ら欺く勿れ彼らは去ざるべし 十 設令汝らおのれ

を攻て戰ふところのカルデヤ人の軍勢を悉く撃ちやぶりてその中に負傷人のみを遺すとも彼らはおの〳〵其幕屋に起ちあがり火をもて此邑を焚なん ○ 十一 茲にカルデヤ人の軍勢パロの軍勢を懼れてエルサレムを退きければ 十二 エレミヤベニヤミンの地にゆき彼處にて其分を民の中に分ち取んとてエルサレムをいでんとせしが 十三 ベニヤミンの門にいりし時そこにハナニヤの子シレミヤの子なるイリヤと名くる門守をり預言者エレミヤを執へて汝はカルデヤ人に降るなりといふ 十四 エレミヤいひけるは詐なり我はカルデヤ人に降るにあらずと然どイリヤこれを聽ずエレミヤを執へて侯伯等の許に引ゆけり 十五 侯伯すなはち怒りてエレミヤを撻ちてこれを書記ヨナタンの室の獄にいれたり蓋この室を獄となしたればなり 十六 エレミヤ獄にいり土牢に入てそこに多の日を送りしのち 十七 ゼデキヤ王人を遣して彼をひきいださしめ而して

王室にて竊にかれにいひけるはヱホバより臨める言あるやとヱレミヤ答へていひけるは有り汝はバビロン王の手に付されん 十八 ヱレミヤまたゼデキヤ王にいひけるは我汝あるひは汝の臣僕或はこの民に何なる罪を犯したれば汝ら我を獄にいれしや 十九 汝らに預言してバビロンの王は汝らにも此地にも攻來らじといひし汝らの預言者はいま何處にあるや 二十 さればわが君よ願くはいま我に聽たまへ請ふわが願望を受納れたまへ我を書記ヨナタンの家に歸らしめたまふなかれ恐くは我彼處に死なんと 二十一 是においてゼデキヤ王命じてヱレミヤを獄の庭にいれしめ且邑のパンの悉く盡るまでパンを製る者の街より日々に一片のパンを彼に與へしむ即ちヱレミヤは獄の庭にをる

第三十八章

一 マツタンの子シパテヤ パシユルの子ゲダリア シレミヤの子ユカル マルキヤの子パシユル ヱレミヤがすべての民に

告たるその言を聞り 二 云くヱホバかくいひたまふこの邑に留るものは剣と饑饉と疫病に死べし然といでゝカルデヤ人に降る者は生んすなはちその生命をおのれの掠取物となして生べし 三 ヱホバかくいひたまふこの邑は必ずバビロン王の軍勢の手に付されん彼之を取べしと 四 是をもてかの牧伯等王にいひけるは請ふこの人を殺したまへ彼はかくの如き言をのべて此邑に遺れる兵卒の手と民の手を弱くす夫人は民の安を求めずしてその害を求るなりと 五 ゼデキヤ王いひけるは視よ彼は汝らの手にあり王は汝らに逆ふこと能はざるなりと 六 彼らすなはちヱレミヤを取て獄の庭にあるハンメレクの子マルキヤの阱に投いる即ち索をもてヱレミヤを縋下せしがその阱は水なくして汚泥のみなりければヱレミヤは汚泥のなかに沈めり 七 王の室の寺人エテオピヤ人エベデメレク彼らがヱレミヤを阱になげいれしを聞り時に王ベ

ニヤミンの門に坐しゐたれば 八 エベデメレク王の室よりいでてきて王にいひけるは 九 王わが君よかの人々が預言者エレミヤに行ひし事は皆好らず彼らこれを阱になげ入たり邑の中に食物なければ彼はその居るところに饑死せん 十 王エテオピヤ人エベデメレクに命じていひけるは汝こゝより三十人を携へゆきて預言者エレミヤをその死ざる先に阱より曳あげよ 十一 エベデメレクすなはちその人々を携へて王の室の庫の下にいり其處より破れたる舊き衣の布片をとり索をもてこれを阱にをるエレミヤの所に縋下せり 十二 而してエテオピヤ人エベデメレクエレミヤに告て汝この破れたる舊き衣の布片を汝の腋の下にはさみて索に當よと云ければエレミヤ然なせり 十三 彼らすなはち索をもてエレミヤを阱より曳あげたりエレミヤは獄の庭にをる〇 十四 かくてゼデキヤ王人を遣して預言者エレミヤをエホバの室の第三の門につれ

きたらしめ王エレミヤにいひけるは我汝に問ことあり毫もわれに隠す勿れ 十五 エレミヤゼデキヤにいひけるは我もし汝に示さば汝かならず我を殺さゞらんや假令我汝を勸るとも汝われに聽じ 十六 ゼデキヤ王密にエレミヤに誓ひていひけるは我らにこの靈魂を造りあたへしエホバは活く我汝を殺さず汝の生命を索むる者の手に汝を付さじ 十七 エレミヤゼデキヤにいひけるは萬軍の神イスラエルの神エホバかくいひたまふ汝もしまことにバビロン王の牧伯等に降らば汝の生命活んまた此邑は火にて焚れず汝と汝の家の者はいくべし 十八 然ど汝もし出てバビロンの王の牧伯等に降らずば此邑はカルデヤ人の手に付されん彼らは火をもて之を焚ん汝はその手を脱れざるべし 十九 ゼデキヤ王エレミヤに云けるは我カルデヤ人に降りしところのユダ人を恐る恐くはカルデヤ人我をかれらの手に付さん彼ら我を辱めん 二十 エレミヤいひける

は彼らは汝を付さじ願くはわが汝に告しヱホバの聲に聽したがひたまへさらば汝祥をえん汝の生命いきん二一然ど汝もし降ることを否まばヱホバの言を我に示したまふ二二すなはちユダの王の室に遺れる婦は皆バビロンの王の牧伯等の所に曳いだされん其婦等いはん汝の朋友等は汝を誘ひて汝に勝り汝の足は泥に沈む彼らは退き去る二三汝の妻たちと汝の子女等はカルデヤ人の所に曳出されん汝は其手を脱れじバビロンの王の手に執へられん汝此邑をして火に焚しめん二四ゼデキヤヱレミヤにいひけるは汝この事を人に知する勿れさらば汝殺されじ二五もし牧伯等わが汝と語りしことを我儕に告げよ我らに隱す勿れ然ば我ら汝を殺さじ又王の汝に語りしことを告よといはゞ二六汝彼らに答へて我王に求めてヨナタンの家に歸して彼處に死しむること勿れといへりといふべし○二七かくて牧伯等ヱレミヤにきたりて問けるに彼王の命ぜし言のごとく彼らに告たればその事露はれざりき是をもて彼ら彼とものいふことを罷たり二八ヱレミヤはヱルサレムの取るゝ日まで獄の庭に居りしがヱルサレムの取れし時にも彼處にをれり

第三十九章

一ユダの王ゼデキヤの九年十月バビロンの王ネブカデネザルその全軍をひきゐヱルサレムにきたりて之を攻圍みけるが二ゼデキヤの十一年四月九日にいたりて城邑破られたり三バビロンの王の牧伯等即ちネルガルシヤレゼル　サムガルネボ寺人の長サルセキム博士の長ネルガルシヤレゼルおよびバビロンの王のその外の牧伯等皆ともに入て中の門に坐せり○四ユダの王ゼデキヤおよび兵卒ども之を見て逃げ夜の中に王の園の途より兩の石垣の間の門より邑をいでゝアラバの途にゆきしが五カルデヤ人の軍勢これを追ひエリコの平地にてゼデキヤにおひ付

き之を執へてハマテの地リブラにをるバビロンの王ネブカデネ
ザルの許に曳ゆきければ王かしこにて彼の罪をさだめたり 六 す
なはちバビロンの王リブラにてゼデキヤの諸子をかれの目の前
に殺せりバビロンの王またユダのすべての牧伯等を殺せり 七 王
またゼデキヤの目を抉さしめ彼をバビロンに曳ゆかんとて銅索
に繋げり 八 またカルデヤ人火をもて王の室と民の家をやき且エ
ルサレムの石垣を毀てり○ 九 かくて侍衛の長ネブザラダンは邑
の中に餘れる民とおのれに降りし者およびその外の遺れる民を
バビロンに移せり 十 されど侍衛の長ネブザラダンはその時民の
貧くして所有なき者等をユダの地に遺し葡萄園と田地をこれ
にあたへたり○ 十一 爰にバビロンの王ネブカデネザルはエレミヤの
事につきて侍衛の長ネブザラダンに命じていひけるは 十二 彼を取
りて善く待へよ害をくはふる勿れ彼が汝に云ふごとくなすべし

と 十三 是をもて侍衛の長ネブザラダン寺人の長ネブシヤスバン博
士の長ネルガルシヤレゼルおよびバビロンの王の牧伯等 十四 人を
遣してエレミヤを獄の庭よりたづさへ来らしめシヤパンの子ア
ヒカムの子なるゲダリヤに付して之を家につきゆかしむ斯て彼民
の中に居る○ 十五 エレミヤ獄の庭に禁錮られをる時エホバの言彼
にのぞみていふ 十六 汝ゆきてエテオピヤ人エベデメレクに告よ萬
軍のエホバイスラエルの神かくいふわれ我語しところの禍を此
邑に降さん福はこれに降さじその日この事なんぢは目前にあら
ん 十七 エホバいひたまふその日にはわれ汝を救はん汝はその畏る
るところの人衆の手に付されじ 十八 われ必ず汝を救はん汝は劍を
もて殺されじ汝の生命は汝の掠取物とならん汝われに倚頼ばな
りとエホバいひたまふ

第四十章

一 侍衛の長ネブザラダンかのバビロンにとらへ移さる

ゝエルサレムとユダの人々の中にエレミヤを鏈につなぎおきてこれを執へゆきけるが遂にこれを放ちてラマを去しめたりその後エホバの言エレミヤにのぞめり二玆に侍衛の長エレミヤを召てこれにいひけるは汝の神エホバ此處にこの災あらんことを言り三エホバこれを降しその云し如く行へり汝らエホバに罪を犯しその聲に聽したがはざりしによりてこの事汝らに來りしなり四視よ我今日汝の手の鏈を解て汝を放つ汝もし我とゝもにバビロンにゆくことを善とせば來れわれ汝を善くあしらはん汝もし我と偕にバビロンにゆくを惡とせば留れ視よこの地は皆汝の前に在り汝の善とする所なんぢの心に合ふところに往べし五エレミヤいまだ答へざるに彼またいひけるは汝バビロンの王がユダの諸邑の上にたてゝ有司となせしシャパンの子アヒカムの子なるゲダリヤの許に歸り彼とゝもに民の中に居れ或は汝の善とお

もふところにゆくべしと侍衛の長彼に食糧と禮物をとらせて去しめたり六エレミヤすなはちミツパに往きてアヒカムの子ゲダリヤに詣りその地に遺る民のうちに彼と偕にをる○七玆に田舎にある軍勢の長等および彼らに屬する人々バビロンの王がアヒカムの子ゲダリヤを立てこの地の有司となし男女嬰孩および國の中のバビロンに移されざる貧者を彼にあづけたることをききしかば八即ちネタニヤの子イシマエルとカレヤの子ヨハナンとヨナタンおよびタンホメテの子セラヤとネトパ人なるエバイの諸子と或マアカ人の子ヤザニヤおよび彼らに屬する人々ミツパにゆきてゲダリヤの許にいたる九シャパンの子アヒカムの子なるゲダリヤ彼らと彼らに屬する人々に誓ひていひけるは汝らカルデヤ人に事ることを怖るゝ勿れこの地に住てバビロンの王に事へなば汝ら幸福ならん十我はミツパに居り我らに來らん所

のカルデヤ人に事へん汝らは葡萄酒と菓物と油とをあつめて之を器に蓄へ汝らが獲る所の諸邑に住めと 十一 又モアブとアンモン人の中およびエドムと諸の邦にをる所のユダヤ人はバビロンの王がユダに人を遺したるとシヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤを立てこれが有司となしたることを聞り 十二 是においてそのユダヤ人皆その逐やられし諸の處よりかへりてユダの地のミツパに來りゲダリヤに詣れり而して多の葡萄酒と菓物をあつむ○ 十三 又カレヤの子ヨハナンおよび田舍にをりし軍勢の長たちミツパにきたりてゲダリヤの許にいたり 十四 彼にいひけるは汝アンモン人の王バアリスが汝を殺さんとてネタニヤの子イシマエルを遣せしを知るやと然どアヒカムの子ゲダリヤこれを信ぜざりしが 十五 カレヤの子ヨハナン ミツパにて密にゲダリヤに語りて言けるは請ふわれゆきて人知ずにネタニヤの子イシマエルを殺さんいかで彼汝を殺し汝に集まるユダ人を散しユダの遺れる者を滅すべけんやと 十六 然るにアヒカムの子ゲダリヤ カレヤの子ヨハナンにいひけるは汝この事をなすべからず汝イシマエルにつきて僞をいふなり

第四十一章

一 七月ごろ王の血統なるエリシヤマの子ネタニヤの子イシマエル、王の十人の牧伯等とゝもにミツパにゆきてアヒカムの子ゲダリヤにいたりミツパにて偕に食をなせしが 二 ネタニヤの子イシマエルおよび偕にをりし十人の者起上りバビロンの王がこの地の有司となせしシヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤを刀にて殺せり 三 イシマエルまたミツパにゲダリヤと偕にをりし諸のユダヤ人と彼處にをりしカルデヤ人の兵卒を殺したり 四 彼がゲダリヤを殺してより二日の後いまだ誰も之を知ざりし時 五 ある人八十人その鬚を薙り衣を裂き身に傷つけ手に素祭

の物と香を携へてシケム シロ サマリヤよりきたりてヱホバの室にいたらんとせしかバ 六 ネタニヤの子イシマエル ミヅパよりいでゝ哭きつゝ行て彼らを迎へ彼等に逢てアヒカムの子ゲダリヤの許に來れといへり 七 而して彼ら邑の中に入しときネタニヤの子イシマエル己と偕にある人々とゝもに彼らを殺してその屍を阱に投いれたり 八 但しその中の十人イシマエルにむかひ我らは田地に小麥 大麥 油および蜜を藏し有り我らをころすなかれと言たれば彼らをその兄弟と偕に殺さずして已ぬ 九 イシマエルがゲダリヤの名をもて殺せし人々の屍を投入れし阱はアサ王がイスラエルの王バアシヤを怖れて鑿し阱なりネタニヤの子イシマエルその殺せし人々を之に充せり ○ 十 イシマエルはミヅパに遺りをる諸の民即ち王の諸女と侍衛の長ネブザラダンがアヒカムの子ゲダリヤに交付しところのミヅパに遺れる諸の民とを擄にせり

ネタニヤの子イシマエルすなはち彼らを擄にしアンモニ人に往んとて去れり ○ 十一 カレヤの子ヨハナンおよび彼と偕に在る軍勢の長たちネタニヤの子イシマエルの爲し諸の惡事を聞ければ 十二 その衆卒を率てネタニヤの子イシマエルと戰はんとて出でギベオンの池の旁にて彼に遇ふ 十三 イシマエルと偕に在る人々はカレヤの子ヨハナンおよび彼とゝもに在る軍勢の長たちを見て欣べり 十四 是をもてイシマエルがミヅパより擄へきたりし所の人々身をめぐらしてカレヤの子ヨハナンの許にゆけり 十五 ネタニヤの子イシマエルは八人の者と偕にヨハナンを避け逃てアンモニ人に往り 十六 カレヤの子ヨハナンおよび彼とゝもにある軍勢の長等はネタニヤの子イシマエルがアヒカムの子ゲダリヤを殺してミヅパより擄へゆけるところの彼遺れる民すなはち兵卒婦人兒女寺人等を其手より取りかへして之をギベオンより携かへりしが 十七

進てエジプトにいたらんとてベツレヘムの近傍にあるキムハムの住處に往て留まり 十八 これネタニヤの子イシマエルがバビロンの王の此地の有司となしたるアヒカムの子ゲダリヤを殺せしによりカルデヤ人を懼れたればなり

第四十二章

一 茲に軍勢の長たちおよびカレヤの子ヨハナンとホシヤヽの子エザニヤ並に民の至微者より至大者にいたるまで 二 皆預言者エレミヤの許に來りて言けるは汝の前に我らの求の受納られんことを願ふ請ふ我ら遺れる者の爲に汝の神エホバに祈れ（今汝の目に見がごとく我らは衆多の中の遺れる者にして寡なり） 三 さらば汝の神エホバ我らの行むべき途となすべき事を示したまはん○ 四 預言者エレミヤ彼らに云けるは我汝らに聽り汝らの言に循ひて汝らの神エホバに祈らん凡そエホバが汝らに應へたまふことはわれ隱す所なく汝らに告べし 五 彼らエレミヤにいひけるは願くはエホバ我儕の間にありて眞實ある信ずべき証者となりたまへ我らは汝の神エホバの汝を遣して我らに告しめたまふ諸の事に遵ひて行ふべし 六 我等は善にまれ惡にまれ我らが汝を遣すところの我らの神エホバの聲に遵はん斯我らの神エホバの聲に遵ひてわれら福をうけん○ 七 十日の後エホバの言エレミヤにのぞみしかば 八 エレミヤカレヤの子ヨハナンおよび彼と偕に在る軍勢の長たち並に民の至微者より至大者までを悉く招きて 九 これにいひけるは汝らが我を遣して汝らの祈を獻げしめしところのイスラエルの神エホバかくいひたまふ 十 汝らもし信に此地に留らばわれ汝らを建て倒さず汝らを植て拔じそれ我汝らに災を降せしを悔ればなり 十一 エホバいひたまふ汝らが畏るゝ所のバビロンの王を畏るゝ勿れ彼をおそるゝ勿れ我汝らとともにありて汝らを救ひ彼の手より汝らを拯ふべし 十二 われ汝らを恤

みまた彼をして汝らを憫れませ汝らを故土に歸らしめん 十三 然ど汝らもし我らはこの地に留らじ汝らの神エホバの聲に遵はじと言ひ 十四 また然りわれらはその戰爭を見ず箛の聲をきかず食物に乏しからざるエジプトの地にいたりて彼處に住はんといはゞ 十五 汝らユダの遺れる者よエホバの言をきけ萬軍のエホバイスラエルの神かくいひたまふ汝らもし強てエジプトにゆきて彼處に住はゞ 十六 汝らが懼るゝところの劍エジプトの地にて汝らに臨み汝らが恐るゝところの饑饉エジプトにて汝らにおよばん而して汝らは彼處に死べし 十七 凡そエジプトにおもむき至りて彼處に住はんとする人々は劍と饑饉と疫病に死べしその中には我彼らに降さんところの災を脱れて遺る者無るべし 十八 萬軍のエホバイスラエルの神かくいひたまふ我震怒と憤恨のエルサレムに住る者に注ぎし如くわが憤恨汝らがエジプトにいらん時に汝らに注がん

汝らは呪詛となり詫異となり罵詈となり凌辱とならん汝らは再びこの處を見ざるべしと 十九 ユダの遺れる者よエホバ汝らにつきていひたまへり汝らエジプトにゆく勿れと汝ら今日わが汝らを警しことを確に知れ 二十 汝ら我を汝らの神エホバに遣して言へり我らの爲に我らの神エホバに祈り我らの神エホバの汝に示したまふ事をこと〴〵く我らに告よ我ら之を行はんと斯なんぢら自ら欺けり 二十一 われ今日汝らに告たれど汝らは汝らの神エホバの聲に遵はず汝らはエホバが我を遣して命ぜしめたまひし事には都て遵はざりき 二十二 然ど汝らはその往て住んとねがふ處にて劍と饑饉と疫病に死ることを今確に知るべし

第四十三章

一 エレミヤ諸の民にむかひて其神エホバの言を盡く宣べその神エホバが己を遣して言しめたまへる其諸の言を宣をはりし時 二 ホシヤヽの子アザリヤカレヤの子ヨハナンおよび驕

る人皆エレミヤに語りていひけるは汝は謊をいふ我らの神ヱホバは汝をエジプトにゆきて彼處に住む勿れと汝をつかはして云せたまはざるなり 三 ネリヤの子バルク汝を唆して我らに逆はしむ是我らをカルデヤ人の手に付して殺さしめバビロンに移さしめん爲なり 四 斯カレヤの子ヨハナンと軍勢の長等および民皆ヱホバの聲に遵はずしてユダの地に住ことをせざりき 五 斯てカレヤの子ヨハナンと軍勢の長等はユダに遺れる者即ちその逐やられし國々よりユダの地に住んとて歸りし者 六 男女嬰孩王の女たちおよび凡て侍衛の長ネブザラダンがシヤパンの子なるアヒカムの子ゲダリヤに付し置し者並に預言者エレミヤとネリヤの子バルクを取て 七 エジプトの地に至れり彼ら斯ヱホバの聲に遵はざりき而して遂にタパネスに至れり ○ 八 エホバの言タパネスにてエレミヤに臨みていふ 九 汝大なる石を手に取りユダの人々の目の

前にてこれをタパネスに在るパロの室の入口の旁なる磚窰の泥土の中に藏して 十 彼らにいへ萬軍のエホバイスラエルの神かくいひたまふ視よわれ使者を遣してわが僕なるバビロンの王ネブカデネザルを召きその位をこの藏したる石の上に置しめん彼錦繡をその上に敷べし 十一 かれ來りてエジプトの地を撃ち死に定まれる者を死しめ虜に定まれる者を虜にし劍に定まれる者を劍にかけん 十二 われエジプトの諸神の室に火を燃さんネブカデネザル之を焚きかれらを擄にせん而して羊を牧ふ者のその身に衣を纒ふがごとくエジプトの地をその身に纒はん彼安然に其處をさるべし 十三 彼はエジプトの地のベテシメシの偶像を毀ち火をもてエジプト人の諸神の室を焚べし

第四十四章

一 エジプトの地に住るところのユダの人衆すなはちミグドル タパネス ノフ パテロスの地に住る者の事につきてエレ

ミヤに臨みし言に曰く 二 萬軍のヱホバ イスラエルの神かくいふ 汝らは我がエルサレムとユダの諸邑に降せしところの災をみたり 視よこれらは今日すでに空曠となりて住む人なし 三 これ彼ら惡をなして我を怒らせしによる 即ちかれらは己も汝らも汝らの先祖等も識ざるところの他の神にゆきて香を焚き且これに奉へたり 四 われ我僕なる預言者たちを汝らに遣し頻にこれを遣して請ふ 汝らわが嫌ふところの此憎むべき事を行ふ勿れといはせけるに 五 彼ら聽ず耳を傾けず他の神に香を焚きてその惡を離ざりし 六 是によりて我震怒とわが憤恨ユダの諸邑とエルサレムの街にそゝぎて之を焚たれば其等は今日のごとく荒れかつ傾圮たり 七 萬軍の神イスラエルの神ヱホバいまかくいふ 汝ら何なれば大なる惡をなして己の靈魂を害しユダの中より汝らの男と女と孩童と乳哺子を絶て一人も遺らざらしめんとするや 八 何なれば汝らその手の行爲をもて我を怒らせ汝らが往て住ふところのエジプトの地に於て他の神に香を焚きて己の身を滅し地の萬國の中に呪詛となり凌辱とならんとするや 九 ユダの地とエルサレムの街にて行ひし汝らの先祖等の惡ユダの王等の惡其妻等の惡および汝らの身の惡汝らの妻等の惡を汝ら忘れしや 十 彼らは今日にいたるまで悔ずまた畏れず汝らと汝らの先祖等の前に立たる我律法とわが典例に循て行まざるなり 十一 是故に萬軍のヱホバ イスラエルの神かくいふ 視よわれ面を汝らにむけて災を降しユダの人衆を悉く絶ん 十二 又われエジプトの地にすまんとてその面をこれにむけて往しところの彼ユダの遺れる者を取らん 彼らは皆滅されてエジプトの地に仆れん 彼らは劍と饑饉に滅され微者も大者も劍と饑饉によりて死べし 而して呪詛となり詫異となり罵詈となり凌辱とならん 十三 われエルサレムを罰せし如く劍と饑饉と

疫病をもてエジプトに住る者を罰すべし 十四 是をもてエジプトの地に往て彼處に住るところのユダの遺れる者の中に一人も逃れまたは遺りてその心にしたひて歸り住まんとねがふところのユダの地に歸るもの無るべし逃るゝ者の外には歸る者無るべし○ 十五 是に於てその妻が香を他の神に焚しことを知れる人々および其處に立る婦人等の大いなる群衆並にエジプトの地のパテロスに住るところの民エレミヤに答へて云けるは 十六 汝がエホバの名をもてわれらに述し言は我ら聽じ 十七 我らは必ず我らの口より出る言を行ひ我らが素なせし如く香を天后に焚きまた酒をその前に灌ぐべし即ちユダの諸邑とエルサレムの街にて我らと我らの先祖等および我らの王等と我らの牧伯等の行ひし如くせん當時われらは糧に飽き福を得て災に遇ざりし 十八 我ら天后に香を焚ことを止め酒をその前に灌がずありし時より諸の物に乏しくな

り劍と饑饉に滅されたり 十九 我らが天后に香を焚き酒をその前に灌ぐに方りて之に象てパンを製り酒を灌しは我らの夫等の許せし事にあらずや○ 二十 エレミヤ即ち男女の諸の人衆および此言をもて答へたる諸の民にいひけるは 二一 ユダの諸邑とエルサレムの街にて汝らと汝らの先祖等および汝等の王等と汝らの牧伯等および其地の民の香を焚しことはエホバ之を憶えまた心に思ひたまふにあらずや 二二 エホバは汝らの悪き爲のため汝らの憎むべき行ひのために再び忍ぶことをえせざりきこの故に汝らの地は今日のごとく荒地となり詫異となり呪詛となり住む人なき地となれり 二三 汝ら香を焚きエホバに罪を犯しエホバの聲に聽したがはずその律法と憲法と證詞に循ひて行まざりしに由て今日のごとく此災汝らにおよべり○ 二四 エレミヤまたすべての民と婦等にいひけるはエジプトの地に居るユダの子孫よエホバの言をきけ 二五

萬軍のエホバイスラエルの神かくいひたまふ汝らと汝らの妻等の口をもていひ手をもて成し我ら香を天后に焚き酒を灌て立しところの誓を必ず成就んといふ汝ら必ず誓をたてかならず其誓を成就んとす 二六 この故にエジプトの地に住るユダの人々よエホバの言をきけエホバいひたまふわれ我大なる名を指て誓ふエジプトの全地にユダの人々一人もかの口に主エホバは活くといひて再び我名を稱ふることなきにいたらん 二七 視よわれ彼らをうかゞはん是福をあたふる為にあらず禍をくださん為なりエジプトの地に居るユダの人々は剣と饑饉に滅びて絶るにいたらん 二八 然ど剣を逃るゝ僅少の者はエジプトの地を出てユダの地に歸らん又エジプトの地にゆきて彼處に寄寓れるユダの遺れる者は我の立ところの言は我のなるか彼らのなるかを知るにいたるべし 二九 エホバいひたまふわがこの處にて汝らを罰する兆は是なり我かく

して我汝らに禍をくださんといひし言の必ず立ことを知しめん 三十 すなはちエホバかくいひたまふ視よわれユダの王ゼデキヤを其生命を索むる敵なるバビロンの王ネブカデネザルの手に付せしが如くエジプトの王パロホフラを其敵の手かの生命を索むる者の手に付さん

第四十五章

一 ユダの王ヨシヤの子エホヤキムの四年ネリヤの子バルクが此等の言をエレミヤの口にしたがひて書に録せしとき預言者エレミヤこれに語りていひけるは 二 バルクよイスラエルの神エホバ汝にかくいひたまふ 三 汝曾ていへり嗚呼われは禍なるかなエホバ我憂に悲を加へたまへり我は歎て疲れ安きをえずと 四 汝かく彼に語れエホバかくいひたまふ視よわれ我建しところの者を毀ち我植しところの者を拔ん是この全地なり 五 汝己れの爲に大なる事を求るかこれを求る勿れ視よわれ災をすべての

民に降さん然ど汝の生命は我汝のゆかん諸の處にて汝の掠物とあらしめんとエホバいひたまふ

第四十六章

一 玆にエホバの言預言者エレミヤに臨みて諸國の事を論ふ 二 先エジプトの事すなはちユフラテ河の邉なるカルケミシにて近傍にをるところのエジプト王パロネコの軍勢の事を論ふ是はユダの王ヨシヤの子エホヤキムの四年にバビロンの王ネブカデネザルが撃やぶりし者なり其言にいはく 三 汝ら大楯小干を備へて進み戰へ 四 馬を車に繋ぎ馬に乗り盔を被りて立て戈を磨き甲を着よ 五 われ見るに彼らは懼て退きその勇士は打敗られ狼狽て遁て後をかへりみず是何故ぞや畏懼かれらのまはりにありとエホバいひたまふ 六 快足なる者も逃えず強者も遁れえず皆北の方にてユフラテ河の旁に躓き仆れん 七 かのナイルのごとくに湧あがり河のごとくに其水さかまく者は誰ぞや 八 エジプトはナイルの如くに湧あがりその水は河のごとくに逆まくなり而していふ我上りて地を蔽ひ邑とその中に住る者とを滅さん 九 汝等馬に乗り車を驅馳らせよ勇士よ盾を執るエテオピヤ人プテ人および弓を張り挽くルデ人よ進みいづべし 十 此は主なる萬軍のエホバの復仇の日即ちその敵に仇を復したまふ日なり劍は食ひて飽きその血に醉はん主なる萬軍のエホバ北の地にてユフラテ河の旁に宰ることをなしたまへばなり 十一 處女よエジプトの女よギレアデに上りて乳香を取れ汝多の藥を用ふるも益なし汝は愈ざるべし 十二 汝の恥辱は國々にきこえ汝の號泣は地に滿り勇士は勇士にうち觸てともに仆る 〇 十三 バビロンの王ネブカデネザルが來りてエジプトの地を撃んとする事につきてエホバの預言者エレミヤに告たまひし言 十四 汝らエジプトに宣べミグドルに示し又ノフ、タパネスに示しいふべし汝ら堅く立て自ら備よ劍なんぢの四周

を食ひたればなり 十五 汝の力ある者いかにして拂ひ除かれしやかの立ざるはヱホバこれを仆したまふに由るなり 十六 彼多の者を蹶かせたまふ人其友の上に仆れかさなり而していふ起よ我ら滅ぼすところの劍を避てわが國にかへり故土にいたらんと 十七 人彼處に叫びてエジプトの王パロは滅されたり彼は機會を失へりといふ 十八 萬軍のヱホバと名りたまふところの王いひたまふ我は活く彼は山々の中のタボルのごとく海の邊のカルメルのごとくに來らん 十九 エジプトに住る女よ汝移轉の器皿を備へよノフは荒蕪となり燒れて住む人なきにいたるべければなり 二十 エジプトは至美き牝の犢のごとし蜚蝱きたり北の方より來る 二十一 また其中の傭人は肥たる犢のごとし彼ら轉向てともに逃げ立ことをせず是その滅さるゝ日いたり其罰せらるゝ時來りたればなり 二十二 彼は蛇のごとく聲をいだす彼ら軍勢を率ゐて來り樵夫の如く斧をもて之

にのぞめり 二十三 ヱホバいひたまふ彼らは探りえざるに由りて彼の林を砍仆せり彼等は蝗蟲よりも多して數へがたし 二十四 エジプトの女は辱められ北の民の手に付されん 二十五 萬軍のヱホバ イスラエルの神いひたまふ視よわれノフのアモンとパロとエジプトとその諸の神とその王等すなはちパロとこれを賴むものとを罰せん 二十六 われ彼らを其生命を索る者の手とバビロンの王ネブカデネザルの手とその臣僕の手に付すべしその後かの地は昔のごとく人の住ところとならんとヱホバいひたまふ○ 二十七 我僕ヤコブよ怖るゝ勿れイスラエルよ驚く勿れ視よわれ汝を遠方より救ひきたり汝の子孫をその擄移されたる地より救ひとるべしヤコブは歸りて平安と寧靜をえん彼を畏れしむる者なかるべし 二十八 ヱホバいひたまふ我僕ヤコブよ汝怖るゝ勿れ我汝と偕にあればなりわれ汝を逐やりし國々を悉く滅すべけれど汝をば悉くは滅さじわれ道をもて

汝を懲し汝を全くは罪なき者とせざるべし

第四十七章

一 パロがガザを撃ざりし先にペリシテ人の事につきて預言者エレミヤに臨みしヱホバの言 二 ヱホバかくいひたまふ視よ水北より起り溢れながれて此地と其中の諸の物とその邑と其中に住る者とに溢れあふるべしその時人衆は叫びあの地に住る者は皆哭くべし 三 その逞しき馬の蹄の蹴たつる音のため其車の響のため其輪の轟のために父は手弱りて己の子女を顧ざるなり 四 是ペリシテ人を滅しつくしツロとシドンにのこりて助力をなす者を悉く絶す日來ればなりヱホバはカフトルの地に遺れるペリシテ人を滅したまふべし 五 ガザは髪を剃るの事はじまるアシケロンと其剰餘の平地は滅ぼさる汝いつまで身に傷くるや 六 ヱホバの劍よ汝いつまで息ざるや汝の鞘に歸りて息み靜まれ 七 ヱホバこれに命じたるなればいかで息むことをえんやアシケロンと海邊を攻ることを定めたまへり

第四十八章

一 萬軍のヱホバイスラエルの神モアブの事につきてかくいひたまふ嗚呼ネボは禍なるかな是滅されたりキリアタイムは辱められて取れミスガブは辱められて毀たる 二 モアブの榮譽は失さりぬヘシボンにて人衆モアブの害を謀り去來之を絶て國をなさゞらしめんといふマデメンよ汝は滅されん劍汝を追はん 三 ホロナイムより號咷の聲きこゆ毀敗と大なる滅亡あり 四 モアブ滅されてその嬰孩等の號咷聞ゆ 五 彼らは哭き哭きてルヒテの坂を登る敵はホロナイムの下り路にて滅亡の號咷をきけり 六 逃て汝らの生命を救へ曠野に棄られたる者の如くなれ 七 汝は汝の工作と財寳を賴むによりて汝も執へられん又ケモシは其祭司およびその牧伯等と偕に擄へうつさるべし 八 殘害者諸の邑に來らん一の邑も免れざるべし谷は滅され平地は荒されんヱホバの

いひたまひしが如し 九 翼をモアブに予へて飛さらしむ其諸邑々は荒て住者なからん 十 エホバの事を行ふて怠る者は詛はる又その劍をおさへて血を流さゞる者は詛はる○十一 モアブはその幼時より安然にして酒の其滓のうへにとゞまりて此器よりかの器に斟うつされざるが如くなりき彼擄うつされざりしに由て其味尙存ちその香氣變らざるなり 十二 エホバいひたまふ此故にわれかれを傾くる者を遣す日來らん彼らすなはち之を傾け其器をあけ其罇を碎くべし 十三 モアブはケモシのために羞をとらん是イスラエルの家がその恃めるところのベテルのために羞をとりしが如くなるべし○十四 汝ら何ぞ我らは勇士なり強き軍人なりといふや 十五 モアブはほろぼされその諸邑々は騰りその選擇の壯者は下て殺さる萬軍のエホバと名る王これをいひたまふ 十六 モアブの滅亡近けりその禍速に來る 十七 凡そ其四周にある者よ彼のために歎けその名を知る者よ強き竿美き杖いかにして折しやといへ○十八 デボンに住る女よ榮をはなれて下り燥ける地に坐せよモアブを敗る者汝にきたりて汝の城を滅さん 十九 アロエルに住る婦よ道の側にたちて闚ひ逃きたる者と脫れいたる者に事いかんと問へ 二十 モアブは敗れて羞をとる汝ら呼はり叫びモアブは滅されたりとアルノンに告よ 二十一 鞫災平地に臨みホロンヤハズメバアテ 二十二 デボンネボベテデブラタイム 二十三 キリヤタイム ベテガムル ベテメオン 二十四 ケリオテボツラ モアブの地の諸邑々の遠き者にも近き者にも臨めり 二十五 モアブの角は碎け其臂は折たりとエホバいひたまふ○二十六 汝らモアブを醉はしめよ彼エホバにむかひて驕傲れバなりモアブは其吐たる物に轉びて笑柄とならん 二十七 イスラエルは汝の笑柄にあらざりしや彼盜人の中にありしや汝彼の事を語るごとに首を搖たり 二十八 モアブに住る者よ汝ら邑を離れて磐の間にすめ穴の口の側に

巣を作る斑鳩のごとくせよ 二九 われらモアブの驕傲をきけり其驕傲は甚し即ち其驕慢矜高驕誇およびその心の自ら高くするを聞り 三〇 ヱホバいひたまふ我モアブの驕傲とその言の虚きとを知る彼らは僞を行ふなり○ 三一 この故にわれモアブの爲に咷びモアブの全地の爲に呼はるキルハレスの人々の爲に嗟歎あり 三二 シブマの葡萄の樹よわれヤゼルの哭泣にこえて汝の爲になげくべし汝の蔓は海を踰え延てヤゼルの海にまでいたる掠奪者來りて汝の果と葡萄をとらん 三三 欣喜と歡樂園とモアブの地をはなれ去るわれ酒醡に酒無ら令ん呼はりて葡萄を踐むもの無るべし其呼喚は葡萄をふむ喚呼にあらざらん 三四 ヘシボンよりエレアレとヤハヅにいたりゾアルよりホロナイムとエグラテシリシヤにいたるまで人聲を揚ぐそはニムリムの水までも絶たればなり 三五 ヱホバいひたまふ我祭物を崇邱に献げ香をその諸神に焚くところの者をモアブの中に滅さんと 三六 この故に我心はモアブの爲に簫のごとく歎き我心はキルハレスの人衆のために簫のごとく歎く是其獲たるところの財うせたればなり 三七 人みなその髮を剃り皆その鬚をそり皆その手に傷け腰に麻布をまとはん 三八 モアブにては家蓋の上と街のうちに遍く悲哀ありそはわれ心に適ざる器のごとくにモアブを碎きたればなりとヱホバいひたまふ○ 三九 嗚呼モアブはほろびたり彼らは咷ぶ嗚呼モアブは羞て面を背けたりモアブはその四周の者の笑柄となり恐懼となれり 四十 ヱホバかくいひたまふ視よ敵鷹のごとくに飛來りて翼をモアブのうへに舒ん 四一 ケリオテは取られ城はみな奪はるその日にはモアブの勇士の心子を産む婦のごとくになるべし 四二 モアブはヱホバにむかひて傲りしゆゑに滅ぼされて再び國を成ざるべし 四三 ヱホバいひたまふモアブにすめる者よ恐怖と陷阱と罟なんぢに臨めり 四四 恐怖をさけて

逃るものは陥阱におちいり陥阱より出るものは羂にとらへられん其はわれモアブにその罰をうくべき年をのぞましむればなりヱホバこれをいふ 四五 遁逃者は力なくしてヘシボンの蔭に立つ是は火ヘシボンより出で火焰シホンのうちより出てモアブの地および喧闐をなす者の首の頂を燒ばなり 四六 嗚呼禍なるかなモアブよケモシの民は亡びたり即ち汝の諸子は擄へうつされ汝の女等は擄へゆかれたり 四七 然ど末の日に我モアブの擄移されたる者を返さんとヱホバいひたまふ此まではモアブの鞫をいへる言なり

第四十九章

一 アンモニ人の事につきてヱホバかくいひたまふイスラエルに子なからんや嗣子なからんや何なれば彼らの王ガドを受嗣ぎ彼の民その邑々に住や 二 ヱホバいひたまふ是故に視よわが戰鬪の號呼をアンモニ人のラバに聞えしむる日いたらんラバは荒垤となりその女等は火に焚れんその時イスラエルはおのれの嗣者となりし者等の嗣者となるべしヱホバこれをいひたまふ 三 ヘシボンよ咷べアイは滅びたりラバの女たちよ呼はれ麻布を身にまとひ嗟て籬のうちに走れマルカムとその祭司およびその牧伯等は偕に擄へ移されたり 四 汝何なれば谷の事を誇るや背ける女よ汝の谷は流るゝなり汝財貨に倚頼ていふ誰か我に來らんやと 五 主なる萬軍のヱホバいひたまふ視よ我畏懼を汝の四周の者より汝に來らしめん汝らおの〱逐れて直にすゝまん逃る者を集る人無るべし 六 然ど後にいたりてわれアンモニ人の擄移されたる者を返さんとヱホバいひたまふ〇 七 エドムの事につきて萬軍のヱホバかくいひたまふテマンの中には智慧あることなきにいたりしや明哲者には謀畧あらずなりしやその智慧は盡はてしや 八 デダンに住る者よ逃よ遁れよ深く竄よ我エサウの滅亡をかれの上にのぞませ彼を罰する時をきたらしむべし 九 葡萄

を歛むる者もし汝に來らば少許の果をも餘さゞらんもし夜間盜人きたらばその飽まで滅さん 十 われヱサウを裸にし又その隱處を露にせん彼は身を匿すことをえざるべしその裔も兄弟も隣舍も滅されん而して彼は在ざるなるべし 十一 汝の孤子を遺せわれ之を生存へしめん汝の嫠は我に倚賴むべし 十二 ヱホバかくいひたまふ視よ杯を飲べきにあらざる者もあきを飲ざるをえざるなれば汝はまつたく罰を免るゝことをえんや汝は罰を免れじ汝これを飲ざるべからず 十三 ヱホバいひたまふ我おのれを指して誓ふボズラは詫異となり羞辱となり荒地となり呪詛とならんその諸邑は永く荒地となるべし○ 十四 われヱホバより音信をきけり使者つかはされて萬國にいたり汝ら集りて彼に攻めきたり起て戰へよといへり 十五 視よわれ汝を萬國の中に小者となし人々の中に藐めらるゝ者となせり 十六 磐の隱場にすみ山の高處を占る者よ汝の恐ろしき

事と汝の心の驕傲汝を欺けり汝鷲のごとくに巢を高き處に作りたれどもわれ其處より汝を取り下さんとヱホバいひたまふ 十七 エドムは詫異とならん凡そ其處を過る者は驚きその災害のために笑ふべし 十八 ヱホバいひたまふソドムとゴモラとその隣の邑々の滅しがごとく其處に住む人なく其處に宿る人の子なかるべし○ 十九 視よ敵獅子のヨルダンの叢より上るがごとく堅き宅に攻めきたらんわれ直に彼を其處より趨奔らせわが選みたる者をその上に立ん誰か我のごとき者あらん誰か我爲に時期を定めんや孰の牧者か我前にたつことをえん 二十 さればヱドムにつきてヱホバの謀りたまひし御謀とテマンに住る者につきて思ひたまひし思をきけ群の弱者はかならず曳ゆかれん彼かならずかれらの住居を滅すべし 二十一 その傾圮の響によりて地は震ふ號咷ありその聲紅海にきこゆ 二十二 みよ彼鷲のごとくに上り飛びその翼をボズラの上に

舒べんその日エドムの勇士の心は子を産む婦の心の如くならん

○二三ダマスコの事、ハマテとアルパデは羞づそは凶き音信をきけばなり彼らは心を喪へり海の上に怒懼あり安き者なし二四ダマスコは弱り身をめぐらして逃んとす恐懼これに及び憂愁と痛劬子を産む婦のごとくこれにおよぶ二五頌美ある邑我欣ぶところの邑を何なれぞ棄さらざるや二六さればその日に壮者は衢に仆れ兵卒は悉く滅されんと萬軍のヱホバいひたまふ二七われ火をダマスコの石垣の上に燃しベネハダデの殿舎をこと〴〵く焚くべし

○二八バビロンの王ネブカデネザルが攻め撃たるケダルとハヅルの諸國の事につきてヱホバかくいひたまふ汝ら起てケダルに上り東の衆人を滅せ二九その幕屋とその羊の群は彼等これを取りその幕とその諸の器と駱駝とは彼等これを奪ひとらん人これに向ひ惶懼四方にありと呼るべし三十ヱホバいひたまふハヅルに住る

者よ逃よ急に走りゆき深き處に居れバビロンの王ネブカデネザル汝らをせむる謀略を運らし汝らをせむる術計を設けたればなり三一ヱホバいひたまふ汝ら起て穏なる安かに住る民の所に攻め上れ彼らは門もなく關もなくして獨り居ふなり三二その駱駝は擄掠とせられその多の畜は奪はれん我かの毛の角を剪る者を四方に散しその滅亡を八方より來らせんとヱホバいひたまふ三三ハヅルは山犬の窟となり何までも荒蕪となりをらん彼處に住む人なく彼處に宿る人の子なかるべし

○三四ユダの王ゼデキヤが位に即し初のころヱホバの言預言者ヱレミヤに臨てエラムの事をいふ三五萬軍のヱホバかくいひたまふ視よわれエラムの權能として頼むところの弓を折らん三六われ天の四方より四方の風をエラムに來らせ彼らを四方の風に散らさんエラムより追出さるゝ者のいたらざる國はなかるべし三七ヱホバいひたまふわれエラムをして

その敵の前とその生命を索むるものゝ前に懼れしめんわれ災をくだし我烈しき怒をその上にいたらせんまたわれ剣をその後につかはして彼れを滅し盡すべし 三八 われ我位をエラムに居ゑ王と牧伯等を其處より滅したゝんとエホバいひたまふ 三九 然ど末の日にいたりてわれエラムの擄移されたる者を返すべしとエホバいひたまふ

第五十章

一 エホバ預言者エレミヤによりてバビロンとカルデヤ人の地のことを語りたまひし言 二 汝ら國々の中に告げまた宣示せ纛を樹よ隱すことなく宣示して言へバビロンは取れベルは辱められメロダクは碎かれその像は辱められその木像は碎かると 三 そは北の方より一の國人きたりて之を攻めその地を荒して其處に住む者無らしむればなり人も畜も皆逃去れり 四 エホバいひたまふその日その時イスラエルの子孫かへり來らん彼らと偕に

ユダの子孫かへり來るべし彼らは哭きつゝ行てその神エホバに請求むべし 五 彼ら面をシオンに向てその路を問ひ來れ我らも永遠わするゝことなき契約をもてエホバにつらならんといふべし

〇 六 我民は迷へる羊の群なりその牧者之をいざなひて山にふみ迷はしめたれば山より岡とゆきめぐりて其休息所を忘れたり 七 之に遇ふものは皆之を食ふその敵いへり我らは罪なし彼らエホバすなはち義きの在所その先祖の望しところなるエホバに罪を犯したるなり 八 汝らバビロンのうちより逃よカルデヤ人の地より出よ群の前にゆくところの牡山羊のごとくせよ 九 視よわれ大なる國々より人を起しあつめて北の地よりバビロンに攻め來らしめん彼ら之にむかひて備をたてん是すなはち取るべし彼らの矢は空く返らざる猾き勇士の矢のごとくなるべし 十 カルデヤは人に掠められん之を掠むる者は皆飽ことをえんとエホバ曰たまふ

十一我產業を掠る者よ汝らは喜び樂み穀物を碾す犢のごとくに躍り牡馬のごとく嘶けども十二汝らの母は痛く辱められん汝らを生しものは恥べし視よ國々の中の終末の者荒野となり燥ける地となり沙漠とならん十三エホバの怒りのために之に住む者なくして悉く荒地となるべしバビロンを過る者は皆その禍に驚き且嘯かん〇十四凡そ弓を張る者よバビロンの四周に備をなして攻め矢を惜ずして之を射よそは彼エホバに罪を犯したればなり十五その四周に嚷き叫びて攻めかゝれ是手を伸ぶその城堞は倒れその石垣は崩る是エホバ仇を復したまふなり汝らこれに仇を復せ是の行ひしごとく是に行へ十六播種者および穡收時に鎌を執る者をバビロンに絶せその滅すところの劍を怖て人おの〱其民に歸り各その故土に逃べし〇十七イスラエルは散されたる羊にして獅子之を追ふ初にアッスリヤの王之を食ひ後にこのバビロンの王ネブ

カデネザルその骨を碎けり十八この故に萬軍のエホバイスラエルの神かくいひたまふ視よわれアッスリヤの王を罰せしごとくバビロンの王とその地を罰せん十九われイスラエルを再びその牧場に歸さん彼カルメルとバシヤンの上に草をくらはんまたエフライムとギレアデの山にてその心を飽すべし二十エホバいひたまふ其日その時にはイスラエルの愆を尋るも有らず又ユダの罪を尋るも遇じそはわれ我存せしところの者を赦すべければなり〇二一エホバいひたまふ汝ら上りて悖れる國罰を受くべき民を攻めその後より之を荒し全くこれを滅せ我汝らに命ぜしごとく行ふべし二二その地に戰鬪の喊と大なる毀壞あり二三嗚呼全地を摧きし鎚折れ碎くるかな嗚呼バビロン國々の中に荒地となるかな〇二四バビロンよわれ汝をとるために罟を設けり汝は擒へらるれども知ず汝エホバに敵せしにより尋られて獲へらるゝなり二五エホバ庫を

啓きてその怒りの武器をいだしたまふ是主なる萬軍のヱホバカルデヤ人の地に事をなさんとしたまへばなり 二六 汝ら終の者にいたるまで來りてこれを攻めその庫を啓き之を積て塵垤のごとくせよ盡くこれを滅して其處に遺る者なからしめよ 二七 その牡牛を悉く殺せこれを屠場にくだらしめよ其等は禍なるかな其日その罰を受べき時來れり 二八 バビロンの地より逃げて遁來し者の聲ありて我らの神ヱホバの仇復その殿の仇復をシオンに宣ぶ○ 二九 射者をバビロンに召集めよ凡そ弓を張る者よその四周に陳どりて之を攻め何人をも逃す勿れその作爲に循て之に報いそのすべて行ひしごとくこれに行へそれ彼イスラエルの聖者なるヱホバにむかひて驕りたればなり 三十 是故にその日其壯者は衢に踏れその兵卒は悉く絶されんとヱホバいひたまふ 三一 主なる萬軍のヱホバいひたまふ驕傲者よ視よわれ汝の敵となる汝の日わが汝を罰す

る時きたれり 三二 驕傲者は蹶きて仆れん之を扶け起す者なかるべしわれ火をその諸邑に燃しその四周の者を燒盡さん○ 三三 萬軍のヱホバかくいひたまふイスラエルの民とユダの民は偕に虐げらる彼らを擄にせし者は皆固くこれを守て釋たざるなり 三四 彼らを贖ふ者は強しその名は萬軍のヱホバなり彼必ずその訴を理してその地に安を與へバビロンに住る者を戰慄しめたまはん 三五 ヱホバいひたまふカルデヤ人の上バビロンに住る者の上およびその牧伯等とその智者等の上に劍あり 三六 劍僞る者の上にあり彼ら愚なる者とならん劍その勇士の上にあり彼ら懼れん 三七 劍その馬の上にあり其車の上にあり又その中にあるすべての援兵の上にあり彼ら婦女のごとくにならん劍その寶の上にあり是掠めらるべし 三八 旱その水の上にあり是涸かん斯は偶像の地にして人々偶像に迷へばなり 三九 是故に野の獸彼處に山犬と偕に居り駝鳥も彼處

に棲べし何時までも其地に住む人なく世々ふるに住む人なかるべし 四十 エホバいひたまふ神のソドムゴモラとその近隣の邑々を滅せしごとく彼處に住む人なく彼處に宿る人の子なかるべし○ 四一 視よ北の方より民きたるあらん大なる國の人とおほくの王たち地の極より起らん 四二 彼らは弓と槍をとる情なく矜恤なしその聲は海のごとくに鳴る、バビロンの女よ彼らは馬に乗り戰士のごとくに備へて汝を攻ん 四三 バビロンの王その風聲をきゝて其手弱り苦痛と子を產む婦の如き劬勞彼に迫る 四四 視よ敵獅子のヨルダンの叢より上るが如く堅き宅に攻めきたらんわれ直に彼等を其處より逐奔らせわが選たる者をその上に立ん誰か我のごとき者あらんや誰かわが爲に時期を定めんや何の牧者か我前に立つことをえん 四五 さればバビロンにつきてエホバの謀りたまひし御謀とカルデヤ人の地につきて思ひたまひし思想をきけ群の弱者必ず曳ゆかれん彼必ずかれらの住居を滅すべし 四六 バビロンは取れたりとの聲によりて地震へその號咷國々の中に聞ゆ

第五十一章

一 エホバかくいひたまふ視よわれ滅すところの風を起してバビロンを攻め我に悖る者の中に住む者を攻べし 二 われ簸者をバビロンに遣さん彼らこれを簸てその地を空くせん彼らすなはちその禍の日にこれを四方より攻むべし 三 弓を張る者に向ひまた鎧を被て立あがる者に向ひて射者の者其弓を張ん汝らその壯者を憫まず其軍勢を悉く滅すべし 四 然ば殺さるゝ者カルデヤ人の地に踣れ刺るゝ者その街に踣れん 五 イスラエルとユダはその神萬軍のエホバに棄られず彼らの地にはイスラエルの至聖者にむかひて犯せるところの罪充つ 六 汝らバビロンのうちより逃げいでゝおの〳〵其生命をすくへ其の罪のために滅さるゝ勿れ今はエホバの仇をかへしたまふ時なれば報をそれになした

まふなり○七バビロンは金の杯にしてエホバの手にあり諸の地を醉せたり國々その酒を飲めり是をもて國々狂へり八バビロンは忽ち踣れて壞る之がために哭けその傷のために乳香をとれ是或は愈ん九われらバビロンを醫さんとすれども愈ず我らこれをすてゝ各ゝその國に歸るべしそはその罰天におよび雲にいたればなり十エホバわれらの義をあらはしたまふ來れシオンに於て我らの神エホバの作爲をのべん○十一矢を磨ぎ楯を取れエホバメデヤ人の王等の心を激發したまふエホババビロンをせめんと謀り之を滅さんとしたまふ是エホバの復仇その殿の復仇たるなり十二バビロンの石垣に向ひて纛を樹て圍を堅くし番兵を設け伏兵をそなへよ蓋エホババビロンに住る者をせめんとて謀りその言しごとく行ひたまへるなり十三おほくの水の傍に住み多の財寶をもてる者よ汝の終汝の貪婪の限來れり十四萬軍のエホバおのれを指して誓ひいひたまふ我まことに人を蝗のごとくに汝の中に充ん彼ら汝に向ひて鯨波の聲を揚ぐべし十五エホバその能力をもて地をつくり其智慧をもて世界を建てその明哲をもて天を舒たまへり十六彼聲を發したまふ時は天に衆の水いづるれ雲を地の極より起らしめ電光と雨をおこし風をその庫よりいだしたまふ十七すべての人は獸のごとくにして智慧なし諸の鑄物師はその作りし像のために辱を取る其鑄るところの像は僞の者にしてその中に靈なし十八其等は空しき者にして迷妄の工作なりわが臨むとき其等は滅べし十九ヤコブの分は此の如くならず彼は萬物およびその產業の族の造化主なりその名は萬軍のエホバといふ二十汝はわが鎚にして戰の器具なりわれ汝をもて諸の邦を碎き汝をもて萬國を滅さん二一われ汝をもて馬とその騎る者を摧き汝をもて車とその御する者を碎かん二二われ汝をもて男と女をくだき汝をもて老た

る者と幼き者をくだき汝をもて壯者と童女をくだくべし 二三 われ汝をもて牧者とその群をくだき汝をもて農夫とその軛を負ふ牛をくだき汝をもて方伯等と督宰等をくだかん 二四 汝らの目の前にて我バビロンとカルデヤに住るすべての者がシオンになせし諸の惡きことに報いんとヱホバいひたまふ 二五 ヱホバ言たまはく全地を滅したる滅す山よ視よわれ汝の敵となるわれ手を汝の上に伸て汝を巖より轉ばし汝を焚山となすべし 二六 ヱホバいひたまふ人汝より石を取て隅石となすことあらじ亦汝より石を取りて基礎となすことあらじ汝はいつまでも荒地となりをらん○ 二七 纛を地に樹て箛を國々の中に吹き國々の民をあつめて之を攻めアララテミンニアシケナズの諸國をまねきて之を攻め軍長をたてゝ之を攻め恐ろしき蝗のごとくに馬をすゝめよ 二八 國々の民をあつめて之を攻めメデヤ人の王等とその方伯等とその督宰等およひ

そのすべての領地の人をあつめて之を攻めよ 二九 地は震へ搖かんそはヱホバその意旨をバビロンになしバビロンの地をして住む人なき荒地とならしめたまふべければなり 三十 バビロンの勇者は戰をやめて其城にこもりその力失て婦のごとくにならん其宅は燒けその門閂は折れん 三一 馹は趨て馹にあひ使者は趨て使者にあひバビロンの王につげて邑は盡く取られ 三二 渡口は取られ沼は焚れ兵卒は怖るといはん 三三 萬軍のヱホバイスラエルの神かくいひたまふバビロンの女は禾場のごとしその踏るゝ時きたれり暫くありてその刈るゝ時いたらん○ 三四 バビロンの王ネブカデネザル我を食ひ我を滅し我を空き器のごとくなし龍のごとくに我を呑みわが珍饈をもて其腹を充し我を逐出せり 三五 シオンに住る者いはんわがうけし虐遇と我肉はバビロンにかゝるべしヱルサレムいはん我血はカルデヤに住る者にかゝるべしと 三六 さればヱホバ

かくいひたまふ視よわれ汝の訟を理し汝の爲に仇を復さん我その海を涸かし其泉を乾すべし 三七 バビロンは頽壘となり山犬の巣窟となり詫異となり嗤笑となり人なき所とならん 三八 彼らは獅子のごとく共に吼え小獅のごとくに吼ゆ 三九 彼らの慾の燃る時にわれ筵を設てかれらを醉せ彼らをして喜ばしめながき寝にいりて目を醒すことなからしめんとヱホバいひたまふ 四十 われ屠る羔羊のごとく又牡羊と牡山羊のごとくにかれらをくだらしめん○ 四一 セシヤクいかにして取れしや全地の人の頌美る者いかにして執へられしや國々の中にバビロンいかにして詫異となりしや 四二 海バビロンに溢れかゝりその多の波濤これを覆ふ 四三 その諸邑は荒て燥ける地となり沙漠となり住む人なき地とならん人の子そこを過ることあらじ 四四 われベルをバビロンに罰しその呑たる者を口より取出さん國々はまた川の如くに彼に來らじバビロンの石垣

踏れん 四五 我民よ汝らその中よりいで各ヱホバの烈しき怒をまぬかれてその命を救へ 四六 汝ら心を弱くする勿れ此地にてきく所の浮言によりて畏るゝ勿れ浮言は此年も來り次の年も亦きたらん此地に強暴あり宰者と宰者とあひ攻るとあらん 四七 故に視よわれバビロンの偶像を罰する日來らんその全地は辱められ其殺さるゝ者は悉くその中に踏れん 四八 然して天と地とその中にあるところのすべての者はバビロンの事の爲に歡び歌はんそは敗壞者北の方より此處に來ればなりヱホバこれをいひたまふ 四九 バビロンがイスラエルの殺さるゝ者を踏せし如く全地の殺さるゝ者バビロンに踏るべし 五十 劍を逃るゝ者よ往け止る勿れ遠方よりヱホバを憶えヱルサレムを汝らの心に置くべし 五一 罵詈をきくによりて我ら羞づ異邦人ヱホバの室の聖處にいるによりて我らの面には羞恥盈つ 五二 この故にヱホバいひたまふ視よわがその偶像を罰す

る日いたらん傷けられたる者はその全國に呻吟べし○五三たとひバビロン天に昇るとも其城を高くして堅むるとも敗壞者我よりいでゝ彼らにいたらんとエホバいひたまふ五四バビロンに號咷の聲ありカルデヤ人の地に大なる敗壞あり五五エホババビロンを滅ぼし其中に大なる聲を絶えたまふ其波濤は巨水のごとくに鳴りその聲は響わたる五六破滅者これに臨みバビロンにいたる其勇士は執へられ其弓は折らるエホバは施報をなす神なればかならず報いたまふなり五七われその牧伯等と博士等と督宰等と勇士とを酔せん彼らは永き寢にいりて目を醒すことあらじ萬軍のエホバと名くる王これをいひたまふ五八萬軍のエホバかくいひたまふバビロンの闊き石垣は悉く燬たれその高き門は火に焚れん斯民の勞苦は徒となるべし民は火のために憊れん○五九これマアセヤの子なるネリヤの子セラヤがユダの王ゼデキヤとゝもに其治世の四年にバビロンに往くときにあたりて預言者エレミヤがこれに命ぜし言なりこのセラヤは侍從の長なり六十エレミヤバビロンにのぞまんとする諸の災ひを書にしるせり是即ちバビロンの事につきて録せる此すべての言なり六一エレミヤセラヤにいひけるは汝バビロンに往しとき慎てこの諸の言を讀め六二而して汝いふべしエホバよ汝はこの處を滅し人と畜をいはず凡て此處に住む者なからしめて窮なくこれを荒地となさんと此處にむかひていひたまへり六三汝この書を讀畢りしとき之に石をむすびつけてユフラテの中に投いれよ六四而していふべしバビロンは我これに災禍をくだすによりて是しづみて復おこらざるべし彼らは絶はてんと此まではエレミヤの言なり

第五十二章

一ゼデキヤは位に即しとき二十一歳なりしがエルサレムに於て十一年世をおさめたりその母の名をハムタルといひ

てリブナのエレミヤの女なり二ゼデキヤはエホヤキムが凡てなしたる如くエホバの目の前に惡をなせり三すなはちエホバエルサレムとユダとを怒りて之をその前より棄てはなちたまふ是に於てゼデキヤバビロンの王に叛けり四ゼデキヤの世の九年十月十日にバビロンの王ネブカデネザルその軍勢をひきゐてエルサレムに攻めきたり之に向ひて陣をはり四周に戍樓を建て之を攻めたり五かくてこの邑攻圍まれてゼデキヤ王の十一年にまでおよびしが六その四月九日にいたりて城邑のうち饑ること甚だしくなり其地の民食物をえざりき七是をもて城邑つひに打破られたれば兵卒は皆逃て夜の中に王の園の邊なる二箇の石垣の間の門より城邑をぬけいで平地の途に循ひておちゆけり時にカルデヤ人は城邑を圍みをる八茲にカルデヤ人の軍勢王を追ひゆきエリコの平地にてゼデキヤに追付けるにその軍勢みな彼を離れて散りしかばカルデヤ人王を執へて之をハマテの地のリブラにをるバビロンの王の所に曳きゆきければ王彼の罪をさだめたり十バビロンの王すなはちゼデキヤの子等をその目の前に殺さしめユダの牧伯等を悉くリブラに殺さしめ十一またゼデキヤの目を抉さしめたり斯てバビロンの王これを銅索に繋ぎてバビロンに携へゆきその死る日まで獄に置り十二バビロンの王ネブカデネザルの世の十九年の五月十日バビロンの王の前につかふる侍衞の長ネブザラダンエルサレムにきたり十三エホバの室と王の室を燒き火をもてエルサレムのすべての室と大なる諸の室を燒り十四また侍衞の長と偕にありしカルデヤ人の軍勢エルサレムの四周の石垣を悉く毀てり十五侍衞の長ネブザラダンすなはち民のうちの貧乏者城邑の中に餘れる者およびバビロンの王に降りし人と民の餘れる者を擄移せり十六但し侍衞の長ネブザラダンその地のある

貧者を遺して葡萄を耕る者となし農夫となせり 十七 カルデヤ人またヱホバの室の銅の柱と洗盤の臺と銅の海を碎きてその銅を悉くバビロンに運び 十八 また鍋と火鏟と燭剪と鉢と匙およびすべて用ふるところの銅器を取り 十九 侍衞の長もまた洗盤と火盤と鉢と鍋と燭臺と匙と爵など凡て金銀にて作れる者を取り 二十 またソロモン王がヱホバの室に造りし所の二の柱と一の海と臺の下なる十二の銅の牛を取れりこのもろもろの銅の重は稱る可らず 二一 この柱は高さ十八キユビトなり又紐をもてその周圍を測るに十二キユビトあり指四本の厚にして空あり 二二 その上に銅の頂ありその頂の高さは五キユビトその周圍は銅の網子と石榴にて飾れり他の柱もその石榴も之におなじ 二三 その四方に九十六の石榴あり網子の上なるすべての石榴の數は百あり 二四 侍衞の長は祭司の長セラヤと第二の祭司ゼパニヤと三人の門守を執へ 二五 また兵卒を督る一人の寺人と王の前にはべるもののうち城邑にて遇しところの者七人とその地の民を募る軍勢の長なる書記と城邑の中にて遇しところの六十人の者を邑よりとらへされり 二六 侍衞の長ネブザラダンこれらを執へてリブラに居るバビロンの王の許にいたれり 二七 バビロンの王ハマテの地のリブラにかれを撃ち殺せりかくユダはおのれの地よりとらへ移されたり 二八 ネブカデネザルがとらへ移せし民は左のごとし第七年にユダ人三千二十三人 二九 またネブカデネザルの十八年にエルサレムより八百三十二人をとらへ移せり 三十 ネブカデネザルの二十三年に侍衞の長ネブザラダンユダ人七百四十五人をとらへ移したり其總ての數は四千六百人なりき 三一 ユダの王ヱホヤキムがとらへ移されたる後三十七年の十二月二十五日バビロンの王ヱビルメロダクその治世の一年にユダの王ヱホヤキムを獄よりいだしてその首をあげしめ

DEC 20 1947

三二 善言をもて彼を慰めその位をバビロンに偕に居るところの王等の位よりもたかくし 三三 其獄の衣服を易へしむエホヤキムは一生の間つねに王の前に食せり 三四 かれ其死る日まで一生の間たえず日々の分をバビロンの王よりたまはりて其食物となせり

95-91145

立教大学図書館
95-91145